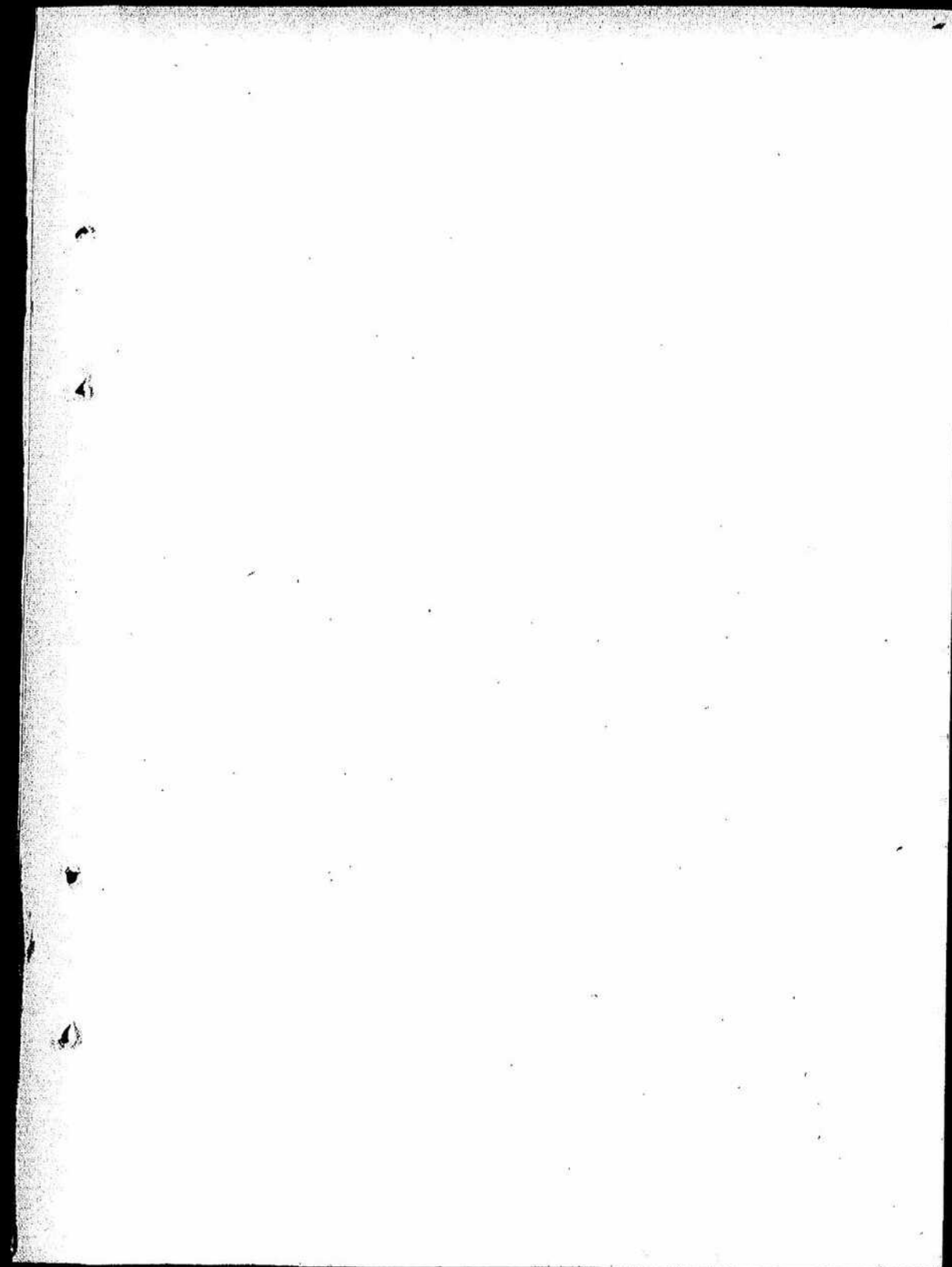


大正二年騷擾事件記録

規画課教養係

国立公文書館	
分類	③ ④
排架番号	3 A
	15
	4-10





4-10

WDC 4
350703

規畫課教養係

大正二年騷擾事件記録

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3 A 15 4-10

裏面白紙

0001

大正二年
騷擾事件記録

前編

目次

一 政友大演說會	一
一 第一回政國兩黨憲政擁護大會	四
一 同志記者外十七團體聯合政談演說會	一八
一 全國青年大會	二二
一 自由黨聯盟會演說會	二七
一 法治俱樂部演說會	三一
一 憲政擁護第二回演說會	三五
一 憲政擁護聯合會	三九
一 憲政擁護青年團演說會	四二
一 立憲日本黨政談演說會	四四
一 憲政作振會演說會	五一
一 大日本青年黨發會式	五四
一 全國青年大會演說會	五九
一 流會也國民大會	六三
一 立憲青年聯合演說會	七〇

一 第三回憲政擁護政談大演說會

大正元年十二月初ノ上原陸軍大臣辭表ヲ捧呈スル
 ヤ越ヘテ西園寺内閣總理大臣ニ亦閣下ニ伏シテ骸
 骨ヲ乞ヒシカハ爾來各元老ハ屢々御前會議ヲ開キ
 テ後継内閣ノ首班タルヘキ人ヲ奏上セントセシメ
 議容易ニ熟セス曠日弥久之ヲ久シウス一部ノ論客
 ハ乃チ此ノ間ニ在テ西園寺内閣ノ總辭職ヲ以テ非
 期ノ横死トナシ元老ヲ推レ閣族ヲ滅スヘシト論ス
 ルモ、漸ク増加シ遂ニ政友會關東俱樂部東京支部
 並ニ院外團ハ十二月十六日午後一時ヨリ日本橋區
 久松町明治座ニ於テ政友大演說會ヲ開催セリ

政友大演說會

聽衆堂ニ滿テ其數約千六百名都下中流以上ノ實業
 其ノ大部分ヲ右ノ頗ル盛會ナリ但シ臨臨ハ之ヲ行
 ハサリキ
 赤尾藤吉郎劈頭開會ノ辭ヲ述ヘ慷慨激越ノ口調ヲ
 以テ官僚ノ横暴跋扈ヲ痛撃シテ「官僚ハ憲法ヲ蹂躪ノ

シ國家ヲ度外視シ國民ヲ侮辱シ 今上陛下ノ御詔ニ
 勅ニ背戾シ皇座ノ宸襟ヲ惱マシ奉リ下國民ヲ塗炭
 ノ若ニ陷ラシメシト計ル不忠不義ノ徒ト言ハスシ
 テ何ゾト絶叫スルヤ衆拍手シテ之ニ酬イ萬口騷然
 トシテ痛罵ヲ極ム次テ伊藤仁太郎井上角五郎松田
 源治江原素六ノ諸氏登壇シ熱烈ノ辨ヲ振イテ憲政
 擁護ノ必要ヲ論シ聽衆感極マリ熱狂シテ拍手喝采
 堂ヲ撼カサントス次ニ菅原傳ハ「國民ノ聲ト題シテ
 輿論ハ尊重スヘク元老閣族ハ之ヲ掃蕩セサル可ラ
 ストテ結々演述スル所ヲリ次テ小久保喜七吉植庄
 一郎杉田定一諸氏ノ演說ヲ終リ最後ニ尾崎行雄起
 ツテ藩閥ノ末路ト題シテ曰ハク「元老ニ忠告ヲ試ミ
 ント欲ス彼等ハ速ニ位記ヲ返上シテ閣地ニ就キ復
 タ決シテ國政ニ容喙セサルヲ要ス云々ト斯クテ年
 後五時演說會ヲ終リ聽衆皆醉ヘルカ如ク萬口闕族
 打破ヲ唱ヘテ散會シメリ之レ實ニ憲政擁護演說會
 ノ嚆矢ナリトス

演說會ニ於ケル言論ノ過激ナル已ニ斯クノ如シ而
モ此ノ状況ヲ江湖ニ紹介スル新聞紙ノ文辭ハ更ニ
是ヨリ甚シキモノアリ十二月七日、中央新聞朝刊
第五面ニハ特ニ一號活字ヲ以テ「我ニ新魔、劍マ」
ト表題ヲ掲ケ更ニ二號活字ヲ以テ「閩族ハ幸徳以上
ノ逆徒ナリ」ト附加セリ演說會場ノ光景ヲ叙述スル
ニ當リ「ハ」……萬口騷然トシテ「山縣ヲ殺セ閩族ヲ
剿滅セヨ」ノ聲到ル處ニ涌キ来ル或ハ聽衆・眼ハ血
走リ拳ハ震ヘ何處ヨリカ囁ミ付ク如ク「閩族ニ爆
彈ヲ與ヘヨ燒ケ斯レ山縣ノ白髮首ヲ刎テヨ」聲急
霰ノ如ク注ギ来ル等筆ヲ極メテ誇大ノ潤色ヲ施シ
急ノニ同新聞ハ發賣頒布ヲ禁セラル、ニ至レリ之
等新聞ノ影響亦今回ノ騷擾ヲ惹起スル一因タルヲ
夫ハナル組織セラレテ青年有志ニヨリテ憲政作振會十
ルモノ組織セラレテ十八日神田青年會館ニ於テ其ノ
發會演說會ヲ開キテ「韓土ハ尾崎行雄田川大吉郎
林毅陸ノ諸氏ニシテ咸ナ陸軍ノ橫暴元兇ノ跋扈官ヲ

豫閩族ノ專斷等ノ惡聲ヲ放チ聽衆ノ感動ヲ惹起セ
シカ十九日ニ至リテ政友國民兩黨聯合ノ名ノ下ニ
憲政擁護聯合大會ヲ歌舞伎座ニ開催セリ

第一回政國兩黨憲政擁護大會

當日代表辨士トシテ名列スルモノ四名曰ク政友
會ノ尾崎行雄曰ク國民黨ノ犬養毅曰ク同志會ノ花
井卓藏曰ク新聞雜誌記者ノ本多精一是ナリ外ニ有
志演說者トシテ名列スルモノ旧自由黨ノ名士大
江幸等ヲ始メテ十有餘名ニ及ビ普ク所謂政黨ノ名士
ヲ網羅セルヲ以テ多數ノ聽衆ヲ呼ビタル亦故ナリ
ニアラズヤレバ午後一時開會ノ筈ナルニ午前十時
頃ヨリ入場者陸續トシテ未タ集シ未タ開會ヲ宣セリ
ルニ場内満員立錫ノ地ナキニ至ル入場者ヨリハ會
費三十銭ヲ徴シ折詰年當正宗一合瓶及大國民共進
紀念號一部宛ヲ交付シタルヲ以テ入場者ハ所ナ
詰ヲ聞キ正宗ヲ仰キ或ハ稍酒氣ヲ帶ビ氣焰ヲ擧ク

ルモノアリ或ハ高談論議ヲ戦ハセルモノアリ場合
雖然然トシテ未タ會ヲ開ラカサルニ當リ殺氣場
ニ充テタリ會スルモノ約二千二百名ヲ註ス本廳ハ
方面監察警視凡山鶴吉ヲ派シテ當日ノ會場ヲ臨監
セシム
午後一時前後ニ至ルヤ場内ノ聽衆盛シニ拍手シテ
開會ヲ促シ喧囂ヲ極ム一時ヲ過クル十五分國民黨
ノ關直彦登壇シテ激越ナル語調ヲ以テ開會ノ辞ヲ
述ヘ杉田定一ヲ座長ニ推ス聽衆中聲ヲ紋リテ座長
ヲ國民黨ヨリ撰ハ大養毅君ヲ出セト叫フモノアリ
場内騷然タル内ニ杉田定一徐々ニ座長席ニ就ク會
場ノ正面舞臺上演壇ノ左右ニハ赤ノ胸章ヲ附シタ
ル發起者幹事ヲ始メ政友會國民黨中知名ノ代議士
院外者席ヲ列ネ殊ニ自由民権運動ノ始祖板垣老伯
カ大江卓ト相並ンテ自聲ヲ振シイカラ榮爾トシテ
著席セルハ異彩ヲ放チタリ
座長杉田定一ハ聯合大會決議案ノ朗讀ヲ宣シ相島

勸次郎即チ左ノ決議案ヲ朗讀シタルニ滿場拍手ヲ以
テ之ヲ迎ヘ聽衆漸ク熱シテ隨所ニ寄書ヲ揚ゲテ
何事カヲ連呼スルモノヲ出スニ至レリ

決議案

開族ノ横暴跋扈今ヤ其ノ極ニ達ス憲政ノ危機目
睫ノ間ニ迫ル吾人ハ斷乎トシテ妥協ヲ排シ開族
政治ヲ根絶シ以テ憲政ヲ擁護センコトヲ期ス

大正元年十二月十九日

既ニシテ第一席ノ演說者トシテ尾崎行雄悠然トシ
テ演壇ニ登ルヤ聽衆ノ拍手喝采一時ニ起リ茲ニ於
テ覆ニ臨場ノ際口々ニ臨監官ノ脱帽ヲ促シタル聽
衆ハ再ヒ「巡查脱帽也」警官脱帽セスト擲ルゾナ
頻リニ怒罵ノ聲ヲ發ス聽衆漸ク鎮マルニ及ンテ尾
崎ハ口ヲ開キテ「本日ノ大會ハ二十年来曾テ觀サル
ノ盛會ナリ之レ一ツニ横暴ナル元老ノ賜物ニシテ
吾人厚ク元老ニ謝セサルヘカラスト先ッ皮肉ノ辭

ヲ以テ元老ヲ攻撃シ所謂閥族内閣ノ横暴ヲ論難ス
ルヤ聽衆中「政友會ニ罪アリ」ト叫フアリ又之ヲ咎ム
ルモノアリ場内靜肅ナラズ次テ桂公ノ内閣組織ニ
關シテ勅語ヲ奉體シタルヲ攻撃シ暗ニ公ヲ袁世凱
ニ比シテ之ヲ非立憲的行動ナリト論シ更ニ桂内閣
ノ内務大臣ニ大浦子ヲ擬シ監視總監ニ川上父ヲ誘
ヒ以テ桃戰的態度ナリト難シ稍々過激ノ論調ヲ用
フ監視總監ヲ論シテ「彼レ川上ハ如何ナル人物ナル
カ曾テ日比谷原頭ニ自ラ馬ヲ進メテ巡查ニ命シテ
自死ヲ拔イテ無事ノ良民ヲ慘殺セシメタル國民ト
共ニ忘ルヘカヲサル人物ニアラズ」ト説クニ及シ
テ聽衆愈々拍手シテ又盛シニ臨監官ニ向ツテ啖罵
ヲ言フ放ツ尾崎ハ論調ヲ改正スハシト主張シ叙述詳
細ヲ盡シ拍手ノ中ニ降壇ス
第二席ノ演説者犬養毅熱誠ナル歎呼ニ迎ヘラレ漂
然トシテ壇上ニ顯ハル「シツカリ頼ムリ」天下ノ名士ク

「犬養毅」シツカリ「ナト」ト口々ニ叫ビ場内雖然トシテ鎮々
マラズ既ニシテ犬養毅開口一番「閥族殲滅」ハ殲ス
スノナキカ爲ナリ閥族ノ横暴今日ニ達シタルハ人
民ニ大責アリ又所謂政黨ニモ大ナル責任アラズン
ハアラズト説キ聽衆中「ソウダ政友會カ悪ルイ」山縣
ノ爺父カ惡ト呼ブモノアリ犬養毅ハ更ニ論歩ヲ進
メテ容易ナル事業ナリトシ「只政黨ノ先輩カ政權ヲ
握ルヲ急カス彼スニ三年ノ日子ヲ以テセハ閥族自
ラ殲ルヘシト説キテ暗ニ政友會ノ長老ヲ戒メ更ニ
軍備擴張問題ニ就テ「政治問題ト軍事問題トヲ混令
スヘカラス余ノ持論ハ經濟的軍備擴張論ナリ」ト説
クヤ「賤賂ナリ」怪イゾト叫フモノアリ最後ニ「要スル
ニ今ハ政友會ヲ解散シ國民黨ヲ解黨シ凡テノ黨員
ヲ野曝ニシテ其ノ内ヨリ純潔ナル有志ヲ抜イテ一
團トナシ國家憲政ノ爲メニ奮闘スル時ナリ諸君ノ
後援ヲ乞フ所以ナリ」論結シテ壇ヲ下ル稍々感動ヲ

與ヘラレタルモノ、如シ
第三席本多精一ハ新聞雜誌記者ノ代表トシテ拍手
迎ヘラレテ演壇ニ上リ憲政擁護運動ノ必要ヲ述
ヘ「柱内閣ハ開族ノ頭目ナリ宜シク議會ノ第一歩ニ
於テ内閣不信任案ヲ提出スヘシ是レ憲政擁護ノ必
然ノ結果ナリ」ト論結シテ下ル
斯クシテ發起者暫時休憩、皆ラ宣セントスルヤ聽
衆中「花井ハドウシタ」花井ヲ出セト叫ビ喧囂ヲ極ム
發起者ハ花井ノ出席シ難キ理由ヲ告ク時ニ佐々木
安五郎微蹙シテ帯ヒテ舞臺後方ノ闇ヲ排シテ頭ハル
ルヤ喧囂スル聽衆ハ「蒙古王々々」ト連呼シ「蒙古王ヤ
ル」ト起シ幹事ノ之ヲ制止マサルヲ以テ佐々木ハ決然身
ヲ起シ怒號ヲシテ「ガ」ラ壇ニ上リ壇上ノコツプニ水ヲ
盛リ一氣ニ之ヲ飲ミ乾シ聽衆ハ變聲ヲ張り上げ諧謔
ヲ交ヘタル比喩ヲ用ヒ巧ニ聽衆ノ歡ヲ買ニ盛ニ拍
手喝采ヲ得要スルニ議員及新聞ヲ監視スル必要アリ

リ諸君奮テ其ノ任ニ當リ今日決議ヲ無効ニスルハ
勿レト説テ下ル時、場内ノ聽衆殆ント酔ヘルカ如
シ
是ヨリハ股動ハ頼極逸振切善兵衛相次テ登壇シ異
口同音ニ憲政ノ危機ヲ説キ擁護運動ノ必要ヲ論シ
次テ伊藤仁太郎壇上ノ先紳士ヲ紹介シテ曰ク「之レ
其ノ昔自由黨ノ名士當時閣族打破ノ爲メニ渾身ノ
力ヲ盡シテシテ今ハ如何ニシテ」ト
士大江山先生ヲ紹介シマスト聽衆再び歡呼ノ聲ヲ
擧ケ熱烈ナル拍手起ル
大江ハ實口貧弱ナル音聲ヲ以テ然レトモ力強く遠
ク北條足利時代ノ武家專制ノ世ノ實情ヲ述ヘ論步
ヲ一轉シテ今ハ恰ニ其ノ時代ニシテ政權ハ上天子
ノ手ニスナク下人ノ手ニシテト説カントスルヤ路監官
ハ突如トシテ「辨士注意ト呼フ満場ノ聽衆中止ト誤
解シテ盛ニ臨監官ヲ罵倒シ喧囂ノ極ニ達ス發起
者中止ニアラス」注意ナリト鎮撫スレトモ鎮マラス

暫クニシテ大江ハ語ヲ次キテ「余ハ只昔ノ歴史ヲ語
リシ迄ナリ免ニ角諸君ノ奮起ヲ望ムト簡單ニ結ン
テ降壇シタリ場内驟然殺氣愈々漲ル
次テ伊東知也登壇シ激越ナル口調ヲ以テ「此所ニ揭
ケタル決議文何ニスルモソ由來決議ハ實行セラ
レタルモノ殆ントアルナシト演説ノ大前提ヲ謂フ
飛衆再ヒ總立トナリ「引込」生意氣ナリ「横山」等口々
ニ罵詈訕伊東頼リニ誤解ヲ解カシト努ムレト又驟
然トシテ聲達セス演壇前ニ起チテ降壇スヘシト意
氣卷クアリ場内一隅ヨリ急遽舞臺ニ走り出テ「退
場スヘシト迫ルアリ臨監官ハ發起者ニ注意シテ一
旦伊東ヲ降壇セシメ喧囂ヲ鎮メタルニ「何ヤレ」ヤラ
セロ」ト叫ビテ舞臺ニ飛ビ上リ降壇セントスル伊
東ヲ引退サントスルモノアリ又之ヲ妨ケントスル
モノアリ舞臺上ノ右員又總立トナリ混乱ヲ極ム臨
監官ハ起チテ之ヲ制シ漸ク鎮靜スルニ及ンテ伊東
ハ「誤解スル勿レ余ハ憲政擁護ノ爲メ最後マテ戦ハハ

ト述ヘテ降壇場内驟然トシテ尚鎮マラサルニ小久保
喜七登壇シ簡單ニ擁護運動ノ必要ヲ説キテ降
壇ル茲ニ於テ發起者菊地武徳開會ヲ宣シ「陛下ノ萬
歲ヲ三唱シ憲政擁護會ノ萬歲ヲ唱ヘテ漸次退散ス
時ニ佐々木安五郎壇ニ上リ一首ノ歌ヲ詠シ青年某
劍舞ガナシ全ク解散シタルハ三時半ナリ」尚當日
満員ノ爲メ入場ヲ得カリシ聴衆ハ續々諸掛ケ場外
ニ溢レ遂ニ高所ニ上リ演説ヲ爲ス者アリ喧騒シ時
々鯨波ヲ作りテ入場セントシタルニ幸ニ大事ニ至
ラス
當日中央新聞夕刊ハ右演説會場ノ光景ヲ叙シテ「聽
衆ハ閣族官僚ノ跳梁ヲ憤リテ種々ニ不穩ノ言動ヲ
爲シ中ニハ山縣ノ老耄ヲ暗殺シテ了ヘ乱臣賊子ノ
生命カ一日長ビケバ夫レバ國家ヲ毒スルノダ云
ト記載セリ之亦誇大ノ筆ヲ弄シテ人心ヲ煽動ス
ルモノト謂フヘレ即チ治安ニ妨害アリトシテ發賣
頒布ヲ禁セラル

十二月二十一日桂内閣成立シ川上親晴氏警視總監
ニ任セラレ次ヲ第二部長小濱松次郎氏第一部長ニ
補セラル

十二月二十八日川上總監ハ本廳ニ各署長ヲ召集シ
テ新任ノ挨拶ヲナシ特ニ時局ニ関シテハ左ノ通り
訓示スル所アリタリ

一警察官吏カ人民ニ接スルニ方リテハ其ノ言語態
度ヲ慎重ニシ其ノ取扱ハ極メテ懇切丁寧ヲ主ト
シ爲シ得ル限り便宜ト満足トヲ與ヘサルヘカラ
サルハ言フ俟タス元来警察ノ任務ガ秩序ヲ保持
シ權利ヲ保護スルニアルヲ以テ反面ニ於テ必ズ
一部ノ自由ヲ制限シ義務ヲ強制スル所アルヲ以
テ動モスレバ之等反感ヲ買ヒ誤解ヲ招キ易キ不
利益ナル地位ニアルガ故ニ言動苟モ當ヲ失シ一
時ノ感情ニ激セラル、カ如キコトアラハ直ニ
批難攻撃ノ標的トナリ或ハ却テ紛擾ヲ惹起スル
ニ至リ一小領事ニ起因スルモノ又延テ警察ノ威
信ニ影響スルコト重大ナルモノアリ慎マサルヘ
カラス殊ニ近時揣摩隱微ノ新聞記事ニ誤マラレ
テ警察事務ノ執行ハ常ニ秋霜烈日ノ如クナラサ
ルヘカラスモ、如ク誤解スルモノアリテ本官ノ最
警察ノ真目的ヲ没却スルモノニシテ本官ノ最
憂フル所ナリ此ノ際一層人民ノ待遇ニ注意シ警
察ノ威信ヲ失墜セサル様努ムヘシ

一行幸路ノ御警衛ニ関シテハ從來夫々嚴密ナル注
意ヲ拂ハレツ、アルハシト信スルモ素ト夫レ警
衛ノ任務タル事皇室ニ關シ警察職務中ニ在リテ
最モ重要ナルモノニ屬シ寸毫ノ微瑕ト雖モ許容
シ難キ重大ナル責任アルモノナリ然ルニ當廳ノ
如ク之ニ從事スルコト頻繁ナル時ハ或ハ之ニ狎
スヘカラス是レ本官ノ最モ憂慮スル所ナリ殊ニ
近來支那ノ結果民心稍ニ亢奮シ居ルノミナラス
時偶々政治季節ニ入レルヲ以テ種々ナル注意人

物ノ窮ニ入京スルモノアルヘキヲ以テ將來御警衛ニ際シテハ其ノ人選ニ注意スルト共ニ常ニ反覆其ノ心得ヲ訓授シ警衛ニ當ルモノヲシテ注意ヲ喚起セシメ尚一面其ノ監督ヲ嚴密ニシテ拝觀人ノ動靜ニ注意シ以テ萬一ノ遺漏ヲオク期セラハシ

次テ湯地官房主事ハ起ツテ政談集會ノ取締ニ就キ詳細指示スル所アリ特ニ過激ナル辨論ニ向ツテハ屢々辨士ノ注意ヲ促シ己ムヲ得ナルニ及ンテ始メテ中止ヲ命スヘキ旨示達シタリ

曆ヲ改メ大正ニシテ新春ヲ迎フ歌舞伎座ノ政談集會以來演說會ノ開催セラル、モノナク新聞紙亦矯激ノ筆ヲ振スルモノ多シト雖モ尚暗流ノ溜々トシテ政界ニ漲ルアリ一月七日政界ニ於ケル浪人ヲ以テ任スル一派ノ團體ハ日比谷公園松本樓ニ於テ浪人會同志大會ヲ開ク午後二時開會シ來リ會スル者大江卓林包明田中舍身古島一雄佐々木安五郎松村村

雄之進伊中知也等七十四名アリ田中舍身ノ開會ノ辭ニ次キ松村雄之進ヲ座長トシ佐々木安五郎左ノ宣言書ヲ朗讀シ滿場一致ニテ之ヲ可決ス

宣言書

誤レル憲政ハ憲政ニ非ス誤レル擁護ハ擁護ニ非ス憲法布カレテヨリ二十四星霜其ノ間憲政ヲ説キ擁護ヲ論スルモノ多クハ妥協ヲ以テ一時ヲ糊塗シ苟合ヲ以テ大局ヲ繙縫スルノミ斯クノ如キハ名ハ憲政擁護ト雖モ實ハ閥族擁護ノミ此ニ於テ閥族根ヲ張りテ官僚威ヲ擅ニシ甚シクハ官中府中ノ別ヲ混亂シ累ヲ皇室ニ及ホシ私禍私威ヲ附援シテ禍ヲ國體ニ貽フス其ノ極ヤ憲政ノ要廢シテ擁護ノ術窮ス是レ豈新ヲ抱キテ火ヲ救ヒ自ラ焦頭爛額ノ災ヲ招ケル者ニ非スシテ何ソヤ我等浪人會此ニ見ルアリ妥協ヲ排シ苟合ヲ作ケ真ノ憲政ヲ要求シ真ノ擁護ヲ主張ス之ヲ議政ノ

府ニ督シ之ヲ選舉ノ場ニ勵マシ馬首一タヒ廻ラシ
テ政界ニ十四聖賢ヲ誤リ来レル這般ノ弊竇ヲ突破
セントス此ノ義ヲ贊スル者ハ我ガ友ナリ此ノ義ニ
反スルモノハ我ガ敵ナリ若シ解散ニ繼クニ解散ヲ
以テシ斯クシテ我ガ友ヲ九地ノ下ニ陥レナハ我等
再選ニ繼クニ再選ヲ以テシ斯クシテ我ガ友ヲ九天
ノ上ニ擧ケン要ハ糊塗ニ非ス糾纏ニ非ス唯夫レ斷
ノ一字ニ在リ語ニ曰スヤ斷シテ行ハハ鬼神モ之ヲ
避クト天下豈我ヲ速ルノ阿原伯山アラシヤ我等此
ニ臂ヲ抱リ天ヲ指シテ俱ニ閥族打破憲政擁護ノ大
義ヲ貫徹センコトヲ期ス
續イテ懇親會ニ移リ小川平吉山口輝正望月圭介伊
藤仁太郎等ノ演說アリ何レモ藩閥攻撃ノ氣焰頗ル
盛ナリ中ニ熊本ヨリ熊々上京シタリト稱スル中村
六藏ナルモノハ起テ演說ヲ試ミ自ラ曾テ熊本ノ
神風連柴鳴會等ニ關係セリト稱シ其ノ論調頗ル慷
慨激越ニシテ頗ラク維新當時ニ於ケル志士ノ覺悟ヲ
示ス

ヲ以テ目下ノ時局ヲ解決セサル可ラスト論シタリ

同志記者外十七ヶ團體聯合政談演說會

一月十四日神田青年會館ニ於テ同志記者外十七ヶ
團體聯合政談演說會開催セラル聴衆約一千餘名其
ノ約半數ハ學生ニシテ幾分商人國ノ者ヲ交フ方面
監察警視得能佳吉臨臨ス
午後一時開會ヲ宣シ工藤鉄男開會ノ辭ヲ述ヘ高橋
秀臣起テ左ノ宣言書及決議案ヲ朗讀ス

宣言書

憲法實施以來己ニ二十四年然ルニ其ノ精神未ダ
實現セス却テ閥族ヲシテ之ヲ無視セシム今ヤ閥
族激リニ聖旨ヲ煩シ誦詔欺是レ事トシ將ニ憲
法ヲシテ紙上ノ空文ヲラシメントス憲政ヲ賊ス
スルモノハ閥族ナリ吾徒ハ先帝憲法發布ノ聖
旨ト今上陛下憲法ニ由ルノ大詔トリ則リ勇往

邁進以テ閣族ノ根柢ヲ拔キ以テ憲政ノ實ヲ擧ゲルニ於テ最善ヲ盡サンコトヲ期ス

決議案(十日松本樓ニ於ケル集會ニ於テ決議セルモノ)

- 一、國民輿論ノ天聽ニ達スル爲メ相當ノ手續ヲ經テ上奏文ヲ捧呈スルコト
 - 二、議會ノ劈頭ニ現内閣彈劾上奏案ヲ提出セシムルコト
 - 三、本會ニ實行委員若干名ヲ置クコト
 - 四、本會ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ方法ヲ執ル
- 各代議士ヲシテ本會ノ決議ニ對スル賛否ヲ言明セシメ以テ他日ノ左券トス
- 本會ノ主旨ニ遵ヒテ行動セル代議士ニ對シテハ議會解散ノ場合極力其ノ再選ヲ期シ應援ヲ爲ス
- 反對代議士ニ對シテハ其ノ選舉區ニ向テ飽クテ反對ノ聲ヲ發シ執ル

次テ山口彈正ハ「正装セル聯合軍ト題シテ頗ル矯激ナル言辭ヲ弄シ閣族ノ橫行跋扈ハ神人ノ共ニ憤ル處ニシテ吾ハ彼レ桂等ノ生首ヲ提ケテ止マズト述ヘントスルヤ臨監官ハ突如起ツテ「辨士注意スハ止ト叫ツヤ聽衆ハ中止ト過リ忽チ喧囂トシテ臨監官ヲ惡罵シ場内騷然トシテ動搖シヤレ」ノ聲熾ニ起ル彼更ニ語ヲ續ケ閣族ハ上ハ天皇陛下下ヲ欺キ奉リ」ト述フルヤ之レ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルノ嫌アルヲ以テ直チニ臨監官ハ注意ヲ與フ彼愕然トシテ稍々躊躇スル所アリシカ更ニ一轉シテ「天皇陛下ノ欽定セフレタル憲法ヲ破壞スルニ至ツテハ國賊ナリト説クニ至リ臨監官ハ更ニ大聲注意ヲ與フル所アリシニ彼即チ遽々然トシテ口ヲ噤シテ壇ヲ降レリ

次テ北佐昌平三輪富十登壇シテ或ハ「閣族ハ所謂政治ノ寄生虫ニシテ憲法政治ノ血ヲ吸フモノナリ」ト絶叫シ或ハ「山縣公等ハ元老ト云ハルモ明治時

代達ハ人エ之ヲ許セシカ大正ノ今日ハ老碌シタレ
ハ元老ト云ハスシテ頑老ト云フハキナリト痛罵ス
次ニ中村六藏ハ維新ノ際國事ニ奔走シテ獄ニ繫レ
憲法發布ノ當時恩赦ヲ受ケ出獄シタル志士トシテ
紹介セラレ壇ニ立ツ曰ク今ヤ閣族勃興シテ憲政ノ
危機ニ至リ而シテ元老等ハ詔勅ヲ請フテ罪ヲ陞
下ニ歸スト突如臨監官ハ之レ皇室ノ尊嚴ヲ演スノ
言辭トイシ大聲注意スル所アリ彼悚然トシテ顔ミ
尚數語ヲ繼續シテ直チニ壇ヲ降ル
次ヲ笠原文太郎兼尾藤吉郎又陸軍ノ橫暴閣族ノ跋
扈ヲ慨シテ熱烈ノ辨ヲ振ヒ續ヒテ高橋秀臣ハ閣族
一同ヲ立憲的死刑ニ處ス云々ノ宣告書ヲ朗讀シテ
諧謔ヲ弄シタリ其他古島一雄伊藤龜雄ノ演說アリ
概シテ藤原松市藏ハ時事偶成一律ヲ得タリト
テ頗ル悲憤ヲ示シテ以テ之ヲ詠シ宮島次郎林包
明ノ演說ハ最後ニ田中弘之立憲政黨ニ政界
ノ腐敗ヲ大ニ青年聽衆ヲ激勵スル所アリ拍
手急霰ノ如ク之ヲ送り斯波貞吉ノ閉會ノ辭ヲ以テ

午後四時五十分散會シタリ
右演說中山口輝正カ人氣取りノ爲ノ好シテ過激
ノ言辭ヲ用ヒタルヲ聽衆ニ感動ヲ與ヘタルコト
大ナラズ其ノ他ノ演說亦極ノテ平調ニシテ概ネ
振ハズ唯順次辨論ノ橋敷ニ赴カントスル一階段
ヲ為シタルニ止マレリ

全國青年大會

大正二年一月十九日正午ヨリ丁未俱樂部有志者之
カ主催トナリ神田青年會館ニ於テ青年大會ヲ開ク
来リ會スル者約七百名ニシテ青年學生其ノ大部合
ヲ占ム方面監察警視松谷先貞臨監ス栗山博先ヲ起
ツテ開會ヲ宣シ青年大會開催ノ趣旨ヲ述フ其ノ要
ニ曰ク
輿論ハ桂内閣ヲ歡迎セス桂内閣ハ非立憲ナレバ
ナリ今ヤ國論沸騰シ政界革新ノ聲盛ナリ吾人有

志ハ此千載一遇ノ好機ヲ捉ヘテ本會ヲ開催セシ
所以ナリ
ト次ニ宮下庄太郎ナルモ登壇閣族打破憲政擁護
ヲ絶叫シ更ニ曰ク「今ヤ議論ノ時代過キテ實行ノ時
機ニ入レリ而シテ之レガ實行ノ方法トシテハ吾人
ハ爆烈彈ヲ投セサルハカラスト臨監官ハ直ニ法
意ヲ與ヘテ其ノ反省ヲ促セリ然ルニ彼何等反省ノ
色ナク直ニ其ノ語ヲ継キテ「吾人ハ更ニゴストルカ飲
用セサルヘカラスト述ヘ来ルヤ臨監官ハ卓ヲ叩ヘ
テ再ヒ大聲辯士注意ヲ呼フ彼達々然トシテ演説ヲ
中止シ降壇セリ次ニ山口源二郎鈴木正吉北澤平藏
堀川直吉野村秀雄猪野毛利榮常田力等ノ徒交々起
シテ或ハ桂公爵川上總監等ヲ攻撃シ憲政擁護閣族
打ノ爲ニハ入監辭スヘキニアラスト云ヒ或ハ暴力
ノ使用ハ正當防衛ノ爲ニハ又止ムヲ得サル場合ナ
ルハシト叫ビ或ハ「二月五日議會開會ノ劈頭吾人ハ
議院正門前ニ整列シテ萬歳ヲ合唱シ次ニ代議士諸君

君ノ光輝アル出陣ノ首途ヲ祝セサルハカラスト提
案シ暗ニ議院附近ニ多衆ノ集合セシムヲ希望セ
ルモノアリ第九席常田力降壇スルヤ栗山博起リテ
北佐昌平ヲ座長ニ推薦シ次ニ猪野毛利榮光ノ宣言
書ヲ朗讀ス

宣言書

閣族官僚ノ徒輩横暴擅恣今ヤ其ノ狂ニ達シ憲政
將ニ危機ニ瀕ス吾人同志ノ青年ハ協心戮力互ニ
憲政擁護ノ責ニ任シ大ニ正氣ヲ鼓舞シ大正維新
ノ中堅トナリ官僚閣族ノ徒ト闘ハントス例ヒ肉
裂ケ骨碎クルモ彼等ヲ劉滅シ眞ニ憲政有終ノ美
ヲ演スニアラズンハ断シテ破邪顯正ノ劍ヲ収メ
ス不宣

大正二年一月十九日 丁未 俱樂部
右朗讀了ルヤ座長北佐昌平九ノ決議文ヲ朗讀ス

決議

我等青年同志ハ左ノ事項ヲ決議ス
一、憲政擁護ノ實ヲ擧クル爲メ議員ヲ督勵シ閥族ヲ打破掃討スルコトヲ期ス
一、政黨内閣ノ樹立ヲ期ス
一、議會解散ノ際ハ立憲的行動ヲ執リタル議員ニ對シテ應援ヲ與ヘ之ニ背反セル議員ハ膺懲スルコトヲ期ス
一、近ク全國青年大會ヲ開クコトヲ期ス
再ヒ演説ニ移リ牧内良太郎吉川義章室伏高信櫻井平太郎比佐昌平五明忠一郎大井靜雄猪股勲井井継志佐藤某高野茂男齋藤德藏栗山崎等順次登壇或ハ政変ノ原因ヲ山縣老公ニ歸シ或ハ桂公ニ詔勅奏請ヲ難シ或ハ憲政擁護閥族打破ハ二十年來ノ宿願ニシテ解決ノ好機今日ヲ措イテ他ニ之レヲ求ムハカラストナシ或ハ此ノ時局ヲ解決スルモノハ吾人青年

年ナリト論シ或ハ地方農村ノ衰微ハ閥族政治ノ罪ナリト断シ或ハ國民黨員ニシテ立憲統一黨ニ走ラントマルモノアルヲ難詰セリ而シテ吉川義章ハ憲法ノ蹂躪ト題シテ桂公ノ憲法蹂躪ノ實狀ヲ憲法ノ條章ニ照シテ說明シ副署ナキ詔勅ヲ奏請スルハ明ニ憲法第五十五條ヲ無視スルモノニシテ實ニ桂ハ天皇ヲ狹シテ天下號令スルモノト放言スルニ至リ臨監官ハ一片ノ注意ヲ與フ又室伏高信ハ憲法上ノ大原則ト題シ憲法上何等ノ根據ナキ元老ナルモノ、國政ニ參與スルヲ非難シ且副署ナキ詔勅ノ効果ヲ論シテ白ク副署ナキ詔勅ハ例令天皇ノ下シ賜ハルモノナリト雖モ憲法上何等ノ價值ナシト而シテ意氣軒昂態度示甚不謹慎ナルヲ以テ注意ヲ加フ其ノ他ハ何レモ注意ヲ受クルコトナクシテ午右四時無事分無事演了セリ
此ノ日辯士ノ數凡テ二十名何レモ青年若輩ニ屬シ知名ノ士ナク其ノ説ク所過激ノ言辭ナキニアラ

ス又 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルヲ如キ不謹慎ノ態度
ナキニアラスト雖モ未タ聽衆ヲシテ熱狂セシムル
ノ程度ニ達セス

自由舊盟會演說會

一月二十三日午後零時五十分ヨリ神田青年會館ニ
於テ自由舊盟會主催ノ政談演說會開カル聽衆約四
百五十名ニシテ學生其ノ大半ヲ占ム辨士ノ多數ハ
旧自由黨時代ニ於ケル老莊士ナリ頗ル熱狂シタル
態度ヲ以テ過激ノ言辭ヲ弄シ臨監官ノ注意ヲ受ケ
ルコト頻々タリ臨監官ノ注意下ル毎ニ聽衆ハ罵聲
ヲ放チ場内爲ニ亂々タリタ
第一席奥藤力雄開會ノ辭ヲ述ベ第二席平山正男ハ
閥族ノ罪惡ト題シ閥族ハ詔勅ヲ濫請シ宮中府中ノ
別ヲ紊リ上ハ陛下ヨリ下ハ六千萬ノ民衆ヲ輕蔑
シ憲政ヲ蹂躪シテ議會ヲ侮會シ泥棒ヲ爲スヲ知リ
テ善政ヲ振クヲ知ラス彼閥族ハ國民ヲ瞞着シ天位
27

ヲ窺フカ如キコトナカラ疑フト述フルヤ臨監官28

ノ注意ヲ受ケ最後ニ吾人ハ生命ヲ賭シテ國家ノ爲
ノ閥族打破憲政擁護ニ努力セサルヘカラスト結ビ
降壇セリ

第三席熊谷法夫ハ天道是耶非耶ト題下ニ非立憲的
政府ノ下ニ在ラハ言語ノ効ナシ吾人ハ決死ノ覺悟
ヲ以テ現内閣ヲ打破シ真正ナル立憲政体ヲ樹立セ

サルヘカラスト述フ
第四席久我懋正ハ閥族ノ暴狀ト題シ後藤連柄桂首
相ヲ攻撃シ閥族ノ暴狀ヲ極ムルコト北條足利ノ比

ニアラスト述フ
第五席ハ大岡秀素ハ我立憲政黨ノ現在將來ト題シ

徒ラニ附和雷同的ニ感情的ニ閥族打破ヲ叫ビ憲政
擁護ヲ唱フルヲ好マスト異リタル見地ヨリ稍々
温和ニ論法ヲ進メントスルヤ聽衆ハ主義ヲ演說
ハ聞カズ辨士引込止メト叫ビ喧々囂々演說ノ防
害セシヨリ中途降壇セリ

第六席 奥藤力雄ハ須ヲ憲政擁護ヲ實行スヘシト
第七席 山口彈正ハ羊頭ヲ掲ケテ狗肉ヲ賣ルト題シ
桂公ハ口ニ立憲ヲ唱フルモ何ゾ行ヒテ非立憲ナル
今ヤ上皇室ヲ蔑シテ下國民ヲ弄ハントス新政黨
組織準備ヲ爲シテカ爲メ皇室ヲ利用シ
臨監官注意ヲ與フ議會ハ停會ヲ命ス之レ憲法
ヲ蹂躪スルモノナリ凡ソ國ノ政治ニ最モ危險ナル
ハ陛下ノ寵愛ヲ蒙ルモノ國政ヲ擅ニスルヨリ
大ナルハナシ臨監官注意ヲ叫フ如斯不忠
者ハ國民ノ力ヲ以テ撲滅セサルヘカラスト述ヘ
壇ヲ降ル
第八席 井出二郎ハ立憲の權力ノ自覺ト題シ我國選
舉界ノ腐敗ヲ慨シ金錢ニ仍テ代議士ノ選舉スル間
ハ閥族ニ乘セラルハナリ大ニ國民ノ自覺ヲ要スト
述フ
第九席 小島高踏ハ時局ト自由黨盟會ト題シ今ヤ吾

人ノ強弱ハ國民ト共ニ關族ヲ打破シ官僚黨ヲ掃蕩ス
スルニ在リ吾々ノ手ニハ爆裂彈アリ臨監官注
意
山縣桂等ノ大頭ヲ例サバルハカラス
臨監注意
由來桂公ハ口ニ巧ナリ新政黨ヲ組織ス
ルニ當リテ又利ヲ以テ各派ノ政骨議員ヲ誘ヒツ
テ此ノ國論ニ反スル政黨ニハ一人ニ赴カサルヘ
シト述フ
第十席 石塚三五郎ハ愚ニサルハ勿レト題シ憲法抑
カレテ愛ニニ十有餘年而モ未タ其ノ實際ヲス現狀
ヲ以テ將來ヲ推ス或ハ將ニ革命ノ起ルナキヲト説
キ臨監官ノ注意ヲ受ケ桂公ハ其ノ青年時代ニ
當リ秋田縣ニテ人ノ妻ト姦通シタリ其ノ妻ハ美人
ナリシ等風俗ヲ壞ルカ如キ言辭ヲ弄ヒ再ヒ臨監官
ノ注意ニ遇フ増師問題ヲ提ケテ一閣僚ヲシテ
肉搏セシメ前内閣ヲ倒シタルハ眞ニ非立憲ノ極ニ
シテ其ノ罪莫大ニ現内閣ノ更迭ハ必要ナリ内閣ノ更迭
受ク

ト共ニ政黨ノ改造ヲ必要トス政黨ノ改造ニハ選舉
民ノ覺悟ヲ望ムトテ壇ヲ降ル
第十一席三井清次郎ハ正義ナル國民ノ憤怒ト題シ
桂公ハ清國ニ於ケル袁世凱ノ如キモノナリ我國ニ
若シ袁世凱ヲ出カハ如何ト述ヘ注意ヲ受ケ更ニ大
浦子桂公ヲ非難シ桂公ノ巨萬ノ財產ハ何處ヨリ持
テ來ルカニ百萬円ノ出所大ニ注意ヲ要スト反覆激
語シ臨監官ノ注意ヲ受ケタリ
久我懋正ハ宣言書ヲ朗讀ス(前出)續テ今人ハ前第四
席ニ於テ閣族ノ暴狀ト題シ述ヘタル又時間ニ制限
セシレテ降壇シタルカ故ニ尙補足スヘシト述ヘ少
時ニシテ降レリ同一ノ辨士カ數回壇ニ起ツテ過激
ノ言ヲ弄マルル如キ決シテ秩序アリ規律アル演說會
ニアラザル知ルヘキナリ午後四時三十分閉會ス

法治俱樂部演說會

一月二十三日午後五時ヨリ神田青年會館ニ於テ法

治俱樂部主催ノ政談演說會ヲ開ク聴衆約千二百名
學生其ノ七合ヲ占ム辨士中二三臨監官ノ注意ヲ受
ケタルモノアリト雖モ態度比較的温和ナリ
第一席眞原文太郎閣會ノ辭ヲ述ヘ桂公カ國務大臣
ノ地位ニ在テ政黨ヲ組織スルハ非立憲ナリニ十一
日ニ於ケル議會ノ辯論亦名目ノ如何ニ拘ハラズ
自己ノ新政黨組織ニ利便ヲ得ンカ爲メ陛下ニ奏
請シタルモノナリ民黨ノ歩調是ヨリ大ニ乱レン吾
人ハ嚴重ナル監視ヲ必要トスルト共ニ一致團結以
テ閣族ヲ根柢ヨリ打破シ憲政擁護ニ努力セサルヘ
カラスト述フ
第二席平澤均治ハ國民ノ覺醒ト題シ皇室ト人民
トノ中間ニ介在シテ兩者ノ親密ナル關係ヲ疎隔ス
ルハ閣族ナリ國家ノ大問題ヲ元老ト称スル小教者
ニ委スルハ萬機公論ニ決スル所以ニアラズ閣族ノ
板扈ヲ防キ之ヲ打破シ以テ先帝陛下ノ五ヶ條ノ
御誓文ノ聖旨ヲ明ニセサルヘカラス

第三席 鶴崎熊吉 偽党撲滅論ト題シ憲政擁護閣族打破ハ今ヤ議論ノ時期ヲ過キテ實行ノ期ニ入レリ桂内閣ハ我々國民ノ敵ナリ彼ハ國家ヲ賊スルモノナリ今ニシテ之ヲ例ヲズンバ我宗國亡ヒンノミトシテ壇ヲ降ル

第四席 曾木實彦 ハ仮面党論

第五席 横山勝太郎 ハ憲政ト権力

第六席 寺田正八 起ソテ偽党ヲ討テ

第七席 藏園三四郎 ハ破壊創設

第八席 伊藤龜雄 ハ桂党ハ偽党ナリ

第九席 入山祐次郎 ハ桂太郎論

第十席 上島長久 ハ疑問、桂党

第十一席 森田義郎 ハ尊皇論ノミト題シテ今日ノ問題ハ政治問題ニアラズ尊皇問題ナリ平時門藤原純友ハ乱臣賊子ノ程度ニ至ラス今ヤ真ノ乱臣賊子ニ近キ者顯ハレントス實ニ政治問題ニアラズ大ニ尊皇論ヲ唱ヘサルハカラサル秋ナリト論シ將ニ臨監

官ノ注意ヲ受ケントシ倉皇壇ヲ降ル

第十二席 赤尾藤吉郎 ハ桂太郎、六大罪惡ト題シ内閣ノ首班ニアリテカラ政黨ヲ組織スルハ非立憲ニ甚シキモノニシテ官権濫用ナリ國民ヲ無視シ憲法ヲ無視シ皇室ヲ無視シ……注意……國民ヲ無視シ帝國ノ國体ヲ瀆シ皇室ヲ無視シ……注意……如斯人物ヲ組織シタル政黨ハ漸々呼トシテ之ヲ破壊セラルヘカラス文那、革命並ニ我々明治ノ維新ハ青年ノ手ニ依テ成功セリ須ラク此際此、時青年ハ其ノ効果ヲ收メトテ壇ヲ下ル

笠原文太郎 ハ聴衆ニ向テ座長ノ推薦ヲ一任セラレシコトヲ請ヒ横山勝太郎ヲ座長ニ推シ横山ハ座長席ニ着キ左記ノ決議文ヲ朗讀ス

決議

桂内閣ハ第三十議會ニ於テ議會開會ニ先タテ會ノ奏請ヲ爲シ以テ議員ノ權能ヲ蹂躪シ帝國憲

法ノ條章ニ悖戾シタルハ不法ノ處置ナリト認ム
大正二年一月二十三日

法 治 俱 樂 部

第十三席平松市藏ハ憲政擁護ヲ以テ足ルト題シ桂
太郎ハ足利尊氏ト異ナル所ナシ……注意……今ヤ
益々横暴ヲ逞フセントス吾人ハ楠氏トナリ將ニ淺
川ニ合戰ヲ試ミントス奮ヘ同志起テヨ同志トシテ
退ク
第十四席工藤鉄男ハ大正ノ新氣運ト題シ支那ノ革
命ハ滿洲朝廷ノ暴政ニ基因ス支那ノ革命ハ青年ノ
手ニ依リテ起レリ吾人青年又奮起シテ國族ヲ倒セ
ト述フ福田和五郎ハ起テ會衆ニ語り天皇陛下
萬歳ヲ三唱シテ降壇セリ午後十時開會ス

憲政擁護第二回演說會

一月二十二日議會ハ十五日間ノ停會ヲ命セラル演
說會漸ク頻繁ニ新聞記事益々矯激ナラントスルニ至

當リ一月二十四日築地新富座ニ於テ第二回政國兩
虎政談演說會ヲ開ク午後一時ノ開會ニ先タ十二
時前既ニ滿員ノ盛況ヲ呈シ後レテ來リ入場スルコ
ト能ハサルモノ頗ル多ク頻リニ入場ヲ迫ラ止マ
其數漸次増加シテ午後一時頃約六七百名ニ達シ或
ハ入口ノ水戸ヲ押破ツテ闖入セントスルニ至ル仍
テ内部ヨリ之ヲ防ギ九太ヲ横ヘ棒ヲ交ヘテ防クト
雖ニ群集容易ニ返ラヌ水戸口ニ至リ頻リニ入場
迫リ或ハ怒號シ或ハ惡罵ス警察官ノ制止殆ント其
効ヲ養セス而シテ辨士及發起人ニシテ入場シ得
サルモノアルニ至レリ發起人一人タル佐々木安五
郎等會場向側ナル茶屋猿屋ノ二階ニアリテ會場ニ
赴カントスルヲ見群集ハ一齊ニ蒙古王ノ像古玉
ヲ出セト絶叫ス斯ル内會場前東端ノ切石ノ積ミ重
ネアル上ニ立チテ演說ヲ試ムルモノアリ之レ即チ
赤尾藤吉郎ナリ終リテ之レニ代リテ武田廣太郎ナ
ルモノ起チ次テ交ルノ演說ヲ始メ群集拍手シ喧

署ス警察官ハ一々制止ヲ爲シ路上演説ハ法ノ禁ス
 ル所ニシテ断シテ不可ナル旨ヲ告クレハ群衆忽チ
 騷然トシテ惡罵怒號シ警察官ヲ壓シ来ル即チ制止
 ヲ肯セサルモハ一々私服巡査ヲシテ尾行セシメ
 機ヲ見テ檢舉引致セシム斯クテ演説ヲ爲スモ約
 十人其ノ状極メテ不穩ナリ内ニ一人職工風ノ男ア
 リ會場札賣場屋根ニ登リ洋杖ヲ振りテ演説ヲ試ム
 ル者アリ警察官ニ於テ之ヲ制止シテ下ラシメントス
 ルヤ群衆ハ再ヒ「ナニヤレ」ト叫ビ殆ント制止ノ
 方法ナシ彼ハ下リテ再ヒ路上ニ横ハレル荷車ノ上
 ニ立チテ演説ヲ試ミ之ヲ制止セラル、又肯セス即
 チ檢舉シタリ
 場内ノ演説會ハ比較的平穩ニシテ三時半開會ヲ告
 ゲ聽衆續々場外ニ出ツルヤ一時稍々混雜ヲ極メタ
 ル又間々ナク退散シ路上演説ヲ爲ス者亦無キニ至
 レリ
 此ノ日屋外ニ於テ演説ヲ爲シ尾行檢舉シタル者八
 37

名ニ及ヘリ内赤尾藤吉郎ハ築地警察署長ニ於テ科
 料處令ニ所シ他、又名ハ治安警察法違反トシテ東
 京地方裁判所檢事局ニ送致シタリ
 外部ノ状況ハ以上ノ如シ會場内ニ在テハ入場料三
 十銭ヲ徴シ折詰及宣言書ヲ交付ス午前十時半頃ヨ
 リ入場者踴リ接シ正午ニ至リ既ニ満員ヲ告ケ無慮
 二千三百ヲ算シテ満場立錫ノ地ナシ午後一時古島
 一雄ノ開會ノ辭ニシテ會ヲ開キ杉田定一ヲ座長
 ニ推ス杉田座長席ニ就キ本日ノ演説會ヲシテ尤モ
 静寂ニ無事ニ終ラセシメントコトヲ切ニ希望スト述
 フルヤ満場拍手ヲ以テ之ヲ迎フ方面監察官九山警視
 之ニ臨監ス座長杉田宣言書ノ朗讀ヲ宣シ菊地武徳
 即チ左ノ宣言書ヲ朗讀シ満場ノ同意ヲ得タリ

宣言書

策ニ本會ノ義ヲ天下ニ唱フルヤ忽チニシテ海内響
 應ス大勢此處ニ至リテハ立憲ノ閣臣タルモノ當ニ

貴ヲ引キテ骸骨ヲ乞フヘキナリ然ルニ現内閣ハ窮
餘政黨組織ヲ標榜シテ立憲ノ体面ヲ装フト雖モ議
會ノ開議ニ先キチ急遽傳會ヲ奏請シ質問ヲ回避シ
テ愧チス議權ヲ蹂躪シテ憚ラス其ノ所謂憲政完美
ノ虚實知ルヘキノミ若シ夫レ閣族ノ黨與ヲ壓シ進
シテ内閣ノ權威ヲ確保シテ元老ノ干政ヲ排シ行政
組織ヲ改革シテ官僚ノ障礙ヲ撤廢スルニ至リテハ
吾人更ニ努力ヲ加ヘサルヘカラス今ヤ國論既ニ定
マリ聯盟奮進ノ期方ニ熟ス愛國ノ士願ハノハ結束
シテ起テ

大正二年一月二十四日

憲政擁護聯合會

第一席尾崎行雄和裝酒々然トシテ登壇シ過去日
本ノ政界ニ於テ長閑ト薩閣ノ横暴ノ事例ヲ引證
シ過去ニ十八年間ノ長々間大隈西園寺兩内閣ノ
外ハ悉ク閣族ナリ是レ我國民ハ薩長人ノ支配ヲ
受テ居ルト同様ナリ閣族政治ハ惡政ナリ故ニ薩

37

サバルヘカラズト説キ傳會ノ非立憲的ナルヲ難シ
進シテ國民ノ立憲的覺醒ノ極メテ必要ナルヲ力説
シ沛々カ如キ拍手ニ送ラレテ壇ヲ下ル
特ニ政友會ノ長老松田正久舞臺ニ躍ハレテ幹事席
ニ着ク古島一雄起ツテ松田正久ハ今茲ニ臨場シタ
ルニ病氣ノ爲ノ演説ヲナスヲ得サルヲ謝スト代
シ大養毅ヲ紹介ス
第二席大養毅ハ強ント熱狂的ノ歡呼ニ迎ヘラレ彼
レノ壇上ニ立ツヤ奇聲ヲ放ツテ謾詞ヲ浴スルモ
多ク暫クシテ漸ク口ヲ閉ギ閣族政治ヲ打破スル爲
メニハ如何ナル犠牲ヲモ辞セサルヘシ之ト同時ニ
黨閣重役閣學閣等一切ノ閣ヲ併セテ討滅セサルハ
カラズト簡單ナレトモ力アル持論ヲ述ヘ更ニ語ヲ
次ギテ此時此際ニ當リテ政府黨ニモ與セス首鼠兩
端ヲ持セサルモノハ尤モ攻撃スルヲ要スト暗ニ國
民黨ノ職黨組ヲ痛罵シテ降壇ス
次テ斯波貞吉山本幸彦佐々木安五郎伊東知也林毅

40

陸鵜澤総明野間五造小林勝氏鈴木梅四郎ノ演説アリ河上元論者大同小異ニシテ閑族ヲ打破スヘシト説キタリ只佐々木ノ演説中桂公ノ新政党カニ十六ナル数字ニ因縁淡カラサルヲ以テ立憲奴々逸ト名付クヘシト説キテ満場ヲ洪笑セシメタルト花井鶴澤ノ演説カ多少異彩ヲ放ケタル外特筆スヘキモノナシ

本日ノ演説會ハ第一回ニ比シテ場内比較的静悄ニシテ喧囂ニ堪ヘサルカ如キコトナカリシト雖も場外ノ群集時ニ鯨波ヲ擧ゲテ突入ヲ試ミ警察官ノ制止ヲ諾セヌ高所ニ上リテ演説ヲナスモノヲ出シ喊聲内部ニ達スルヲ以テ臨監官ハ發起者ニ再三注意ヲ與ヘ開會ヲ急カシメ尚ニ三ノ演説希望者アリシニ古島一雄開會ヲ宣シ杉固定一ノ發聲ニテ萬歳ヲ三唱シテ三時半無事散會シタリ

場外ノ群衆尚一時ハ停滯シテ喧擾セシメ漸ク鎮靜ニ歸シ漸次退散シタリ

憲政擁護青年團演説會

翌二十五日午後一時神田青年會館ニ於テ憲政擁護青年團主催ノ下ニ政談演説會ヲ開ク聴衆頗ル多ク約二千名學生大半ヲ占ム

方面監察官得能警現臨臨ス

辯士ハ青年學生多數ヲ占メ佐々木定一ハ一番やまト題シ長所人タル元老ノ首ヲ切ルコト最モ必要ナルト述ヘントスヤ臨監官ハ道々ニ辯士注意スヘシヲ絶シス彼忽チ語窮シタルカ如ク只今ノ言葉ハ政治的生命ヲ断ツヘシトノ意味ニシテ又他意アルニ非ズトテ降壇シタリ

次ニ寛守三ハ吾人青年ハ正義ノ劍ヲ提テ閑族城ニ向ツテ爆烈彈ヲ投セサルヘカラスト述ヘ臨監官ヨリ注意ヲ與ヘラレ倉皇トシテ退壇シタリ後岡本道壽ハ斯クシテ大正ノ新代トナスト題シ我輩ノ運動ニ應援ヒヨ櫻田門外血櫻ノ如クナルコト遠カラリ

ルハト暗ニ煽動的話調ヲ弄シタルヲ以テ直チ
ニ臨監官ヨリ注意ヲ與ヘラレ間モテ壇ヲ降レリ
其ノ他高橋秀臣松枝徳治等ノ演説終リ眞継義太郎
ハ「前世期ノ遺物ヲ葬レト題シテ桂公ハ幸徳一派ノ
不忠漢ヲ出シ死刑ニ處セリ桂公ニ對シテモ亦死刑
ヲ宣告スルノ要ナキヲ述ヘ来リ直チニ臨監官ヨ
リ警告ヲ與ヘラレテ遠然トシテ壇ヲ下ル
次ニ赤尾藤吉郎ハ「檢舉事件ノ顛末ト題シ昨日新富
座ニ於ケル政談集會ニ際シ屋外ニ溢レタル聴衆ハ
頗ル多ク其狀不穩ナルヲ以テ自ラ第一ニ路上演説
ヲ爲シ群衆ノ鎮撫ヲ計リタルニ圖ラサリキ他ノ演
説ヲ爲シタル者ト同時ニ警察署ニ於テ派調ヲ受ケ
タリ之レ最モ不當ノ處置ナリトテ警察署ノ處置ヲ
攻撃シテ聴衆ニ大ナル感動ヲ與ヘ満堂皆頗ル痛憤
ノ色ヲ浮ヘ警察官ヲ毆クレ殺セ「官僚ノ走狗ヲ遣ッ
ケル等惡罵怒聲至ッサルナリ場内騒然トシテ動搖
ス次ニ佐々木安五郎ハ「政界衛生論ト題シ先以昨日

ノ檢舉事件ニ関シタルコトヲ述ヘ「是探偵政治ノ第一
一着手ナリ即チ天下ノ名士ヲ羅織スル惡辣手段ナ
リトテ警察ノ處置ヲ不當ナリトシテ聴衆ニ訴ヘ更
ニ聴衆ヲ感動セシムルコト頗ル大ナリ聴衆中起ッ
テ演壇ノ下ニ迫リ来ラントスルモノアリ頗ル後
ヲ又田中弘之ハ演説ヲ終リ閉會ヲ告ケテ陛下ノ
萬歳ヲ三唱スルニ當リ聴衆ハ臨監官ニ脱帽ヲ迫リ
場内喧囂トシテ惡罵頻リニ至ル佐々木定一ナル者
起立シ聴衆ニ對シ大聲疾呼シテ曰ク「非國民ナリ」ヤ
以ッケルト怒聲ス警察ニ對スル惡感情ノ激昂セシ
ハ此ノ會ニ於テ殊ニ旺盛ナルヲ見ル之赤尾佐々木
ノ演説ニ依リテ激成セラレタルニ由ルモノト云ハ
サルハカラス

立憲日本黨政談演說會

大正二年一月二十六日午後一時ヨリ神田青年會館
ニ於テ立憲青年黨發會式ヲ舉ケ併テ政談演說會ヲ

間々来リ會スルモ其ノ數實ニ約二千三百階上階
 下立錐ノ地ナク聽衆溢レテ廊下ニ雲集ス蓋シ稀レ
 ニ見ル所ノ盛會ナリ學生約九分ヲ占ム方面監察警
 視梅谷光貞臨監ス臨監官ノ入場スルヤ警官脱帽巡
 査脱帽不敬漢ノ族ノ走狗「ジブ」等、惡罵一時ニ四
 邊ヨリ起リ場内騷然トシテ殺氣堂ニ満ツ
 久保健藏開會ノ併々述ヘ次ニ戸谷一雄座長推薦ノ
 コトヲ宣シ満場一致ヲ以テ梅尾十七生ヲ座長ニ推
 シ座長席ニ就カシム而シテ自ラ役員選舉ノ報告ヲ
 爲シ(役員別紙)次ヲ吉川義章ハ左ノ宣言書ヲ中村六
 藏ハ左ノ決議文ヲ木下三四彦ハ左ノ上奏文ヲ朗讀
 シ以テ立憲青年黨發會式ヲ終リ直ニ政談演說會
 ニ移ル

宣言書

明治維新ノ大改革ハ明治ノ文運ヲ未シ國民ヲシ
 明治維新ノ大改革ハ明治ノ文運ヲ未シ國民ヲシ

出現セシノタリ是レ有史以來、盛観トス蓋シ先
 帝登遐ノ後、乾坤暗慘憂愁悲哀、聲未タ絶ヘス、
 陵土未タ乾カサルニ閥族ハ天下ノ政治ヲ玩弄シ
 横暴僭ヲ極メ紛々タル國政ニ詔勅ヲ濫請シ憲法
 ノ大革ヲ蹂躪ス憲政ノ危機之ヨリ大ナルハナク
 今ニ於テ擁護シ彼閥族ヲ掃蕩スルニ非ラスンハ
 我々憲政ハ示ヘニ島帝國ヲ去ルセ必セリ夫レ出
 耳其ノ革命ハ青年ニ耳其黨ノ手ニ依リ我々明治
 維新ハ草莽微力ノ青年カ熱誠ト流血トニ依リテ
 完成セラル而シテ大正ノ維新ニ際シ偶々政界紛
 叫怨聲野ニ滿ツ此ノ時ニ當リ其ノ匡濟ト革新ト
 ハ立憲日本青年黨ノ責任ニシテ其ノ使命ナカラ
 シヤ是我黨猛然蹶起シテ其ノ實行ヲ期スル所以
 ナリ吾人茲ニ宣ス

決議

一、閥族ヲ打破シ憲政ヲ擁護ス

一偽党ヲ排斥シ偽政治家ヲ膺徴ス
 一各地青年會ト氣脈ヲ通シ政界ノ刷新ヲ圖ルト
 共ニ黨員トシテ代議士其ノ他ノ公職ヲラント
 スル場合ハ極力之ヲ應援ス
 右決議ス

立憲日本青年黨

上 奏 文

草莽ノ臣木下三四彦等誠恐誠惶謹而敬聖文武ノ
 ル天皇陛下ニ伏奏ス
 今ヤ國ヲ舉ゲテ諒闇ノ裡ニアリ民皆憂愁措ク能
 ハサルノ秋ニ當リ閣族ハ橫暴其ノ威ヲ振ヒ憲法
 上何等權能ナキ元老ハ濫リニ大政ニ干涉シ公爵
 桂太郎ハ常侍輔弼ノ大任ヨリ出テ内閣ヲ組織シ
 宮中府中ノ別ヲ混淆シ一進一退詔勅ヲ仰々爲メ
 ニ家謀ヲ恣シ奉リ政累ヲ皇室ニ及ホシテ陛下
 ノ神聖ヲ冒シ奉ル運々ハ非立憲的ニ議會ヲ停會セ

シ皇威至ラサルナシ今ニシテ其ノ非違ヲ匡シ立
 憲ノ大義ヲ明ラカニスルニ非スシハ延テ禍ヲ後
 世ニ致スノ虞シアリ希クハ臣等哀情ノ存スル所
 ラ憫シ聖鑑ニ垂レ給ハンコトヲ臣三四彦等誠恐
 誠惶
 頌 首 首 拜

當日ノ辯士ハ高木岩吉、東武木下成太郎、戸谷一雄、中
 村六藏、赤尾藤吉郎、中村英雄、三輪富十、林毅、陸林、包明
 等ノ徒ニシテ殆ント何レモ閣族打破憲政擁護ヲ標
 榜シテ憲政ノ危機ヲ絶叫シ詔勅ノ濫請馬車供奉政
 權濫用議員買収等ヲ理由トシ誇大不穩ノ言辭ヲ弄
 シ口ヲ強メテ桂公ヲ攻撃シ其ノ熱烈ノ辨其ノ激越
 ノ語調其ノ狂暴ノ態度ハ一々聽衆ノ喝采ヲ博シテ
 拍手急震ノ如ク頻リニ至リ聽衆亦不穩不愾ノ言語
 ヲ發シテ辯士ト相應ス新士熱シテ已レテ忘レ聽衆
 亦怡々酔ヘルカ如ク熱狂ノ高潮ニ達セルヲ覺エ而

シテ其ノ辨論ノ最モ過激ナルモ、ハ赤尾藤吉郎及
三輪富十トス赤尾ハ憲政危機ト題シ桂公ノ罪惡ヲ
數ヘ桂公ヲ以テ我カ刑法規定スル所ノ皇室ニ對
スル大不敬罪並ニ朝憲紊亂ノ政治上ノ大罪ヲ犯セ
ルモノトナシ更ニ之ヲ斷シテ曰ク「實ニ彼ハ不忠不
義ノ大逆賊ナリ」未タ彼ノ如ク不臣ノ徒ヲ見シ彼ハ
亂臣賊子ナリ」彼ヲ亂臣賊子ト云ハツシテ何カ私
臣賊子ト云フヘキト而シテ斯ノ如キ不穩ナル言辭
ヲ繰リ返スコト實ニ幾回ナルヤヲ知ラズ而テ其ノ
語氣ヤ激越其ノ態度ヤ暴戾ナリ
臨監官ハ遂ニ三回ノ注意ヲ呼フ彼ハ更ニ進ンテ「軍
人カ戰場ニ戰死スルカ如ク吾人ハ政治運動ノ爲メ
ニ身体ヲ抛テ生命ヲ賭シテ其ノ本命ヲト説キ来ル
ヤ臨監官更ニ注意スル所アリシヲ以テ彼ハ「満場ノ
諸君」此ノ大決心ヲ以テ憲政ノ擁護ニ當ランガ
ヲ希望ス」一言ヲ歟シテ降壇セリ
三輪富十ハ「蕃族ノ掃蕩ヲ期セヨ」ノ演題ヲ掲ゲ關族

ノ横暴ヲ極論痛撃シタル後大臣暗殺ノ方法ヲ洞示セ
セリ彼曰ク大臣ヲ斬ル日本刀アリ出又包丁アリ西
野文太郎ハ出忍包丁ヲ以テ「ト臨監官乃チ大喝一聲
注意ヲ如フルヤ彼臨監官ノ注意ヲ加ヘタルノ不當
ヲ喝スコト頻リナリシト雖モ稍々論調ヲ柔ケテ漸
ク演了セリ
此ノ日辨論頗ル激烈ニシテ聽衆ノ感興亦其ノ極度
ニ達ス而シテ辨士ニシテ大逆賊或ハ亂臣賊子等ノ
激語ヲ連呼スルモノアリ言論界ノ形勢甚ダ不穩ナリト
云フハヤナリ
午後四時五十分開會ヲ告ケ會衆退散セントスルヤ
赤羽隆沼ナルモノ青年會館正面ノ石壇上ニ登リテ
演説ヲ開始シタルヲ以テ會衆再ヒ歩ヲ緩メ拍手シ
テ之ヲ迎ヘ事態將ニ容易ナラザラントスルモノアリ
ルヲ以テ直チニ注意ヲ與ヘテ演説ヲ中止セシメ無
事散會スニ至レリ



憲政作振會演說會

一月二十七日午後六時ヨリ神田青年會館ニ於テ憲
政作振會ノ主催ニ係ル政談演說會ヲ開ク聽衆ハ續
々詰メカケ開會既ニ滿員ヲ告ケタリ次ニ辨士席梯
子彼等迄立錫ノ餘地ナリ遂ニハ演壇ニサハ十數人
押上クルニ至レリ聽衆無慮二千五百名學生其ノ大
部分ヲ占ム開會後押カケ来レル聽衆ハ陳ヲ求メテ
侵入セシトシ館ノ周圍ヲ幾重ニ又取り圍ミテ去ラ
ントモセス三回マテ又硝子窓ヲ打破リ館外ノ喧囂
ハ場内ノ演說ヲ妨害シ館内館外互ニ罵聲ヲ交換シ
テ一時ハ頗ル喧擾ヲ極メタルモ暫時ニシテ取締ノ
結果沈靜ニ歸スルヲ得タリ聽衆頗ル熱狂シテ辨士
ノ過激ノ言辭ヲ歡迎シ熱語ヲ聞ク毎ニ喝采切リニ
止マス聽衆中ヨリ時々最後ノ手段ニ訴ヘ「爆烈彈」
議論ノ時期ニアラス實行ノ時ナリ「撲滅」破壊等ノ激
越ノ語句ヲ放ツアリ比較的穩健ナル演說ハ故ナシ

妨害シテ降壇ヲ促シ若シ一步ヲ誤ラハ如何ナル紛糾
擾ヲ惹起センカヲ想ハシタリ
第一席花井卓藏ハ無題トシテ今日開族官僚、徒カ
跋扈スルニ至レルハ先年米政友會ヲ繰リ返シ来レ
ル妥協又ハ情意投合具ノ備ヲ作ルモノナリ然レト
モ今日ハ既往ノコトヲ彼是論議スヘキ時ニアルス
今日ノ新氣運ハ政界革新ノ好機ナレハ熱心協力憲
政擁護國族打破ニ盡クレシコトヲ望ムト述ハ
第二席堀切善兵衛ハ「若キ人々ノ時代」
第四席井芹繼志ハ「桂公ノ誠意ヲ疑フ」
第五席緒股勲ハ「民黨合同ノ機」
第六席松林治義ハ「桂カ覺ケ」
第七席伊藤龜雄ハ「無用有害ノ桂黨」
第八席北佐昌平ハ「革新ノ機」
第九席野村秀雄ハ「立憲政治ヲ打破セヨ」
第十席副島義一ハ「憲政ト青年ト題シ今日絶叫スル
憲政擁護ノ聲ハ桂内閣ヲ憲法ノ條文ニ違反セル施

政ヲ爲スカ故ナリ桂内閣ハ輿論ノ反對ヲ受ケ尙且
之ヲ持續セシカ爲メ目下新政党ヲ組織セントシツ
ツアリ今日ノ青年ハ大ニ元氣ヲ要スルニ遂行スハ
カラス大ニ奮起スハシト論シ
第十一席中村耕堂ハ「現状打破」
第十二席阿保次郎ハ「青年ノ決心」
第十三席岡本一雄ハ「断ノ一字ト題シ、今ヤ議論ノ時
代ハ既ニ過キテ實行ノ時機ナリ只断アルノミ國民
ハ一致團結以テ國族ニ當ラサルヘ、カラズ余ハ既ニ
死ヲ決セリ能ク我ヲ顔ヲ記憶セヨト述ヘ臨監官ノ
注意ヲ受ケタリ
第十四席森田義郎ハ「討關ノ血祭リ」ト題シ「吾々青年
ハ一舉先ツ河野廣中ヲ切レト述ヘ注意ヲ受ク
第十五席寺田四郎ハ「嗚呼源三位ナキト云フ題下
ニ專横極マル開族カ我憲法ヲ蹂躪スルニ當リテ我
々此處ニ一大革命ヲ起サバハカラスト述ヘテ臨
監官ノ注意ヲ受ケタリ

第十六席佐々木安五郎ハ「民軍ノ勝利」ト題シ桂内閣
ハ探偵政治ナリト攻撃シ先年日比谷事件起ルヤ余
ハ検事ノ召喚ヲ受ケタリト當時ノ状況ヲ述ヘ暗
ニ再度ノ日比谷事件ヲ煽動スルカ如キ口調ヲ以テ
セリ熱狂セル聽衆ハ喝采止マズ若シ証人アリテ余
ヲ罰スルナラバ伏罪セン而シテ佐々木安五郎ハ都
下ニ百萬ノ民衆ノ代リニ斷頭臺ニ消ニルニ六々ト
述ヘ臨監官ノ注意ヲ受ケタリ例ニ依リテ聽衆ハ警
察官ヲ罵ル二月五日不信任案ニ賛成シ置キテ解散
後當選シタル議員ノ行動ハ監視ヲ必要トス是等代
議士ヲ督勵シ國政刷新ノ爲メ今ヤ青年ノ躍起奮闘
ノ秋ナリ青年諸氏努力セヨトテ降壇ス午後十一時
閉會ス

大日本青年黨發會式

青年結党頻々タル時ニ當リ一月二十八日神田青年
會館ニ具、發會式ヲ舉ク來リ會スルモノ約七百名

多クハ青年學生ニシテ入場料五錢ヲ徴ス午後一時
三十分前田郁開會ノ辨ヲ述ヘ横矢球男宣言書ヲ朗
讀シ川浪莊之助決議文ヲ朗讀シ滿場ノ同意ヲ得次
ニ笹原文太郎五ヶ條ノ御誓文ヲ朗讀ス之ヲ以テ今
ク式ヲ終リ辨士ノ演說ニ移ル宣言書及決議文左ノ
如シ

宣言書

立憲政治ハ多數ノ政治ナリ憲法ノ精神ハ天皇
ノ御信任ガ直接多數ノ決ニ下ルニアリ故ニ立憲
政治ハ即チ君民一体ノ政治ナリ國民自治ノ政治
ナリト云ハサルヘカラス熟々現時ノ時局ヲ見ル
ニ天皇ト臣民トノ間ニ一ノ障礙ノ在リテ天
皇ノ御信任ハ直ニ多數ノ決ニ下ラス憲法ノ精神
ハ今ヤ全ク蹂躪セラレ了ラン又吾人ハ天皇ト
臣民トノ中間ニ介在シテ聖天子ノ聰明ヲ覆ヒ奉
ル閥族ノ遺徒ヲ討滅セサルヘカラス宮中府中

ノ別ヲ乱レ濫リニ國家ノ大政ニ干與シ國民輿論
ヲ無視シ内閣組織ノ能力ナキニ拘ラス至尊
ノ大命ヲ拜ン反覆詔勅ヲ請フヲ纔ニ一時ヲ糊塗
シ議會ノ大勢已ニ非ナリト見ルヤ故ナク議會ヲ
停會シテ新黨組織ノ仮面ヲ被リテ一時ヲ瞞過セ
ントス憲政ノ賊ト謂ハスシテ何ソヤ苟モ憲政ヲ
現實シ閥族ヲ討滅セントセハ國民ハ先ツ政治的
ニ覺醒セサルヘカラス吾黨ハ茲ニ大聲疾呼シテ
國民ノ政治的智識ヲ啓發シテ大ニ真憲政實現ノ
警鐘ヲ乱打シテ天下同志ノ士請フ来リ會セヨ
シメントス天正維新ヲ始メ終アルモナラ
大正二年一月二十八日
大日本青年黨

決議

一、偽黨ヲ撲滅シテ憲政ノ實現ヲ期ス
一、桂内閣總理大臣ヲシテ辭職ヲ餘儀ナクセシム

ルコト
一、政談非政談ノ區別ヲ撤廢セヨ
一、我党ノ決議ノ趣旨ニ向ツテ盡力シタル議員ニ
對シテ議會解散ノ場合ニ於テ其ノ再選ヲ期ス
ルコト

右決議ス
大正二年一月二十八日

大日本青年党

第一席笠原文太郎ハ「閣族ハ青年ノ仇敵ナリト題シ
テ閣族ヲ敗政々策ヲ誤リ國家ヲ窮乏ニ陥レタリト
強辯シ生活難就職難ハ閣族ノ罪ナリト論シ試験制
度ヲ攻撃シ青年學生ニ歡迎セラレテ壇ヲ下ル
第二席ハ「青年ト憲政擁護ト題シ平沼均治ノ穂健ナ
ル演説アリタル後ニ
第三席石田友治ハ「地方青年ト憲政ト題シテ秋田縣
民大會ニ於ケル地方青年ノ態度ヲ述ヘ更ニ地方青
年トノ質問應答ノ一節ヲ説キ「桂公ハ政黨組織シテ

將ニ善政ヲ布カントスルハ實ニ問ニ對シテ下ノ如ク
答ヘタリト稱シテ述ヘテ曰ク「身苟モ責任アル
國務大臣ニアリナカラ辱々詔勅ヲ請ヒ畏クモ一
天萬象ノ君ヲ欺キ玩弄視シ奉ルカ如キト曰ハント
スルヤ臨監官ハ辨士「注意ヲ促ス辨士猶々逡巡シ
テ「若シ斯ノ如キコトアラハ善政モ何モ出来タル
モノニアラス桂公ニ憑ラントスルハ斷シテ不可ナ
リト答ヘタリト次ニ第二問ニ移リテ陣壇セリ
續イテ平松市藏「青年ト老人ト工藤鉄男「青年ノ政治
運動伊藤藤雄「腐爛漢ト桂公石橋貞雄「滿蒙問題
ノ真相茅原康太郎「暗中飛下田中弘之「悔悟セヨ
憲政ノ前科者佐々木安五郎「勤王討關曾木實彦ノ
輿論ノ威力及最後ニ高橋秀臣「大日本青年黨員ニ
望ムト題スル演説アリテ議會シタルハ午後五時半
ナリキ
各辨士異口同音ニ政治運動ノ為メニ青年ノ覺醒ス
ハキヨ説キ中ニハ奇激ノ論理ヲ用ヒタルモノナキ

アラスト雖モ大體ニ於テ氣焰擧ラス而シテ高橋秀臣ノ演說中治安警察法ニ關スル解說ハ誤解セル節多カリシヲ以テ臨監官ハ開會後高橋ヲ別室ニ招キ其ノ誤解ノ實ヲ指摘シテ注意ヲ與ヘタリ
二月四日眞經義太郎ハ「慨世憂國興民討賊ノ歌」ナルモノヲ作りテ連報臨時増刊トシテ發行發賣ス其ノ内容極メテ矯激ナリ曰ク「討てよ元老倒せよ開族憲政をみする民の仇すなり抜いたる劍ヲ手前倒せ開族根本を正すト之亦犯罪ノ教唆煽動ト見ルヘキナリ即チ治安ヲ害スルモノトシテ差押ヲ執行セラル

全國青年大會演說會

第一回停會後ノ開會日タル二月五日ニ先ツコト一日即チ二月四日午後六時ヨリ丁未俱樂部主催ノ下ニ全國青年大會ヲ神田青年會館ニ開ク聽衆約千八百名學生九分ヲ占メ方面監察警視得能佳吉臨監ス比佐昌平開會ノ辞ヲ述ヘ大井靜雄座長席ニ着キ栗行

山博ハ左ノ宣言書決議文ヲ朗讀シテ満場ノ同意ヲ得タリ即チ

宣言

開族ノ橫暴私曲官僚ノ擅恣奸策今ヤ其ノ極ニ達ス人心爲メニ垂キ天下ノ爲メニ怒ム然ルニ何事ゾ政界ノ蠱華陰ニ開族官僚ノ門ヲ叩キ策ヲ献シテ國民ヲ賣ラントス憲政ノ危機間髪ヲ容レズ茲ニ於テ吾人同憂ノ青年ハ正義公道ノ旗幟ヲ樹テ破耶蹶正ノ劍ヲ提ケ官僚ノ牙城ニ肉薄シ開族鐵壁ヲ破ラント欲ス鉄鎖骨ヲ挫キ鮮血流レ何ヲカ爲スト雖モ憲政ノ美果ヲ収メスハ斷シテ活殺ノ及ヲ収メス

決議

一國民ノ政治的覺醒ヲ促進スルコト
一開族ヲ打破シ責任内閣ヲ樹立スルコト

意見書

桂内閣ハ民意ニ副ハサル内閣ナルコトハ國民ノ
期スル處貴院ニ於テハ開會劈頭諱勅上奏案ヲ議
決相成度此故竟見テ陳シ候也

大正二年二月五日

衆議院議員 殿

因ニ記ス發起人等ハ後日ニ至リ當日會場タルヘキ
國枝館カ其貸付ヲ拒絶シタル官權ノ壓迫ナリト
公言セリト雖モ右ハ發起人等カ承諾ヲ經スシテ板
垣伯ノ名義ヲ利用シテ館ノ借受ヲ交渉シタルコト
館主ノ知ル所ナリ絶体ニ貸付ヲ肯セザリシト云

二月五日院外ノ状況

第一回停會ノ期間ハ經過シテ二月五日再ニ議院開
會ノ期ハ未レリ傍聽人頗ル多ク傍聽券ヲ有シナカ

凡ハ議院開會ノ期ハ未レリ傍聽人頗ル多ク傍聽券ヲ有シナカ

シテ頻リニ入場ヲ迫リ受付入口ニハ同シクハ
名ノ人民集合シテ代議士ニ面會ヲ求メテ傍聴券ヲ
得ントスルニアリ頗ル混雜ヲ極ム但シ門内ハ議
長ノ職權ニ属スルヲ以テ散ヲ取締ニ意ヲ用ヒス專
ラ通門外道路ニ交通取締巡查ヲ配置シテ佇立ス
ルコトナカラシメタリ尙側内幸町埋立地ニ約ニ
三百名群集シタルニ始メハ極メテ靜穏ナリタ
傍聴券ヲ有シナカラン場シ得サル群集ハ口々ニ喧
ヤツ、傍聴人入口ニ押シ寄セ院内派遣警察官ノ制
止ニ反抗シ衆議員守衛ノ説諭ニ服セズ喧々囂々タ
リ群集中一人ノ酈酈者アリ怒號シテ入場ヲ強要シ
或ハ戸ヲ破ツテ闖入セントスルニ至ル派遣警部小
泉仲三郎漸クニシテ之ヲ鎮撫シ入口ノ階段ヲ下ラ
シム彼門外然テ柵ニ上リテ埋立地内ノ群集ニ對シ
演説ヲ試ミントシ群集悉ク手歡呼シテ之ヲ迎ス取締
警察官之ヲ制止シタルニ彼一旦柵ヲ下リ更ニ再ヒ

隙ヲ見テ演説ヲ試ム因テ私服巡查ヲシテ彼ニ尾行
 セシメ後檢學シタリ斯ル内通用門僑ヲナル新聞記
 者俱樂部樓上ヨリ窓外ニ手ヲ伸ヘ貼紙ヲ爲シタル
 者ノアリ之ヲ見レハ即チ「民軍二百六十四團族ノ徒
 僅ニ九十七民軍大勝利ト大書セリ」然ルニ狀ヲ呈
 之ヲ見拍手喝采シテ止マズ俄カニ驕然タル狀ヲ呈
 シ未ル次ヲ又貼紙ヲナス曰ク「元田氏演説中ナ
 リ」暫時ニシテ再ヒ「尾崎氏攻撃演説ヲ爲シ茲公ハ萬
 シヤ答辯中ナリ」トノ貼紙ヲ爲ス其都度群衆ハ熱狂
 シテ歡聲ヲ發シ怒聲罵ス其狀頗ル穩ナラス且
 ツ群衆ハ益々増加シテ遂ニ五六百ノ大集團トナレ
 リ
 茲ニ於テ取締警察官ハ其ノ舉動不穩ナルヲ以テ守
 衛長交渉シ貼紙ヲ禁止シ之ヲ止メント計リタル又
 新聞記者等之ヲ肯セズ更ニ二時三十分頃再ヒ「解散
 ナル貼紙ヲナシ且一人ノ者窓外ニ顔ヲ伸ヘテ曰ク
 「諸君ハ正門前ニ至リ退院議員ヲ歡迎スヘシ」ト即チ

群衆ハ疾驅シテ正門前ニ至ル其ノ狀頗ル急激不穩
 ニシテ大河ノ一時ニ決スルカ如ク少數ノ警察官ヲ
 以テシテハ到底制止シ得可クモアラヌ殊ニ約千名
 ニ餘ル傍聴人亦之ニ加ハリ議員門前道路ハ忽チ數
 千ノ群衆ヲ以テ充滿シ双手ヲ舉ケテ萬歳ヲ絶叫ス
 恰モ狂ヲカ如ク其ノ狀頗ル癡亂ヲ極ム屋々正門前
 ニ迫リ来リ門内ニ闖入セントシ多數ノ取締警察官
 ハ盡ク門前ニ壓迫セラレテ又如何トモスハカラス
 院内取締警察官聲ヲ啞ラシテ手真似ヲ以テ彼等ノ
 侵入スルヲ遮リ頗ル防禦ニ苦ソリ
 此ノ時院内樓上張出ルニ數十ノ人立テ出テ此ノ
 狀ヲ望見シ達ニ之ト相應シテ歡聲ヲ發シ或ハ手節
 ヲ振リテ之ニ答ヘ或ハ双手ヲ舉ケテ之ニ聲援ス門
 外ノ群衆益々勢ヲ得喧囂シテ勦攘シ其ノ狀真ニ狂
 瀾怒濤ノ打チ寄スルニ似タリ
 斯ノ間ニ院内ヨリ退院議員ノ正門ヨリ出テ来ルヲ
 リ衆ニ對シテ歡聲熱語殆ント聞ノ湧クカ如ク一

齊ニ押シ寄せ来リ交通杜絶シ進ムコト能ハス一隊
 ノ警察官ハ群衆ト塙外溝渠トノ間ニ併立シテ漸ク
 一間餘ノ通路ヲ造リテ通行ノ便ヲ與ヘソリ院内樓
 上ノ張出ル群衆ハ時々大聲ヲ叫シテ曰ク「今ノハ
 民党ノ議員ヲソラ官僚ノ奴ヲ出タシ」政友會ノ幹部
 カ出ルカラ聲援ヲ與フヘシト之ヲ聞ケル門外ノ群
 衆ハ益々狂ヒ愈猛リ或ハ石ヲ投スル者アリ或ハ歐
 レヤツハケロト怒號スル者アリ其ノ混雜名狀スヘ
 カラス警察官ハ死カヲ盡シテ制止ニ力ヲ漸ク退院
 議員ヲ通過セシメタリ
 稍々アリテ幌ヲ蔽ヘル人カ車ノ出テ来ルアリ群衆
 一齊ニ「誰カ名乗ル」幌ヲ取レ「怪シイゾ」幌ヲ取ラナケ
 レバ引キ摺リ出シテ見ヨト怒號シ時ニ果行ヲ加ヘ
 シトシ強大ナル壓力ヲ以テ雪崩レノ如ク押シ寄せ
 来リ並列セル警察官ハ見ル／＼押シ付ケラレ漸ク
 門外ニ出テタル人カ車ハ進退全ク窮マリ群衆ノ爲
 メニ壓迫セラレテ一寸溝渠ニ近ツキ百餘名ノ警察

警察官必死ニ努カスル其死ナク車上ニ人ヲ
シ遂ニ墜落スルニ至ル漸ク群衆ヲ卻ケ車上ノ人ヲ
救援スルコトヲ得タリ群衆暴狀極マレリト云フ可
シ
退院議員中雅階ヲ避ケントシテ貴族院正門ヨリ出
スルモノアリ群衆忽チ其ノ方面ニ押シ寄セ正門前
通りハ総テ群衆ヲ以テ充満シ又立錫ノ余地ナシ總
テ貴族院正門ヨリ再ヒ慌々蔽ハル人力車ノ出テ
トスルヤ群衆ハ一斉ニソラ官僚ノ奴ヲ壓シト
テ怒聲騰然雪崩レノ一時ニ崩ル、リ如ク押シ拂
警察官ノ制止ス其ノ効ナク遂ニ再ヒ溝深ニ墜落ス
ルニ至レリ斯クテ午後五時頃ニ及ヒ議員全部退出
シ去リタルヲ以テ群衆ハ遂ニ退散シ六時頃ニ至リ
全ク影ヲ見サルニ至レリ
此ノ日警成ハ日比谷署長弘田警視制服巡查八
五名外ニ豫備巡查五十五名ヲ指揮シテ其ノ任ニ當
リ尚警視廳ヨリ制服巡查百三十八名ヲ派遣シ取締

ニ當ラシム然ルニ群衆ノ熱狂混亂セル此ノ如シ警
戒取締上人員ノ不足ヲ感スルコト夥シカリキ
當日通用門外ニ於テ演説ヲ爲シタル者及正門前ニ
於テ喧嘩殊ニ甚シカリシ二名ハ日比谷警察署長ニ
於テ拘留處分ニ處シタリ
同日夕築地精養軒ニ於テ政國兩院代議士及院外者
懇親會ヲ開ク來會者二百七十余名席上ニ於テ不信
任案賛成者ハ舉ゲテ一定ノ徽章ヲ附スヘキヲ議起
リ佐々木安五郎起ツテ衆ニ諭テ曰ク該徽章ハ薔薇
ノ花ヨリニ寧ロ櫻ノ花ヲ以テセントス若シ該薔薇
薇ノ花ヲ附シテ歐打セラルハ吾人ハ其ノ責ニ任
スルヲ能ハスト之ニ由テ是ヲ觀レハ不信任案賛成
者ハ群衆ノ歡呼ヲ受クル又不賛成者ハ暴行ヲ受ク
ルコトアル可キヲ豫見セルモト謂フハシ
演説會ニ於ケル論調ノ矯激ナルト共ニ新聞紙ノ記
事亦熱狂ノ態アリ二月五日大正民報ニ曰ク「巨頭公
ハ大體ハ捕ニ聲制ヲ事トスル遂ニ此ノ鳴呼此ノ

賊吾人日本國民ハ七個人間ニ生レ来リ此ノ遂賊ヲ
誅セスンハ以テ地下ノ楠公ニ見ユル能ハサルナリ
ト是レ明カニ犯罪ノ教唆ト謂フヘシ即チ治安ニ妨
害ナルモトシテ發賣頒布ヲ差止メラル

立憲青年聯合演說會

二月八日午後一時ヨリ神田青年會館ニ於テ立憲青
年聯合演說會ヲ開ク當日ハ入場料金拾銭ヲ徴シタ
ル爲メ聴衆約四百名ヲ數フルニ過ク然レトモ數
日未過激ナル演說ニ新聞記事ニ昂奮シタル聴衆
レハ辨士ノ熱語ヲ聞ク毎一益々昂奮ノ度ヲ高クシ
時々過激ノ言語ヲ放ツ場内ヲ喧カシ熱狂シタル
語辨士ノ口ヨリ出ツル毎ニ喝采暫時止マス偶々
臨監官ノ辨士ニ注意ヲ與フルアレハ場内驟然トシ
耳ヲ聳セントス蓋シ辨士又聴衆又著シク常調ヲ失
シ来レルヲ推知スルニ難カラサルナリ聴衆ハ例ニ
依ツテ學生其ノ大半ヲ占ム場内ニ於テ森田義郎作

ノ時事ヲ諷シタル過激ナル和歌諷刺語ト題スル
印刷物ヲ配布セリ
第一席石橋貞雄開會ノ辭ヲ述ヘ
第二席原茂郷我カ心
第三席伊藤仁太郎開族党ト國民
第四席森田義郎ノ干涉ヲ壓迫ト題シテ新聞紙ニ義
郎ヲ指シテ社會主義者ナリト斷スルモアル人
ヲ誣フルノ甚シクモナリト辨シ去ル五日國枝館
ニ大會ヲ開カントスルヤ官權ノ壓迫ニ遭ヒ館ノ借
受ヲ解カレテ開會ニ齟齬ヲ来タセリト聴衆ノ感
情ニ訴ヘ國枝館ニ演說會ヲ開クヘキコト来ル十日
ハ一般公衆ノ議院附近ニ集センコトヲ慫慂シ院
内ニ入場シ得サルモノハ議院脇ノ空地ニ參集セハ
テ降壇セリ
第五席井村薫雄ハ重ネテ青年ノ猛省ヲ促ス
第六席高橋秀臣ハ新政黨ノ宣言書ヲ讀ム

第七席 三藤鉄男ハ解散ハ矛盾ナリ

第八席 伊藤藤雄ハ餘ス所一日

第九席 杉田定一ハ憲政擁護ト青年ノ活動ト題シ

閣族ノ跋扈其ノ極ニ達ス今日ハ革新ノ機ナリ此ノ

目的ヲ達スルハ實ニ青年ノ力ニ在リ断シテ行ヘハ

鬼神ヲ避ク諸君自覺セヨト述フ

第十席 中村啓次郎ハ矛盾ヲ論テ論ヲ渾濁セシムルハ桂

ノ行動ヲ排シテ突然起テ世論ヲ渾濁セシムルハ桂

公ナリ軍國長者ニシテ政權ヲ掌握スルハ帝國ノ外

ニアルナシ彼レハ皇帝ノ玉冠ヲ尊ハントスルニ

テアルト述ヘ後句ヲ継カントスルヲ監官ノ注意

ヲ受ケ此ノ時衆ハ一齊ニ臨監官ヲ攻撃シ怒聲罵聲

場内ニ震タトシ一時辯士ハ演説ヲ中断セリ漸ク

ニシテ喧擾静ミリ再ヒ演説ヲ續クルヲ得タリ

下ノ政府ニ毒ヲ塗リタルモノナリ之ヲ不忠ト云ハ

スシテ何ソヤ諸君大ニ活動セヨト降壇

第十一席 鶴崎熊吉ハ閣族滔天ノ罪ト題シ桂公ハ吾

人ノ憲政擁護ノ運動ヲ的ナキニ矢ヲ放ソモノナリ

ト云ヘリ彼レハ宰相ノ印授ヲ常ニ政黨ヲ組織ス非

立憲ノ極ナリ此偽黨ニ集ルモノハ偽善者政治敗徳

漢墮落者ナリ諸君憲政擁護閣族打破ノ為メ奮起セ

ヨト述フ

第十二席 林包明ハ唯一語アルノミ

第十三席 佐々木安五郎ハ世道人心ト題シ警視廳ハ

近頃吾々志士ニ對シ角袖巡査ヲ尾行セシム(尾行シ

居ラス)不當ナリ公德ヲ無視シ横暴至ラサルナキ當

路大臣ニ尾行セシムルヲ至當トス彼等ハ政治家ニ

アラス政黨ナリ新政党ハ立憲同志會ト命名シタル

由ナルニ非立憲同唱會ト称スカ蓋シ適當ナラント

述フ

第十四席 服部綾雄ハ青年ニ望ムト題シ大石其ノ他

先輩ノ行動ハ青年ヲ誤マシ惡例ナリ余ハ議會ノ解

散ヲ望マス桂内閣ハ立憲的ニ辭職シテ其ノ責任ヲ

明カニスヘシト

第十五席田中弘之ハ最後ノ決心ト懸シ佛教ニ於テ
盜賊ヨリモ恩賊ヨリモ恩ニ背クハ恩賊ナリ熱誠
ナル國民ノ聲ニ反省セリルハ開眼ナリ吾人ハ宗教
家トシテ彼レ等カ過ヲ改メサル間ハ飽クマテ進
テ益々其ノ罪ヲ責メサルハカラスト速ニ降壇ス
最後ニ立石駒吉ハ起ツテ開會ノ辭ヲ述ヘ附言シテ
曰ク諸君ハ末ル十日ニハ早朝ヨリ議院正門前ニ參
集セラルルハシ民究ニ屬スル議員ハ胸膈ニ白藹蔽ノ
微章ヲ付ス盜ニ聲援スヘシ反對黨ノ議員ハ如何ナ
ル微章ヲ付スルヤ知ラヌ反對議員ニ對ハル諸君ノ
行動ハ我知ラヌ諸君ノ自由ナリト述ヘ將ニ監官
ノ注意受ケントト降壇ス午後五時半開會ス

第三回憲政擁護政談大演說會

大正一年二月九日兩國國技館ニ於テ政國兩院外
團ノ主催ニ係ル第三回憲政擁護政談大演說會開
ル當日ハ之ノ第二回議會停會ノ最終日ニシテ而モ

天麗中ニシテ日曜日ニ屬ス故ヲ以テ觀衆ハ早ノ既
二年前九時頃ヨリ參集シ陸續トシテ終ヘス午前十
一時頃其ノ數四五千ヲ算シ開會前ニハ一萬ニ近ク
午後二時頃ニ至リテハ其ノ數實ニ約一萬三四千ノ
多キニ達シ館内立錫ノ余地ナシ空前ノ盛會ニシテ
天下ノ偉觀ナリ觀衆ハ青年學生約半數ヲ占メ官吏
會社員ノ徒亦尠カラス商人農民及勞働者亦諸所ニ
散見セラレ殆ント凡テノ階級ヲ網羅ス方面監察警
視梅谷光貞臨監ヲ命セラル
未會者ノ數既ニ一萬ニ近クシテ何レモ時局ニ熱狂
セルノ徒靜平ナクシテトスルモ得ヘケンヤ偶々會衆
中國民ヤマトニ六讀賣報知都ノ六新聞紙ノ名ヲ列
舉シ御用新聞非實同盟ト肉太ニ書セル貼札ヲ館内
高處ニ掲揚セルモアリ衆觀呼シテ迎ヘ御用記者
擲レ逐ハ出セト呼フ時他ノ一人右貼札ヲ剝キ取ル
ヤ會衆ノ憤怒絶頂ニ達シ撲リ殺セ遣ツケ已ノ怒聲
四邊ニ起リ忽チ鉄拳雨下シテ負傷スルニ至レリ又ガ

首相桂太郎ノ反省ヲ述ムト懸シ左ノ文章ヲ貼附セ

意ヲ表スル際不詳ナルヤ國民ノ憤怒益々抑へ難
シト雖今ニ辭意ナク非立憲ニテ御詔勅ヲ煩シ
奉リ而シテ國論ヲ無視シ傳會次ニ愈々衆議豫算
案ヲ是認セカ限リ國稅拒否ノ權利ハ當ニ非立
憲ニ對スル國民ノ覺悟ナリト斷シテ疑ハサルモ
ノトス(原文)

大正二年二月

其言句不穩當ナリト認メタルヲ以テ取除カシメ
シニ又左ノ討論ノ歌ヲ歌衆ニ配布セルモノアリ
憲政擁護の旗印
閣族打破の攻め敵
四十年來國民を
禍根を絶やし憲政の
金 山 興 民
翻 繖 といて野々山々
四海の里まで轟けり
蹶 蹶 したる閣族の
花 咲き實をも結ふへき

時は来り起てよ人 機會は今不奮へ
之ヲ手ニセル聴衆ハ高唱シテ万口相和シ騷然雖然
トシテ館内博覧ノ氣鬱乎タリ又討論ノ歌ヲ演壇ニ
於テ朗誦スルコトヲ企畫セルモノアリシニ注意ヲ
加ヘテ之ヲ中止セシム又館内ノ飲食店ハ盛ニ酒
類ヲ販賣シ會中酒氣ヲ帶ヒテ暴言暴行ヲ敢テシ
ンヌル者漸ク増加セシラザレバ販賣ヲ禁止マシ
ム開會ニ先ツテ其ノ光景既ニ斯クノ如ク殺氣人ヲ
襲フテ場内ノ秩序ハ將ニ維持セラレサントス若
シ開會ノ後ニ及ンテ辯論徒ラニ過激ニ流レ其ノ態
度不謹慎ニ陥ランカ如何ナル事變ヲ惹起スルモ未
ク知ルヘカラス茲ニ於テカ演説ノ司會者鶴見某ヲ
呼ンテ豫メ左ノ警告ヲ與フ
開會ニ先チテ館内既ニ騷然トシテ殺氣ノ洋溢セル
ハ貴君ノ熟知セラル所ノ如シ若シ辯論過激奇矯
ニ失シ或ハ挑發煽動ヲ之事トシ或ハ其態度不謹慎
ナルカ爲メニ一層ノ混乱ヲ醸生スルニ於テハ臨臨

官ハ辨論ノ中止ヲ命スヘク又場内ハ秩序ヲ維持シ
サレ難キ場合ニ於テハ斷乎トシテ解散ヲ宣スルノ
決心ニシテ政團兩党ノ領袖尾崎大養兩氏其ノ他多
数ノ辨士ハ或ハ辨論ノ機會ヲ得サルニ至ル場合ナ
シトセズ斯クノ如キハ固ヨリ臨監官ノ甚不本意ト
シ且甚遺憾トスル所ニシテ貴君ニ於テモ亦同憾ナ
リト信ス臨監官ハ飽クマテ言論ノ自由ヲ尊重シ且
ツ凡テノ辨士ヲシテ何等障礙ナク其ノ所論ヲ開陳
セシムル一ヲ希望スルノ念切ナルモ公安保持上
不得止總合ニ於テハ斷然最後ノ手段ヲ取ルニ躊躇
セズ緩ハクハ貴君臨監官ノ意ノ存スル所ヲ諒トシ
此ノ旨豫メ凡テノ辨士並ニ演說會關係者ニ傳達ア
ラシムコトヲ望ム
午後零時半林包明議衆ノ拍手ト歡聲トニ迎ヘラレ
テ登壇臨監官亦入場ス歡呼ノ聲ハ忽チニシテ警官
ノ痛罵ト變ヘ「帽子を取レ」「セ脱帽セシカ」馬鹿等ノ
怒聲罵聲然レニ滿々事勢莫振鈴ニヨリテ聽衆ヲ制

シ漸クニシテ鎮靜ニ歸スルヤ林包明徐口ニ口ヲ開
イテ閣族ヲ打破センカ為メニ聯合演說會ヲ開催セ
シ所以ヲ述ヘ二月議場ニ於ケル決戦ニ於テ民軍ノ
勝利ヲ得ンコトヲ希望シ以テ開會ノ辞ト為ス
次ニ登壇セシハ政友會院外團ヲ代表セル赤尾藤吉
郎ナリ彼開口一番「本會ヲ開會セシトスルヤ川上警
視總監ハ中止ヲ命ジ極力干涉ヲ試ミタリ閣族ノ横
暴擅恣茲ニ至リテ極マレリトシ更ニ進シテ桂公
ヲ攻撃ス曰ハク「昨秋川越附近大演習ノ際陛下ハ
御東馬ニテ御統裁遊ハサルニモ拘ハラス彼桂太郎
ハ怨々馬車ヲ驅リテ危從セリ之主從ヲ轉倒シテ顧
ミリル不忠不臣ノ逆賊ニアラスヤ」ト卓ラ叩キテ怒
聲シ語氣頗ル激越態度亦頗ル真率ヲ欠ク聽衆拍手
セントス臨監官起テ「辨士注意」ヲ呼フヤ聽衆口ヲ極
メテ臨監官ヲ罵倒シ場内異常タリ事務員再ヒ警鈴
ヲ振リテ喧囂ヲ制ス赤尾藤吉郎更ニ語ヲ進メテ曰ク

ク「桂太郎ハ刑法規定スル所ノ皇室ニ對スル大不
敬罪ヲ犯セルモノナリ曾テ田中正造翁ノ直訴スル
マ輕罪ヲ以テ問ヘリ彼桂太郎ノ如キハ當ニ重罪ヲ
以テ斷スヘキナリ彼桂太郎ハ實ニ乱臣賊子ナリ」彼
ノ如キヲ乱臣賊子ト称セシテ何者ヲカ乱臣賊子
トナスヘキモノゾト例ノ口吻ヲ用ヰツ、再ヒ卓ラ
叩キテ絶叫語調益々癡猛ニ態度一層、暴慢ヲ極
ム聽衆又盛ニ拍手喝采シ熱狂シテ之ヲ迎テ臨監官
ハ諸君ノ状況ヨリシテ到底許スヘカラサルノ言論
ナルヲ想ヒ再ヒ起ツテ斷呼トシテ辯論ノ中止ヲ命
ズルヤ「撲」ト立憲ヲ「真」ト眞誠ヲ「臣」ト臣賊子
出セ等ノ怒聲惡聲轟然トシテ館内ニ湧テ殺氣一堂
ニ漲リ暫時不穩ノ形勢ヲ呈セシモ高橋秀臣登壇ス
ルニ又シテ再ヒ靜ニ歸ス
高橋秀臣山口熊野鶴崎能吉伊藤仁太郎前川虎造等
交々立ツテ熱烈痛切ノ辨ヲ振ヒ桂公ノ非立憲的行

勤並ニ新政党组織ヲ攻撃シテ余ス所ナク或ハ閥族
 ノ根本的撲滅ヲ期セリルヘカラストナシ或ハ閥族
 ニ對シテハ立憲的天誅タル筆誅ヲ加フヘシトナシ
 或ハ入口ニ於ケル桂公西園寺候會見ヲ以テ妥協ヲ
 開クノ端ナリトナシテ所謂桂公ノ慣用手段ヲ難シ
 或ハ新政党ヲ批評シテ非立憲同醜會又非立憲銅臭
 會ト稱スルノ當レルヲ說キ或ハ桂公ノ新政党ハ權
 勢ノ地位ニアリテ組織セルモノナルヲ以テ官營ノ
 政党ナリトシ或ハ尾行其ノ他警察ノ干涉壓迫ヲ難
 シテ警察政治偵政治ノ實現ナリトナセリ
 次イテ聽衆ノ歡聲ニ迎ヘラレ「憲政ノ神或ハ國士ト
 稱セラレツ、拍手喝乎ノ間ニ演壇ニ起テルモノヲ
 國民党ノ領袖犬養毅トナス彼精悍、小軀ヲ鼓シ莊
 重沈痛ノ口調ヲ以テ「余カ現内閣ヲ彈劾セントスル
 主旨ハ先日尾崎君ノ議會ニ於テ演說シタル處ト毫
 モ異ナルヲ以テ再ヒ此ニ贅セズ冒頭シ直ニ新
 政党ノ宣言六ヶ條ヲ辨駁シ曰ハク「新政党ノ宣言ハ

之ヲ六項ニ合ツト得其第一ハ我建國ノ本源
ニ過リ皇室ヲ中心トシテ忠愛ノ大義ヲ顯
タル忠君愛國ノ精神ハ大和民族固有ノ特
シテ六千萬同胞中一人ノ異議ナキ所唯解ス
サルハ彼等開族ノ徒々忠君愛國ヲ自己ノ
如ク振舞ヘル事實ニアリ第二ニ維新ノ鴻
先帝御治世ノ初メ天神地祇ニ誓ハセ給ヘ
大英斷ニシテ此即旨ヲ奉戴シ盛ニ皇謨ヲ
トスルノ際開國進取ヲ歟々スルハ何ノ意
ニ憲法ノ條章ニ恪守シテ天皇ノ大權ヲ尊
務大臣ノ責任ヲ明ニスト云ヘリ桂公自
ラ貴任ヲ明ニシタルコトアリ今回ノ政
辱々勅語ヲ轉セルカ如キ果シテ憲法ノ
シタリト云ヒ得ヘキヤ
第四ニ教育ヲ普及シテ國民ノ公德ヲ進
能ヲ發スド云フカ如キハ固ヨリ何人モ異
論ナキ

所之ヲ闕族ノ頭目桂公アリト聞クニ至リテハ大ニ
 惑ナキ能ハス徳器ヲ成就シ智能ヲ啓發スルノ大任
 ハ實賊躬行ヲ以テ庶民ヲ率ユルノ覺悟ナカルヘカ
 ラス桂公日常ノ行動能ク之ヲ範タルヲ得ンヤ
 第五ニ民族同胞ヲ云々シ社會共濟ノ道ヲ講スヘシ
 ト云ヘルカ庶民ノ疾苦ヲ度外視シ富豪ヲ迎合スル
 ニ吸タル彼闕族ノ徒何リ能ク社會政策ノ實行ヲ
 期スルヲ得ンヤ
 最後ニ國光ヲ發揚シ世界平和ニ貢獻セント云フカ
 如キハ寧口滑稽ノミ彼ノ對清外交ノ失敗ハ闕族ノ
 專横ニ基クニアラスヤ隣邦ノ危機ヲ雲煙過眼視シ
 ナカラ世界ノ平和ニ貢獻スルハ何事ソヤ斯ノ如ク
 觀シ来レハ其ノ宣官任用令改正ノ如キ陸海軍大臣官
 制改革ノ如キ經費五千萬圓節減ノ如キ畢意羊頭ヲ
 揚ケテ狗肉ヲ賣ルモノ吾人ノ安ンスル能ハサル所
 ナリ吾人民軍ハ須ラク闕族ノ實質實私實力ノ消在
 89

スル所ニ向ソテ之ヲ紛碎打破スルノ手段ヲ講セサ
 ルヘカラスト論シ来リ論シ去ル満堂ノ聽衆傾聴シ
 聞トシテ聲ヲ只論者ノ急處ニ連スルヤ拍手喝采
 一時ニ湧キテ耳聾セントス斯ノ如クシテ犬養ノ演
 説無限ノ感動ト印象トヲ殘シ満場破ルノ計ヲ喝
 采聲裡ニ降壇スルヤ政友會ノ領袖尾崎行雄満場ノ
 歡呼ノ間ニ悠然トシテ壇上ニ登レ尾崎君萬歳ノ民
 ノ神「ソ」カリ願ハソト呼フモ、アリ
 場内ノ靜謐ニ歸スルヤ彼徐口ニ口ヲ開キ慨然トシ
 テ愈々政界ノ大決戦ハ明日ニ迫レリ形勢茲ニ至リ
 テハ桂公自身ト雖又如何ニ處置スルカヲ知ラサル
 ハシ昨ハ公ハ加藤外相ヲ使者トシテ我黨ノ總裁西
 園寺侯ニ會見ヲ申込ミ遂ニ公侯ノ會見約一時間ニ
 直リシカ其ノ會見ノ内容ハ一言ニ歸結セシカ桂公
 ハ西園寺侯ニ向ツテ「何トウ仕様ハアリマスミカ」
 ト云フニ過キサリシカハ西園寺侯ハ之ニ答ヘテ「何
 トモ仕様ハアリマスミカ」ト云ヒシニ過キサリシナ

リ今日桂公ノ採ルヘイ方法ハ立憲的態度ヲ維持シ
 テ決然總辭職ヲナスカ然ラズンハ議會ヲ解散スル
 ノニ途アルノミト説キ桂公ノ取ルヘイ方針ヲ示シ
 タル後立憲政体ノ三大罪惡ハ第一憲法ノ廢棄第二
 憲法ノ中止第三國論ヲ代表セル議會ヲ懲罰的ニ代
 表スルコトナリトナシ議會解散ノ罪ヲ論シテ曰ハ
 ク「現勢ノ如ク國論ヲ代表セル議會ヲ懲罰的ニ解散
 スルハ國民全体ヲ懲罰セントスルモノニシテ朝憲
 紊亂ノ甚シムモノト謂フヘシト彼ハ更ニ鋒ヲ轉シ
 テ陸海軍ノ態度ヲ難詰シ「桂内閣ニ留任セル齊藤海
 相ハ海軍充實計画ノ一年延期セラルハ國家防護
 ノ任務ヲ盡ス能ハストナシ明年度豫算ニ繼續費六
 百萬圓ヲ計上セリ若シ海軍大臣議會解散ヲ請ニ同
 意セシカ海軍豫算ハ當然不成立ニ歸シ海軍當局ノ
 國防費見ハ前後矛盾シ一定ノ所信ナキニ至ル又彼
 ノ陸軍二個師團増設問題ノ如キハ全ク陸軍ノ誠意
 ナキヲ實証セリ即チ前内閣ニ對シテハ陸軍一致ノ

態度ヲ以テ増師ヲ迫リ現内閣トナルヤ然トシテ
 本問題ヲ知ラサルモノ、如シ長閑軍人、跋扈跳梁
 ハ己ノ好マシ、内閣ハ忽チ之ヲ破壊シテ去リ忠勇
 ナル長閑外ノ全國軍人ハ之ヲ袖手傍觀セサルヘカ
 ラス我帝國ノ陸軍我陛下ノ陸軍ハ恰モ他ヨリ侵
 ハセシ盜賊ノ住家ニ變セルカ如シト極論セリ而シ
 ラ彼ハ新政黨ニ言及シ脱党シテ新政黨ニ歸セシ國
 民黨領袖連ノ頽齡ニシテ用ニ足ラリルヲ諷シ
 ニ三百萬圓ノ少計ノ金額ヲ以テシテハ到底國民改
 友兩党ノ買収ヲ遂行シ得ヘキニアラハ少クモ一億
 圓以上ノ金額ヲ散スルニアラスニハ其ノ根柢ヲ動
 カス能ハストナシ内閣員ト政黨員トノ人物ヲ比較
 評論シ最後ニ猶現内閣ニシテ今後政局ニ對シ朝憲
 紊亂ノ罪ヲ犯カザンカ余輩ハ解散後ノ臨時議會ニ
 於テ一層痛烈ニ現内閣ヲ彈劾シ大ニ天下ノ公憤ヲ
 發揮スハシト論結シテ降壇ス聽衆終始謹聽シテ感
 興甚タ深カリシモノ、如シ

最後ニ佐々木安五郎登壇シ痛烈皮肉ニシテ諧謔ヲ
 交ハタル雄辯ヲ揮ヒ盛ニ桂公ヲ攻撃シ從横ニ政黨
 ヲ罵倒シテ満場ノ大喝采ヲ博シタル後美和作次郎
 閉會ノ辞ヲ述ヘ陛下ノ萬歲ヲ三唱シテ午後三時
 半衆事散會ス退散ノ聽衆ハ恰モ怒濤ノ狂奔スルカ
 如ク或ハ積水ノ一時ニ決スルカ如シ盛ナリト謂フ
 ヘシ

大正二年
騷擾事件記録
總説

附錄	第二節	第一節	第一章	第二章	第三章	第四章	總說
十日騷擾後ニ於ケル警戒狀況	騷擾ニ對スル警戒取締ノ一般狀況	騷擾ノ經過概要	騷擾ノ經過並ニ警戒取締ノ一般狀況	暴徒騷擾ノ發端	十日ニ於ケル院外ノ狀況	計畫	緒言
五	四	三	三	三	二	一	一
一	三	九	六	六	三	三	一

デジタル人文科学研究所
Digital Humanities Research Institute
www.dhri.ac.jp

第一章 總說
第一節 議院附近警戒取締ノ方針

第一回停會後ニ於テハ議院開會ノ當日タルニ月五
日議院附近ハ極ニ混亂ノ不穩ノ狀況ヲ呈セリ初メ
今日入野埋立地内ニ約四五百ノ群衆集合シ立シ議事
ノ結果ヲ知ラントスルモノ如クナリシカ是ニ對シ
シ院內新聞記者俱樂部室樓上ヨリ屢々外壁ニ張紙
ヲ爲シ大書シテ曰ク「民軍ニ信任案提出セリ或ハ尾崎
ニ九十七民軍大勝利今不信任案提出セリ」ト群衆
氏政擊演說ヲ爲シ桂公ハ苦シキ答辯中ナリト群衆
之ニ和シ喧騒止マズ遂ニ解散ノ紙ヲ掲ケ且ツ群衆
人ノ者ハ苗ヲ窺フニ伸ハテ大聲疾呼シテ宜ク諸
君ハ正門前ニ至リ退院議員ニ對シ萬歲ヲ唱フヘ
ト叫フヤ衆ニ應ジ疾驅シテ正門前ニ到リ傍聽人
ト出テ來ル者及通行人亦之ニ加ハリ遂ニ熱狂ノ數
十ノ多中ニ連ス或ハ歡呼シ或ハ怒號シ熱狂ノ極

門内ニ闖入セシ警察官ハ百方之ヲ説諭スル
 毛肯セス嘲罵喧囂潮ノ如ク壓迫シ来リ頗フル防禦
 二苦シメリ議員ノ退院スルヲ見ルヤ一齊ニ萬歳ヲ
 絶叫シ雪崩ノ如ク押シ寄セ来リ通路ヲ擁塞シ車
 馬爲メニ進ムコト能ハス殊ニ幌ヲ蔽ヘル人力車ノ
 出テ来ルアレハ忽チ怒聲然トシテ威迫シ来リ警
 察官ノ制止モ殆ト其効ナク遂ニ溝渠ニ墜落シ
 ルモノニ台或ル議員ノ如キハ危害ヲ恐レ正門ヨリ
 出ツルコト能ハス窮カニ裏門ヨリ退出スル者アリ
 二至レリト云フ約五百名ノ警察官ヲ配置シテ豫メ
 取締上遺算ナキヲ期シタルニ尚ホ混雜不穩ノ状況
 ヲ呈シタルコト斯ノ如シ
 其後八日青年會館ニ於ケル九日國技館ニ於ケル
 談集會ハ共ニ辯論ノ類フル過激ニ互レモノアリ
 或者ハ其ノ演說中ニ白薔薇ノ徽章ヲ附シテ退院ス
 ル議員ニ對シテハ諸君ノ意ニ任カストテ暗ニ或ル種
 ル者ニ對シテハ諸君ノ意ニ任カストテ暗ニ或ル種

類ノ議員ニ對スル威迫暴行ヲ煽動スルアリ或ハ會
 場内ニ首相柱太郎ノ反省ヲ求ムト題スル文章ノ販
 行ヲ爲シ又ハ御用新聞非買同盟ノ張紙ヲ十數箇賣
 ニ揭示スルアリ或ハ討論ノ歌ナルモヲ高唱シテ
 以テ盛ニ示威的運動ヲ試ムル等言動頗ル矯激ヲ極
 メタリ
 風雲益急ニシテ事態愈々險惡ヲ極ム翌十日ハ第
 回傳會後開會アルハキ日ナリ前五日ノ例ニ照セハ
 其ノ混亂ノ状ヤ蓋シ想見スルニ難カラズ或ハ如何
 ナル事變ノ發生アルナキヲ保セサルナリ之ヲ警戒
 取締ハ極メテ慎重周密ニシテ未前ニ事ヲ防止スル
 策ヲ講シ議院附近ノ靜謐ヲ保持セサル可ラス之
 保安警察當然ノ任務ナレハナリ

第二節 第一部長指示事項並ニ配置計畫
 五日院外ニ於ケル混亂ヲ誘起シタル直接ノ原因
 益々次々ニ兵ニアリ一ハ議院裏手埋立地ニ多敷

群衆集合シ、院内ヨリ煽動スル者アリシ爲メ正門前
 ニ馳セ来リタルコト、正門前道路ニ多数ノ群衆
 ヲ佇立、停滯セシメタルコト、之レナリ故ニ先ツ取締
 上、方針トシテハ、一埋立地内ニ多数ノ人民、集
 スルコトヲ避クルコト、正門前道路ハ群衆ヲ停
 セシメス常ニ通行ヲ整理シ、混雜ヲ来サシメサルコ
 トヲ計リ、若シ雜沓甚クシキニ至ラハ止ムナク議
 出入者以外ノ者ノ通行ヲ一時制限スルコトノ
 以テ其要員ト爲ササル可ラス尚前五日ノ例ニ鑑ミ
 七日小濱第一部長ハ得能方面監察ヲ衆議院ニ派
 シ同院書記官長ニ對シテ希望ヲ述ヘシム
 一傍聴席ヲ監査セサルコト
 二議院玄關上、張出又ハ新聞記者但衆部室ノ外
 壁又ハ窓等ヨリ外部ニ對シ議事ノ状況ヲ揭
 又ハ掲揚セシメサルコト
 三傍聴席満員トナリタルトキハ門前ニ之ヲ掲
 スルノ方法ヲ取ルコト

四傍聴席満員、場合ハ傍聴希望者ノ入門ヲ拒絶
 シ得ル様豫メ議長ノ承認ヲ承ケ置カレタキコ
 ト

以上ノ要求ニ對シ衆議員書記官長ハ總テ承諾ノ意
 ヲ表示シ且ツ裏手埋立地内及ヒ議院前面道路ニ公
 衆ヲ群集セシメサル様取締ラレ度旨ノ要求アリ
 カハ則チ之ヲ應諾シタリ
 二月七日午前九時小濱第一部長ハ方面監察警察署
 長九十三名ヲ警視廳會議室ニ召集シ時局ノ情勢ニ
 伴ヒ一部民心ノ歸嚮頗ル危惧ス可キモアルヲ以
 テ各自能ク注意ヲ怠ラズ萬一事故ヲ發生セシメ
 サル様努ム可キ旨詳細指示ヲ與ヘ以テ湯地官房主
 事ハ項者頗ル不穩、投書者ハ流言ヲ爲ス者アリ
 或ハ過激ナル行動ヲ爲サント計レル者アル趣聞知
 セル由ヲ告ケ此際偵察ヲ怠ラズ大ニ警戒ニ努ム可
 キ旨指示シタリ
 同日午前十時第一部長ハ更ニ方面監察及市部中警

察署長二十四名ヲ第一部長室ニ召集シ十日院外警戒取締ノ方針ヲ訓授シ更ニ警戒員ノ心得方ニ就

二月十日警戒ニ関スル指示

一、院外警戒配置ハ交通整理及交通遮断ノ三種ニ

大別シ交通遮断ハ議院外圍ヲ中心トシテ遮断

地ハ二線又ハ三線トシ取締上ノ餘地ヲ存

ルノ方法ニ採ルコト但シ交通遮断ト云フハ

員傍聴人面會人其他議院出入者以外ノ通行

制限スルヲ謂ヒ總對ニ交通ヲ遮断スルノ謂ニ

非ス

二、前項ノ配置ハ要所ノ配置ヨリ漸次増加スルノ

方法ヲ取り配置ノ状況ニ依リ尚餘裕アル時期

ニ於テ全員配置ヲ爲ス可キコト

三、各大臣各議員退出ニ方リテハ遮断地点ノ配置

員ハ交通整理員ト協力シ極力通行ノ安全ヲ期

ス可キコト

四、議院正門前通衆議院通用門前通貴族院傍聴門

前通貴族院書記官長官邸角ヨリ都新聞社前迄

ハ群集ヲ一切停止セシメサルコト

五、偵察係ハ係長指揮ノ下ニ私服警部及巡查ヲ付

シ尚不若千ノ傳令ヲ付スルコト

六、通信係ハ係長指揮ノ下ニ私服警部及巡查ヲ付

シ尚不傳令若千ヲ置クコト又

七、騎馬巡查ハ第一項ニ準シ樞要ノ場所ニハ豫メ

之ヲ配置スヘキコト

八、警戒部隊ハ所用人員ニ對シ多少人員ノ多寡ア

ルモ可成特別召集警戒ノ部隊編成表ニ依リ其

編成ヲ破ラサルコト

九、私服巡查ノ活動ヲ充分ニスル爲メ五組十人ニ

對シ略不部長又ハ警部補一人ノ割合トシ尚不

其徽章ハ帽ノ帶ニ挾マシメ且左手中指ニ毛糸

等ヲ卷カシムルコト

十、檢舉檢束ハ尾行シテ行フヲ本俤トシ此ノ場合

ニ於テハ主トシテ私服員ニ於テ之ヲ爲スハキ
モ時宜ニ依リ制服員ニ於テ檢舉檢束ヲ執行セ
シムルコト引致スハキ警察署ハ行爲地ノ所轄
署トス
十一 豫備隊派遣要求ハ統一ヲ期スル爲メ中隊長ヨ
リ爲スベキコト
十二 院外警戒中隊長ハ常ニ院内警部ト連絡ヲ保テ
議事ノ進行ヲ知悉シ取締計畫ニ遺等ナキヲ期
スハキハ勿論院内ニハ報告係專務ヲ置キ司令
部トノ連絡ヲ保ツコト
以上ノ外尚ホ交通遮断ヲ行フ可キ場合ニ於ケル遮
断地矣ヲ示シ且ツ警戒部隊ノ配置ヲ内示シタリ
警察署長ニ通牒シテ特別警戒ヲ召集規程ニ基ク部隊
ノ編成ヲ命ジタリ即チ各中隊長ノ編成ヲ令セラル
但召集ハ未ルニ月十日トシ其ノ召集ニ関スル手續

ハ別ニ各中隊長ニ命ス

大正二年二月八日

司令長

各警察署長分署長殿(三多摩ヲ除ク)

同日小濱司令長ハ重ホテ貴署兩院附近警戒取締ニ
関スル一般命令ヲ發シタリ即チ左ノ如シ

令

一 議院附近ノ警戒ニ任スヘキ麴町日本橋東京水
上中隊中隊長ヲ除ク及小石川中隊大塚田山
小隊ヲ特ニ附屬セシムル並第一麻布四谷本郷淺
草第一及品川各中隊長ハ中隊長ノ署ニ召集訓
授ヲ了ハ午前九時迄ニ別記ノ場所ニ到着シ中
隊長ハ即時適當ナル員數ヲ配置シテ警戒ニ着
手スヘシ並第二淺草第二中隊長馬道向柳原小
隊ヲ特ニ附屬セシムル中隊長ハ午前八時芝區櫻田
本郷町十三番地福寶館ニ召集訓授ヲ了ヘ同九
時適當ナル員數ヲ配置シテ警戒ニ着手スヘシ

一、日比谷公園、警戒ニ任スヘキ下谷本所及深川
 各中隊ハ中隊長ノ署ニ召集訓練ヲ了ヘ午前十
 時迄ニ本廳内獎武會道場ニ参着スヘシ
 二、通信係ニ充ツハキ赤坂中隊ハ本廳内獎武會道
 場ニ偵察係ニ充ツハキ牛込中隊ハ全會議室ニ
 何レモ午前八時迄ニ参着スヘシ
 三、前項警戒員ニ對スル訓練ハ係長タル方面監察
 之ヲ爲スモトス
 四、司令部參謀ハ馬場梅谷兩警視偵察係長ハ丸山
 警視通信係長ハ得能警視ヲ以テ之ニ充ツ
 五、通信係ハ特ニ内幸町議院前相馬邸内ニ置ク
 司令長ノ中隊長ニ對スル命令ハ通信係長ヲ經
 テ之ヲ達スヘク中隊長ノ報告ハ通信係長ヲ經
 由スヘシ但日比谷公園警戒中隊ニ關スルモ終
 又特ニ緊急ヲ要スル命令又ハ報告ハ通信係長
 ヲ經由セサルモトス
 六、現場ニ在ル司令部參謀ハ司令長ニ代リ各中隊

長ニ對シ命令ヲ為スコトアルヘシ
 七、中隊長ハ午前八時正午十二時ヨリ警戒終了
 迄ハ三十分間毎ニ情況ヲ報告スヘシ通信係長
 亦全シ但シ緊要ナル事項ハ之ヲ即報スヘシ
 八、偵察係長ハ隨時其ノ情況ヲ報告スヘシ
 新宿及千住中隊ハ別ニ指定スル場所ノ交通取
 締ニ當ラシムヘキニ付午前九時迄ニ本廳内獎
 武會道場ニ参着スヘシ
 九、板橋及小松川中隊ハ司令部豫備トシテ午前十
 時迄ニ衆議院通門内演武場ニ参着スヘシ
 十、神田京橋小石川大塚白山小隊ヲ除ク各中隊及
 浅草第二中隊馬道御原小隊ヲ除クハ豫備ト
 シテ午前十時迄ニ中隊長ノ署(南元町及七軒町
 小隊ハ其ノ所屬)ニ召集待命スヘシ
 十一、前各項召集又ハ豫備待命員ハ昼夕ノニ食及提
 灯ヲ携帶スヘシ
 十二、神田中隊ヨリ三名京橋中隊ヨリ二名、自轉車ノ

傳令ニ充ツヘキ巡査ヲ撰拔シ午前十時迄ニ司
令部ニ差出スヘシ
其私服員ノ徽章ハ帽子ノ左方ニビシヲ挾ミ左手
中指第二関節部ニ赤毛糸ヲニ巻トス但現品ハ
司令部ヨリ交付ス(偵察及通信係員ハ當日交付
ス)
大正二年二月八日 司令長

注意 本命令ノ召集及豫備待命員部隊編成ハ總テ本
年内訓甲第一師特別召集警戒部隊編成表ニ準
據スルモノトス
別記 (参着場所)

麹町中隊
日本橋中隊
公附屬中隊
浅草中隊
品川中隊

麹町正内幸町一丁目
相馬邸内
麹町区霞ヶ関
外務省構内

本郷中隊
芝区琴平町二番地寄席
芝区中隊
琴平亭
四谷中隊
芝区櫻田本郷町十三番地
麻布中隊
福寶館
翌九日小濱司令長ハ各中隊長ニ對シ更ニ警戒ニ関
スル特別命令ヲ爲シ量ノ命令ヲ補充更スル所
リ即チ其命令ハ次ノ如シ
特別命令
明日貴衆兩院附近警戒ニ関スル命令中迄ハ通變
更ス

一 浅草第二中隊ノ南元町及七軒町小隊ハ議院附
近警戒ノ浅草第一中隊附屬隊トシテ明日午
前七時迄ニ象沼署ニ派遣シ全中隊長ノ指揮ヲ
受ケシムヘシ
浅草第二中隊長ハ参謀副官傳令及私服員ハ豫
備トシテ全自午前十時迄ニ本廳内道場ニ参着
スヘシ

二 京橋中隊、第地、明石及靈岸島小隊ハ、議院附近
警戒、品川中隊、附屬隊トシテ、明日午前九時
迄、外務省構内ハ、三十間堀、月島小隊ハ、四谷中
隊ノ附屬トシテ、午前八時迄、本廳内道場ニ参
着シ、何レモ其ノ附屬スヘキ中隊長ノ指揮ヲ受
メシムヘシ
三 京橋中隊長參謀、副官、侍令、私服員及京橋小隊ハ、
今日午前十時迄、二豫備トシテ、本廳内道場ニ参
着スヘシ
四 小石川中隊、大塚白山小隊ヲ、除クハ、別ニ指
ル場所、交通取締ニ當ラシムヘキニ付、明日
富坂署ニ召集、訓練ヲ了スヘキ午前九時迄、二芝五琴
平町ニ番地寄席、琴平亭ニ到着シ、中隊長ハ、即時
適當ナル員數ヲ配置シ、警戒ニ着手スヘシ
五 神田中隊ハ、豫備トシテ、午前十時迄、二本廳内道
場ニ参着スヘシ
六 東京水上中隊長、副官、傳令及私服員ハ、豫備トシ

テ、午前十時迄、二本廳内道場ニ参着スヘシ、日不
橋中隊長ハ、特ニ注意ノコト
六 本廳内道場ニ参着スヘキ部隊幹部ノ休憩室ハ、
三階食堂トス
大正二年二月九日
司令 長

同日午後一時、小濱司令長ハ、方面監察及關係中隊長
ヲ再ヒ、第一部長室ニ召集シ、院外取締ニ就キ、最後ノ
指示ヲ與ヘ、苟モ遺策或ハ誤解ナカランカ、爲ニ反覆
取締ノ旨趣ヲ訓授シ、各員責任ノ重大ナルコトヲ自
覺セシム、其ノ指示ノ一般ハ、左ノ如シ
一 警戒取締ノ仲
二 警戒取締員ハ、群衆ニ對シテ、寧懇切ヲ旨トシ、
メテ衝突ヲ避クヘキハ、勿論ナルモ、群衆ニシテ
制止ヲ肯セズ、過激喧噪、言動ニ涉ルカ、若クハ
各大臣議員等ノ退出ニ際シ、特ニ警戒ヲ要スル
事態ヲ現出スル等、一朝豫定ノ遮断ヲ實行スル

曉ニハ最モ強硬ノ態度ニ出テ極力固守スヘキ
 ハ勿論尚情況ニヨリ群眾ノ退散ヲ命スル場合
 等ニ於テハ警察力ヲ集中シ突貫攻撃等非常手
 段ニ出ツル場合アルヘキニ付所謂始メハ處々
 ノ如ク終ハ猛虎ノ如ク勇氣ヲ鼓舞シ奮闘スヘ
 キ旨訓授シ置クヲ要ス
 二交通遮断ノ件
 交通遮断ノ場所及時期ハ現場ニ在ル參謀ニ於
 テ各方面ノ情況ニ依リ臨機之ヲ定ムヘキコト
 議院登院者若クハ請願者又ハ意見書提出者ヲ
 遮断地矣ニ於テ阻止シ又ハ線内居住者等ノ進
 入ヲ禁止スルカ如キコトナキ様注意ヲ要ス
 三當番員召集ニ關スル件
 當日群眾騷擾ヲ惹起スルノ虞アルトキハ何
 當番員ノ召集ヲ見ルヤモ申リ難シ豫メ準備シ
 置クヲ要ス
 四檢舉檢束ノ件

檢舉檢束ヲナス場合ハ私服監督員ニ於テ指定
 巡查ノ氏名ヲ明ニシ且犯人又ハ檢舉者ヲ同行
 セシトキハ當該署ノ司法主任ニ對シ其ノ顚末
 ヲ詳細報告セシムル様豫メ訓授シ置クヲ要ス
 此ニ於テ力警戒取締ノ方針確立シ命令指示ヲリ
 ルナク部隊ノ編成配置盡ク備ハレリ以上更ニ線
 合機括シテ司令部及各中隊組織ノ大要ヲ述ヘン

司令部
 司令長 第一部長 小濱松次郎
 參謀 方面監察警視 馬場一衛
 部員 警務課長警部 梅谷光一
 以下警務課員警部 柳田清一
 十名
 偵察係
 係長 方面監察警視 九山鶴吉
 參謀 警視 寶田通経
 岡崎豊彦

通信係

係員 警部又八警部補五名巡查九十九名
(神保町署巡查八十四名)

係長 方面監察警視 得能佳吉

參謀 本堂平四郎

全 田中十吉

係員 警部四名巡查七十六名
(赤坂署巡查五十五名 刑事課巡查二十五名)

警戒部

一院外警戒部隊

麹町中隊

中隊長 郭親

小隊四(麹町、紀尾井、九段、日比谷)

日本橋中隊

中隊長 警視

小隊八(久松、横山、箱崎、堀留、新場、橋水、上、大塚、白土)

新場、橋水、上、大塚、白土

人員三八名

野田耕史

白石佐吉

大山綱岳

弘田久壽治

人員八四名

芝第一中隊

中隊長 警視

全 古川權九郎

小隊四(愛宕、高輪、新堀、白金)

中隊長 警視

參謀 井上兩樓

小隊三(烏居坂、本村、霞町)

中隊長 警視

參謀 福島俊作

小隊二(四谷、四谷見附)

中隊長 警視

參謀 黑川隆信

小隊五(本富、奥砂、追分、千駄木、駒込)

中隊長 警視

參謀 栗林豊作

淺草第中隊

中隊長 警視

品川中隊

中隊長 警視

小隊四(象、深、日本堤、合羽橋、今立)

中隊長 警視

岩田重義

小隊三(品川第一、品川第二、世田谷)人員五十七名

參謀 警部 伊賀岩太郎
中隊長 警視 三原虎三
參謀 全 中野邦一

小隊三(芝口、西久保、三田)人員五十四名
二虎、門跡ヨリ霞園大使館前ニ至ル間ノ交通取締
ニ當ル部隊

小石川中隊

中隊長 警視 武川直三郎
參謀 警部 加尾橙太郎

小隊三(富坂、小日向、林町)人員四十五名
十住中隊 中隊長 警部 市村幸次郎

小隊三(十住、才一、才二)人員三十八名

六日比谷公園警戒、為ニ待命ノモノ

下谷中隊

中隊長 警視 井田正忠
參謀 警部 千田貞治

小隊六(上野、入谷、坂本、竹町、金杉、谷中)人員一七名

本所中隊

中隊長 警視 矢野元三郎
參謀 全 鈴木元吉

深川中隊

小隊六(相生、三、橋、吉岡、太平、原、廣、留、島)人員一九名
中隊長 警視 山下嘉太郎
參謀 警部 三浦碩郎

四院外取締ノ豫備隊

板橋中隊

中隊長 警部 高橋義信
小隊三(板橋、王子)人員四十八名

小松川中隊

中隊長 警部 久保田清
小隊三(小松川、才一、才二)人員三十六名

五警視廳ニ召集待命ノ部隊(総豫備隊)

神田中隊

中隊長 警視 宮越正良
參謀 全 緒方惟一郎
全 石川精吉

京橋中隊

小隊六(錦町、小川、万世橋、西神田、外神田、東神田)人員九十九名
中隊長 警視 小林一男

小隊
淺草第一隊

全 參謀 警視 前田兼實 22
小(築地明石靈巖島京橋手間堀月島)人員百六名

中隊長 警視 石垣倉治

參謀 警部 黑島原新次郎

小隊
警察消防隊

四(馬道向御原南九町七軒所)人員七三名
隊長 警部 山下謙吉

六騎馬隊 二箇小隊

人員六〇名

小隊長 警部 酒井恭太郎

人員 部長 巡查二名
小隊長 警部 重水市造

人員 部長 巡查二名

騎馬隊ハ司令長又ハ司令部參謀、命ヲ承ケ交通隊
締、任務ヲ帶フ
警戒部隊ハ取締方針ノ趣旨ヲ體シ司令長ノ命令ニ
從ヒ責任ニ於ケル配置ヲ定メ部下ニ訓授ス

與ヘテ茲ニ部署整然トシテ定マレリ

第二章

十日ニ於ケル院外ノ状況

五日間ノ停會期間ハ經過シテ再ヒ議院開會ノ十日

ハ茲ニ束リ曉霧未ク全ク散セサルニ既ニ議院附

近幾多人影ノ去來スルヲ見ル將ニ狂瀾ノ至ラント

シテ細連ノ微風ニ搖クニモ似テ朝來何トナク不夜

ノ氣肅殺トシテ天地ヲ壓シ來ルヲ覺ユ

院外警戒ノ十三箇中隊ハ各其休憩者タル琴平亭相

馬邸院內演武場外務省構內等豫定ノ場所ニ集合シ

通信係亦其本部ヲ相馬邸內ニ設ケ午前九時ヲ以テ

總テ既定ノ部署ニ就キ活動ノ機ヲ待テリ

自午前九時至全十時ノ状況

交通狀態ハ平日ニ比シ稍々頻繁ナルモ道路ニ著

キ混雜ナシ衆議院通用門附近ニ傍聽人面會人漸次

集合シ約五六百人ニ達シタルモ十時傍聽人入口ノ

間扉ト共ニ總テ入場シ了レリ議員ノ登院スル者稀

ニシテ何等ノ事故ナシ各中隊ハ要所ニ極メテ少放

人員ヲ配置シテ交通取締ヲ爲シ通行人ノ佇立スルコトナカシム
 配置人員ハ各中隊四五名乃至十五名但シ其第一中隊ハミハ埋立地内ニ公衆ヲ群集セシコトヲ虞レテ三十名ヲ配置ス尚ホ騎馬巡查三名ヲ南佐久間町通貴族院角及衆議院正門前ニ配置シテ交通取締ヲ爲ス

自午前十時至十一時状況
 交通一層頻繁ヲ加ヘ殊ニ正門前通及通用門前通りヲ通行スルモノ夥シク増加シ徇律徘徊シテ散テ去ラス動モスレハ佇立停滯セシトス新シ橋角及ヒ南佐久間町ニ至ル道路ニ屢々約五六十乃至百名ノ集團ヲ生シタルモ直ニ退散セシム騎馬巡查二名ヲ衆議院正門附近ニ増置シテ交通取締ヲ爲シ各中隊亦遂時少数ノ人員ヲ増派シテ益々整理ニ努メタリ
 自午前十一時至全十二時状況
 混雑ハ刻々増加セリ交通織ルカ如ク右往左来シ寸

時モ取締ヲ緩ウスレハ忽チ此處彼處ニ數百ノ集團ヲ生セシトス衆口何事ヲ力低唱シテ四面漸ク騒然タル状況ヲ呈シ末ル青年學生アリ壯士体ノ者アリ勞働者ノ如キアリ過激ナル辯舌筆硯ニ依リテ煽動セラル著シク神經ノ昂奮セル彼等ハ何事力事変ヲ生セシコトヲ期待セルモ、ノ如ク三々五々徘徊シテ去ラス此時日比谷公園西幸門内ニ約百名餘ノ群集アリ漸次増加スルノ兆アルヲ以テ退散ヲ命ジタルモ容易ニ應セス議員ノ登院スルヲ待設タルモ配置ハ麹町中隊淺草第一中隊日本橋中隊八正午頃ニ及ヒ全員其他ノ各中隊ハ三分ノ一乃至半数ノ人員ヲ配置シテ專ニ通行者ヲ指導ニ努メタリ
 自午後零時至令一時状況
 右ノ如ク交通頗フル混雑ヲ極メタルニ際シ恰カモ零時ヲ過クル五十分頃民黨議員ノ多數胸間ニ白薔薇ノ徽章ヲ飾リ人力車ヲ連ネテ登院スルヤ西幸門外

制セスハ如何ナル椿事ノ發生スルヲ保セス
 仍チ附近ノ警戒部隊殘部及豫備隊約四百名ヲ正門
 前ニ配置シ極力慰撫シ退散セシメントスルモ更ニ
 其ノ効ナク益々狂暴ヲ極ムルコト能ハサルヲ認
 多數ヲ以テスルモ制止サル最後ノ處置トシテ騎馬隊
 ヲ出動シテ命令ニ箇小隊ニ十三騎ヲ衆議院正門前ニ
 一列横隊ヲ爲シテ駢列セシメ徐々ニ貴族院角十
 路ニ向ツテ群集ノ通行ヲ促シ温言慰撫シテ退散セ
 シメント計リ然ルニ熱狂ノ極ニ達セル群集ハ騎
 馬隊ノ運動ヲ見ルモ容易ニ命ニ從ハス馬ノ進ムニ
 從ヒ一歩一歩退却スルモ機アレハ直チニ雪崩ヲ爲
 シテ騎馬隊ヲ押返サント殊ニ拔石兩ノ如ク杖ヲ
 以テ馬ヲ打テ動モスレハ馬ノ驚逸セントスルモ
 アルニ至ル之實ニ秩序節制アル良民ノ行動ト云フ
 可ヲサルナリ
 形勢漸ク不穩ニシテ今ハ猶豫スヘキニ非ス即チ騎

内ニ屯集セル約三百餘ノ群衆ハ一齊ニ萬歳ヲ絶叫
 シ喊聲ヲ揚ゲテ之ニ隨ヒ疾駆シテ衆議院正門前ニ
 突進シ來リ無数ノ通行人亦足ヲ停メテ是レニ加ハ
 リ惹ニ忽チ五六千人ノ一大集團ト爲レリ或ハ車ヲ
 擁シ或ハ途ヲ遮リ歡呼激聲狂態熟語殆ト名状ス
 可ヲス議員ノ車ハ群集ノ波ニ没シ通行杜絶シ頗
 フル困憊ヲ極ム殊ニ勳モスレバ正門内ニ闖入セン
 トスルニ至リ院内取締警察官頗ル防禦ニ苦シメリ
 廻町中隊ニ屬スル百餘名ノ巡查及三名ノ騎馬巡査
 ハ退散ヲ命ジ聲ヲ囁ラシ手眞似ヲ以テ極力難衝ヲ
 制止スト雖殆ント何等ノ効ヲ養セス群集ノ動搖ニ
 伴フチ却テ議院門前ニ押付ケラレ又如何トモス可
 ラス群衆ノ乱暴ナル遂ニ交通取締ノ人馬共ニ横様ニ
 レタル騎馬巡査ノ馬ノ韁ヲ把持シ人馬共ニ横様ニ
 引倒スニ至ル群衆之ヲ見一齊ニ帽ヲ揚ゲ杖ヲ振リ
 萬歳ヲ絶叫シ或ハ石ヲ投シ或ハ警察官ノ帽ヲ奪ヒ
 喧噪異常然熱狂底止スル所ヲ知ラス今ニシテ之ヲ抑

馬隊ノ威カヲ示シ以テ退散ヲ迫ルノ外途ナキヲ信
シ馬首ヲ辭ヘテ勵声行進ヲ始メシカハサシテ頑強
執拗ナル群集ヲ遂ニ退却ヲ爲シ十字路ノ南北兩方
面ニ疾走散乱シ漸ク一時平靜ヲ回復スルコトヲ得
タリ而シテ此際一名ノ負傷者ヲ生シタルコトヲ得
唯僅カユニ足リ下駄ヲ遺失シタル者アルニ過キ
又

自午後一時至今二時状況
各中隊ハ是ニ於テ總員ヲ配置シ益交通取締ニ努
一方法議院正門ニ通スル道路ノ街角ニ於テ通行人ヲ
制限シ議員ノ傍聴人面會人其他議員出入者以外
者ノ通行ヲ一時拒絶スルノ止ムナキニ至レリ然ラ
サレハ兩ヒ正門前ノ混雜ヲ惹起スルニ至ルコト必
然ニシテ之レ當時最モ適當ナル處置タリシナリ
午後一時三十分頃議院停會ヲ表セラレ閉會
トナルヤ七百有餘ノ傍聴人ハ一時ニ通用門ヲ
出テ、正門前ニ迫リ再び以前ノ混亂ヲ繰リ返

サントスルノ形勢アルヲ以テ直チニ通用門東部ニ
於テ此等ノ群衆ヲ制止シ慰諭シテ途ヲ以テ西ノ道路
ニ採リ虎ノ門跡方面ニ出テシム衆之ニ反抗シ正門
前ニ至ルノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ稍々
喧噪ス此時議院階上ノ窓口ヨリ一人ノ者首ヲ出シ
テ大声叫シテ曰ク警察官ニ於テ其ノ往來ノ通行ヲ
許サスンハ諸君ハ正門ヨリ出ツヘシト仍テ群衆ノ
過半ハ議院構内ヨリ正門ニ向テ突進シ貴族院ノ角
ヲ經テ内幸町ニ出テ一般ノ群衆ニ合シタリ
初メ正門前ヨリ退却ヲ爲シタル群衆ノ大部分ハ大河
決スルカ如ク雪崩ヲ爲シタル内幸町通りニ進ミ日比
谷公園西幸門附近ヨリ同内幸門附近ニ至ル廣闊ナ
ル道路ニ充満シ凝集シテ動カス其數幾萬ナルヲ知
ラズ群集中或ハ電柱ニ上リ或ハ他人ノ肩ニ上リ跨リ
テ演説ヲ試ムル者アリ警察官ニ石ヲ投シ或ハ帽ヲ
奪ヒテ破毀スルアリ當時部下ヲ指揮シテ取締ニ從
事シタル宮越警視ハ投石ノ爲メニ微傷ヲ負ヒ向上

警視ハ群集ノ為メニ帽ヲ奪ハシ乱打セラル、ニ至
ル其狀頗フル不穩ニシテ眞ニ憂慮ス可キモノアリ
此時ニ當リ十数名ノ議員人カ車ニ乗シテ都新聞社
前ヲ過リ勸業銀行方面ニ通過セシトス胸間ニ白薔
薇ノ微章ヲ見シハ萬歳ヲ運呼シテ自ラ通路ヲ開ク
ト雖微章ナキ者ニ對シテハ罵詈訕官僚ノ大隈
族ノ走狗ト叫ビ人カ車ヲ破壊シ議員ヲ殴打セシト
スルニ至ル騎馬巡查ヲ認メ急遽馬首ヲ群集内ニ
進メ漸クニシテ救助スルコトヲ得タルコトニ因
テ其ノ後間モナク参謀梅谷警視ハ小演司令長ノ
テ承ケ人カ車ニ乗シテ現場ニ來リ右ノ群衆ヲ横
ムニ從ヒ徐ニ車ヲ進メテ濃厚トナリ過シタルモ
止ムナキニ至リ此時群集中ハ昨日國技館ニ
於テ演説中ニ止シタル不埒ノ徒十人カ車ハ直
ニ喧囂ヲ忽トシテ暴威ヲ逞ニ逞ク倒シ人カ車ハ
粉砕セラレ梅谷警視ハ地上ニ轉倒シ群集身辺ニ殺

列シ来ルニ人、車夫身ヲ以テ警視ヲ施護シ、纔ニ一
 方、血路ヲ開キテ身命ヲ免ウスルコトヲ得タルニ
 車夫ハ為ニ負傷スルニ至レリ之實ニ良民ノ行動ト
 云フ可ラス彼等ヲ呼フニ暴民ヲ以テスルニ又之ニ
 酬ムルノ辞ナカルヘク其ノ暴状ヤ實ニ赦ス可カラ
 ルナリ
 都新聞社前幾萬ノ暴民ハ抵抗頗フル頑強ニシテ警
 察官ノ懇諭制止ヲ肯セス現場ヨリ歸リ散スル者甚
 タ稀ニシテ来リ加ハル者却リテ益多シ暴民ハ當ニ
 喧騒暴行ヲ以テ甘ンセス今ヤ何事カノ勃発センコ
 トヲ期待セルガ如ク容易ニ動カス光景轉々悽愴ヲ
 覺エシム
 自午後二時至今三時狀況
 暴民ノ集團ハ依然トシテ去ラス却リテ益々混乱ヲ
 極ム小濱司令長ハ人道以外ノ群集ヲ退散ス可キコ
 トヲ命シ現場ノ梅谷警視之外ノ群集ヲ退散ス可キコ
 ツ群集ノ中央ニ一條ノ通路ヲ開キテ通行ノ安全ヲ先
 31

確保セントシ一隊ノ警察官ヲ指揮シテ其ノ任ニ當
 ラシメシモ其ノ目的ヲ達スルコト能ハス更ニ止ハ
 無クニ十三騎ノ騎馬隊ヲ命ヲ傳ヘニ列縱隊ヲ以
 群集ノ中央ニ進入シ一隊ハ群集ヲ厄方ニ一隊ハ右
 方ニ排除シ以テ通路ヲ開カシメ更ニ制服巡查ノ一
 隊ヲシテ其ノ後ニ從ヒ其ノ通路ヲ保護スルノ任ニ
 當ラシメタルモ暴民ハ騎馬巡查ニ向テ頻リニ瓦礫
 ヲ投シ為メタル馬驚逸シテ暴民ノ氣勢又一時ニ昂リ通
 ハス隊伍自然ニ乱レテ暴民ノ氣勢又一時ニ昂リ通
 路再ヒ杜絶セララルノ止ムナキニ至レリ更ニ方法
 ヲ變ヘ日本橋中隊及ヒ應援ノ一箇中隊ト協力シ強
 カヲ以テ暴民ヲ退散セシメント企テ又他ノ一隊ヲ
 ヲシテ彼等ノ背後ニ出テ投石者ノ檢挙其ノ他ノ取
 締ニ從事セシメシモ之亦其目的ヲ達スル能ハスシ
 テ止ミタ
 之ニ及シ他ノ各方面ハ極メテ靜穩ニシテ最早警戒
 ノ必要ヲ見サルニ至リシヲ以テ三時小濱司令長ハ
 32

都新聞社前ヲ除キ院外ノ警戒ヲ解除シ適當ノ人員ヲ止メテ交通整理ニ充テ其他ハ総テ休憩所ニ引揚ク可キ旨ノ命ヲ下セリ斯クテ議院ノ門前ハ以前ノ名残ヲ止メス其平靜殆ント平日ニ異ナラス唯議事堂ノ巍然トシテ夕陽ニ聳ユルヲ見ルノミ

第三章

騷擾ノ発端

都新聞社前ノ群衆ハ益々狂暴ノ状態ヲ持續セリ偶々一青年アリ瘦形疎髯短軀ニシテ新聞記者風ナリ突然都新聞社ニ向ヒ都新聞社顔色アリヤト叫ビタル爲衆同ニ齊ニ全新聞社ニ向ヒタリシニ此時階上ヨリ一社員ノ状況ヲ瞰下スル者アリシカ群衆ハ忽チ馬鹿ツ引込メ其襟巻ハ挂カラ貰ツタシダ口ウ等思罵冷罵ヲ加ヘ俄カニ氣勢ヲ全新聞社ニ轉シ官憲新開ヤツツケ口トテ忽チ瓦礫ヲ飛ハシ爲ニ硝子ハ概不破壊セラレ投石ノ命中スル毎ニ暴民ハ萬歳ヲ絶叫シテ突撃ス警察官ハ尚ホ溫言ヲ以テ議員全部ニ退院セシヲ以テ退散ス可キ旨諭旨スレハ或ハ怒リ

多ク喧々擾々トシテ狂暴ノ程度層層激烈ヲ加ヘ不穩ノ氣勢益々高潮ニ達セントス彼等ハ最早事理ヲ以テ律ス可ヲサルナリ此時ニ當リ偶々都新聞社ハ暴民ノ爲ニ或ハ破壊セラレ或ハ放火セラルハ、度アリ即チ彼等ノ全新聞社前ヲ去ラサル所以ハ畢竟此兇行ヲ敢テセントスルガ爲ニ外ナラスト、噂頻リニ至ル此ノ如キ陰謀ノ伏在スルヲ聞キテハ如何テ力躊躇ス可キ暴民ニシテ一瞬時モ停滯セシム可カラサルナリ事急ニテ間髪ヲ入ル可ラス臨場ノ梅谷警視ハ命ヲ全部ノ騎馬憲兵ニ傳ヘ新聞社前ノ暴民中ニ突進シ是ヲ退散セシム可キヲ以テセリ而シテ騎馬巡査並ニ騎兵憲兵ハ直ニ之ヲ決行シ暴民ノ大部分一時展開セシモ瓦礫飛シテ雨ノ如ク馬ハ奔騰シ驚逸シテ駕御意ノ如クナラス之亦充分ノ奏巧ヲ見ルニ至ラスシテ暫時ノ後引揚ルノ止ムナキニ至リシハ遺憾ナリ

騎馬巡查ノ一隊現場ヲ引揚クルト殆ト全時ニ午
 後三時二十分果然新聞社屋上ニ黒煙ノ濛々トシテ
 拳ヲ見ル之即チ暴民ガ企社裏手物置ニ放火シタ
 ルモノニシテ群集ノ狂暴不穏ナル頑強ニ退散セリ
 リシ所以ヲモテ深ク其目的トスル所アルヲ立証
 スルモトスリ想ハサリキ彼等暴民ノ狂暴ナル証
 至ラントス彼等ハ突ニ暴徒ナリ口ニ立憲ヲ唱ヘテ
 尙ホ旦ツ如此暴挙ヲ敢テスルニ至ル社會ノ安寧ヲ
 奈ル彼等暴民ノ罪ヤ斬シテ救ス可ヲサルナリ
 警視廳樓上ノ鐘ハ戛々トシテ救ス可ヲサルナリ
 急遽ニ馬ヲ駆ツテ出場セリ消防馬車ノ到着スルヤ
 暴徒ハ之ヲ妨害シテ愚罵嘲笑頻リニ瓦石ヲ投シ面
 其働作ヲ妨ケシモ消防隊ハ毫モ怯意スル所ナク
 撲ニ活動シ直ニ消火スルコトヲ得タリ此際室田消
 防本部長ハ投石ノ為メ顔面ニ負傷シ部下ノ消防士
 機関士ニモ亦殺名ノ負傷者カ出スニ至レリ
 都新聞社ニ放火シタル暴民ハ更ニ御用國民新聞社

社ヲ襲撃スルニ至リ、途中一部分ハ岐レテ報知新聞社及讀賣新聞社ニ向ヒシモ其数多カラス國民新聞社ニ向ヒタル主力ノ一團ハ本社印刷工場及本社ヲ襲撃シ瓦礫ヲ投シ棍棒ヲ振ヒ狂暴最モ甚シク辱ヲ放火ヲ試ミテ願ハシ強ナル抵抗ヲ爲シ社員ト關シテ数名ノ負傷者ヲ生スルニ至レリ午後七時頃ニ及ヒ警戒頗ル嚴重トナリ軍隊ノ到着スルヲ見テ到底目的ヲ貫徹シ得サルヲ察知シテ漸次退却ヲ始メ一部ハ新橋ヲ渡リ通行ノ電車ヲ掌握轉手ヲ改打シテ電車ノ交通ヲ絶セシメ更ニ芝口警察署ヲ襲ヒ一部ハ讀賣新聞社ニ向ヒシモ大部分ハ又町中新聞社ニ向ツテ襲撃セリ報知新聞社前ニ於テ越町中隊ノ爲ニ撃退セラレタル暴徒ハ更ニ是ニ加ハリ投石ヲ爲シ放火ヲ試ムルコト四回其ノ暴狀國民新聞社前ニ劣ラス午後八時過軍隊ノ到着ト共ニ警戒嚴重トナルヤ遂ニ同的ヲ達セシメテ退却ト主カハ数寄屋橋附近ニ跳梁シ全交番所ヲ焼燬シ通行電車ニ

第四章 第一章 騒擾ノ經過概要 戒取締ノ一般狀況
 第一節 諸新聞社ノ襲撃
 御新聞社放火後ハ群衆益加ハリ熱狂愈募リ頻リニ國民方面ニ當リ一林ノ黒烟上騰スルヲ望見シ之レヲ竟國民新聞社ノ焼打ノ黒烟上騰スルヲ認シタル群衆ハ忌子其ノ方向ニ驅ケ出シ尙ホ暴行ヲ爲シツ、アリ者モ亦之ニ誘ハレ共ニ其方向ニ從ヒ来リ遂ニ同

又ヨリ新聞社ヲ焼打スヘシト揚言シツ、雪崩ヲ打ツテ京橋方面ニ向ヒ都新聞社前ハ暴徒ノ影ヲ留メサルニ至リタルヲ以テ小濱司令長ハ各部隊ニ命ツ下シ總員ヲ監視廳ニ召集シ各處萬一ノ變ニ備ヘシム時ニ午後三時五十分ナリキ
 暴徒ノ騒擾ハ始マリ帝都ハ今ヤ妖雲暗澹トシテ悲ム可キ慘劇ヲ見ルニ至レリ

向ッテ瓦礫ヲ投シテ其、運轉ヲ阻害シ一部分ハ北
 向シテ鍛冶橋方面ニ突撃シ東レリ
 警視廳方面ニ突撃シ東レリ
 初メ都新聞社ヲ退キ国民新聞社ニ向ヒタル暴徒ノ
 一部ハ途中分レテ直ニ讀賣新聞社ヲ襲ヒシモ
 其ノ勢力微弱ニシテ午後五時四十分頃一旦退却セ
 シカ今七時二十分頃国民新聞社ヲ退キ瓦礫ヲ飛ハ
 部群衆ニ擁セシテ河ニ投棄シ頗ル狂暴ヲ極メ京
 橋交番所ヲ破壊シ河ニ投棄シ頗ル狂暴ヲ極メ京
 退却シテ神田方面ニ向ヒ途中電車通りノ交番所ヲ
 破壊シツ、ニ六新聞社ヲ襲撃セリ
 ニ六新聞社ハ午後八時頃約二三ノ暴徒ニ襲撃セ
 フレヤト新聞社ヲ退キタル一團又之ニ加ハリ瓦
 礫ヲ飛ハシ扉ヲ破壊ナル等狂暴頗フル激シカリシ
 カ今八時四十分頃警戒頗フル嚴重トナリシ為メ漸

次退却セリ

第二項 警察署交番所ノ襲撃

国民新聞社前暴徒ノ一部ハ午後六時三十分頃新橋
 ヲ渡リ新橋交番所ヲ破壊シ芝口警察署ヲ襲ヒ一
 部ハ出雲町交番所ヲ焼打シテ新橋ヲ渡リ再び芝口
 警察署ニ迫リタルモ直ニ撃退セラレ方面ヲ轉シ
 テ蘆荻橋ヲ渡リ木挽町セ丁三原橋木挽町交番所
 ヲ焼打シツ、一部ハ輕子橋ヲ經テ明石警察署ヲ襲
 ヒ一部ハ新富町交番所ヲ焼燬シテ日本橋方面ニ入リ松
 屋町白真橋交番所ヲ倒壊シテ日本橋方面ニ向ヘリ
 や才ト新聞社ヲ退キタル暴徒ノ大部分ハ尾張町交
 番所ヲ焼燬シテ數寄屋橋附近ニ至リ一部ハ北向シ
 テ鍛冶橋方面ニ向ヒ主力ハ警視廳方面ニ突撃セン
 トシ品川中隊ノ為メ支ヘラレ一時退却セシモ獐猛
 ナル彼等ハ警戒ノ下ヲ潜リ三々五々侵入シ来リ先
 鋒ハ直ニ日比谷警察署ヲ衝カントシタルモ警戒
 ノ嚴ナルヲ見テ方面ヲ轉シ有樂町交番所ヲ破壊シ

進チ警視廳ニ迫リシモ直チニ撃退セラル。退キテ内
幸町交番所ヲ襲ヒタルモ目的ヲ達スルコト能ハス
シテ更ニ都新聞社前ヲ過キ衆議院附近ノ群衆ヲ併
セ霞ヶ関交番所ヲ破壊シ焼燬セシタルモ巡察
ノ兵士ヲ見テ返却シ虎ノ門交番所ヲ破壊シ進ンテ
西久保警察署ヲ衝カシトシ同署員ノ為メニ撃退セ
ラレ更ニ櫻田木郷町交番所ヲ襲ヒタルモ之
而撃退セシレテ四散セリ
教寄居橋ヨリ分レテ北向シ鍛冶橋方面ニ向ヒタル
暴徒、一部ハ元時頃同交番所及桶所交番所ヲ焼燬
シ日本橋区内ニ入り各處ノ交番所ヲ襲ヒ漆橋交番
所ヲ焼打シタル後大川端ニホテ永代橋ヲ渡リテ
内ニ侵入セシトシタノ大川端ニホテ永代橋ヲ渡リ
為メニ支ヘラシメタノ大川端ニホテ永代橋ヲ渡リ
リニ六新聞社ヲ迫リテ暴徒ハ一部ハ萬世橋ヲ渡リ
ハ今レテ八時五十分頃萬世橋警察署ヲ襲ヒタルモ
ハ今レテ八時五十分頃萬世橋警察署ヲ襲ヒタルモ

企署員ノ為メニ撃退セラル。今川橋方面ニ退キ暴ニ
破壊シタル今川橋交番所ヲ焼燬シ、一部ハ
常盤橋ヲ渡リテ十時三十五分大手町交番所ヲ焼打
シ更ニ神田橋ヲ渡リテ錦町方面ニ進入セシトシタ
ルモ錦町署員ノ為メニ迎撃セラレテ四散シ他ノ一
部ハ電車線路ニ沿ヒテ浅草橋方面ニ向ヒタリ
外神田署ヲ退キタル暴徒ハ萬世橋警察署ヲ退下旅
籠町交番所ヲ破壊シタル一團ト勢ヲ合ハセ北向シ
テ電車通りノ末廣町元佐久間町黒門町ノ各交番所
ヲ焼打シ、午後九時三十分頃上野警察所ヲ襲撃
セリ途中一部ハ今レテ切通坂ヲ上リ本富士警察署
ヲ襲撃シタルモ全署員ノ為メニ撃退セラレ四散セ
リ
上野警察署ヲ襲ヒタル暴徒ハ署員ノ少キニ乘シ頗
ソル狂暴ヲ極メ元礮ヲ放シ火ヲ試ミ十時頃淺草
方面ヨリ群衆ノ一團来リ加ハルニ及ヒ其勢力益猛
烈ヲ致シ衆寡敵セス遂ニ十時三十分頃同署ヲ焼燬

スルニ至リシハ道際ナリ右ノ暴徒ハ放火後一團又
一團淺草方面ニ向ヒ合羽橋警察署ヲ襲ヒ北松山所
松清町ノ各交番所ヲ焼打シ全九時五十分頃富門茶
屋町交番所ヲ倒壊シ尋テ花川戸交番所ヲ襲撃シ夕
ルモ有志片桐万兵衛ノ説諭ニ服シテ退却シ南元町
署管内ニ入リ全警察署ヲ襲ヒタルモ之亦署員ノ説
諭ニ服シテ退却シ黒船町交番所ヲ焼打シ厩橋ヲ渡
リ本所迄内ニ入リ却シ黒船町交番所ヲ焼打シ厩橋ヲ渡
シ吾妻橋方面ニ趣キ全交番所ヲ襲ヒタルモ原慶警
察署員ノ為メニ撃退セラレテ離散セリ
茶屋町附近ニ輕便シタル暴徒ノ一部ハ翌午前零時
三十分頃千束所ニ丁目小松橋交番所ヲ焼打シ進シ
ヲ金杉方面ニ向ヒ一時頃東西龍泉寺町交番所ヲ焼
燬スルニ至リ
襲ニ淺草橋方面ニ向ヒタル暴徒ノ一部ハ沿道ノ交
番所ヲ焼打シ更ニ分岐シテ其ノ一部ハ西國橋ニ向
ヒタルモ横山警察署員ノ為メニ支ハラレ為メニ橋

ヲ渡ルコトヲ得ヌ其附近ハ騒擾シ他ノ一部ハ左
衛門橋交番所ヲ焼キタル後向柳原七軒所方面ニ向
ヒ翌午前一時頃小島町交番所ヲ襲ヒ有志小掠其ノ
説諭モ其効ナク遂ニ之ヲ焼燬シ北三筋町交番所ヲ
破壊スルニ至リ
翌午前一時頃東神田附近ニ騒擾シタル暴徒ノ一團
ハ今川橋方面ヨリ多町交番所ヲ焼キテ美土代町交
番所ヲ襲撃シタルモ錦町警察署員ノ為メニ撃退セ
ラレテ離散セリ
第二節 騒擾ニ對スル警戒取締ノ一般
都新聞社ノ襲撃ト共ニ暴徒ハ熱狂ノ極勢ニ乘シテ
他ノ諸新聞社ニ未襲スヘシトノ情報頻リニ至ルヲ
以テ小濱司令長ハ襲ニ監視廳ニ引上出動ノ準備ヲ
爲サシメタル各部隊ヲ直チニ夫々要所ニ派遣シ警
戒ニ從事セシム即チ暴徒ノ大部分カ最初ニ押シ寄
セタル國民新聞社ノ危急ヲ救ハシカ爲メニ午後四
時參謀馬場警視ニ命シ京橋中隊ニ属スル等々明石

靈巖島、三箇小隊及小石川中隊ニ属スル白山大塚
ヲ執ラシメ次テ神田中隊ヲ派遣シ七時更ニ板橋小
松川ノ二箇中隊ヲ應援セシム馬場警視全部ヲ指揮
シテ撤宵防備ニ當リ宮越警視ノ率エル神田中隊最
モ防備ニ努メ能ク暴徒ヲ擊退スルコトヲ得タリ
国民新聞社ト殆シト全時ニ讀賣ヤマト一六報知諸
新聞社ニ對シテ同シク警戒ノ必要ヲ認メ午後四時
過麻布中隊霞町本村ノ二箇小隊ヲ除クハ深川中
隊ニ属スル高橋扇橋ノ二箇小隊ヲヤチト新聞社
岡原庭ノ三箇小隊下谷中隊及四谷中隊ヲ讀賣新聞
社ニ派遣シ以テ七時三十分頃小石川中隊大塚白山
ノ二小隊ヲ除クハ六新聞社ニ増派シタリ然ルニ
ヤチト新聞社危急ヲ報續々來ルニ及ビ更ニ本富士
中隊ヲ派遣シ次テ讀賣新聞社ノ警戒ニ當レル下谷中
隊ヲ赴援セシメ全新聞社前ノ暴徒ヲ擊退シ九時過

更ニ十往中隊本所中隊ニ属スル三、橋太平向島ノ
三箇小隊及警察消防練習所受業生ヲ二六新聞社ニ
派遣シテ其危急ヲ救ヒタリ
尚ホ六時三十分並口警察署ニ暴徒襲撃ノ報アルヤ
直チニ新宿中隊ヲ全署ニ派遣シテ之ヲ擊退セシメ
警察ヲ嚴重ナラシム然レトモ如何セシ各警察署
ハ署長以下署員ノ多数ハ前記諸新聞社其他要所ノ
警戒ニ當リ残留員極メテ少數ナリシヲ以テ遂ニ多
ク、交番所ヲ破壊焼燬セラレ上野警察署ノ如キモ
防備ノ力及ハスミテ焼燬セラル、止ムナキニ至
レリ
暴徒ノ騷擾始マルヤ小濱司令長ハ川上警視總監ノ
旨ヲ承ケ各警戒部隊及各警察署ニ命ヲ下シ各自自
重シテ苟クモ輕率妄動スルコトナク且ツ危急ニ際
シ暴徒ヲ擊退スルニ當リ他ニ方法ナキ場合ハ止ム
ヲ得サル處置トシテ稍、依斂ヲ使用スルコトヲ認

容スルニ依リテハ、指示ヲ與ヘ、各部隊及警察署に残留署員ハ之ニ依リ、敢テ輕忽ノ舉動ヲ爲シ、タルハ、之ヲ當テ、狀
 況全ク止ムヲ得サルニ出テ、最モ適當ノ措置ナリシ
 コトヲ認ム
 之ヨリ先、騷擾市内各處ニ蔓延ノ兆アルヲ警視總監
 ハ東京府知事ニ交渉シ、橋成總督部ニ出テ、要取ヲ
 爲シ、總督部ハ同夜八時頃、直ニ諸新聞社ニ若干ノ
 歩兵ヲ派遣シ、警護セシム
 如ク半夜跳梁ヲ恣ニシタル暴徒ハ翌午
 前二時頃ニ及ビ、遂ニ全ク其影ヲ潜メ、妖雲散シテ、満
 天ノ星光殊ニ燦々リ、此ニ於テ五新聞社前ニ少數ノ
 人員ヲ留メテ、撤宵警戒ニ當ラシメ、他ノ各中隊ハ、総
 子引上ヲ命ジ、歸署セシム
 翌十一日午前十時、川上警視總監ノ命ヲ承ケ、小濱司

令長ハ各中隊長ニ對シ、特別警戒ヲ召集規程ニ基ク部
 隊ノ編成ヲ解除スルノ命令ヲ發シ、茲ニ特別警戒ハ
 終ヲ告ケタリ

二月十日院外警戒部隊一覽表

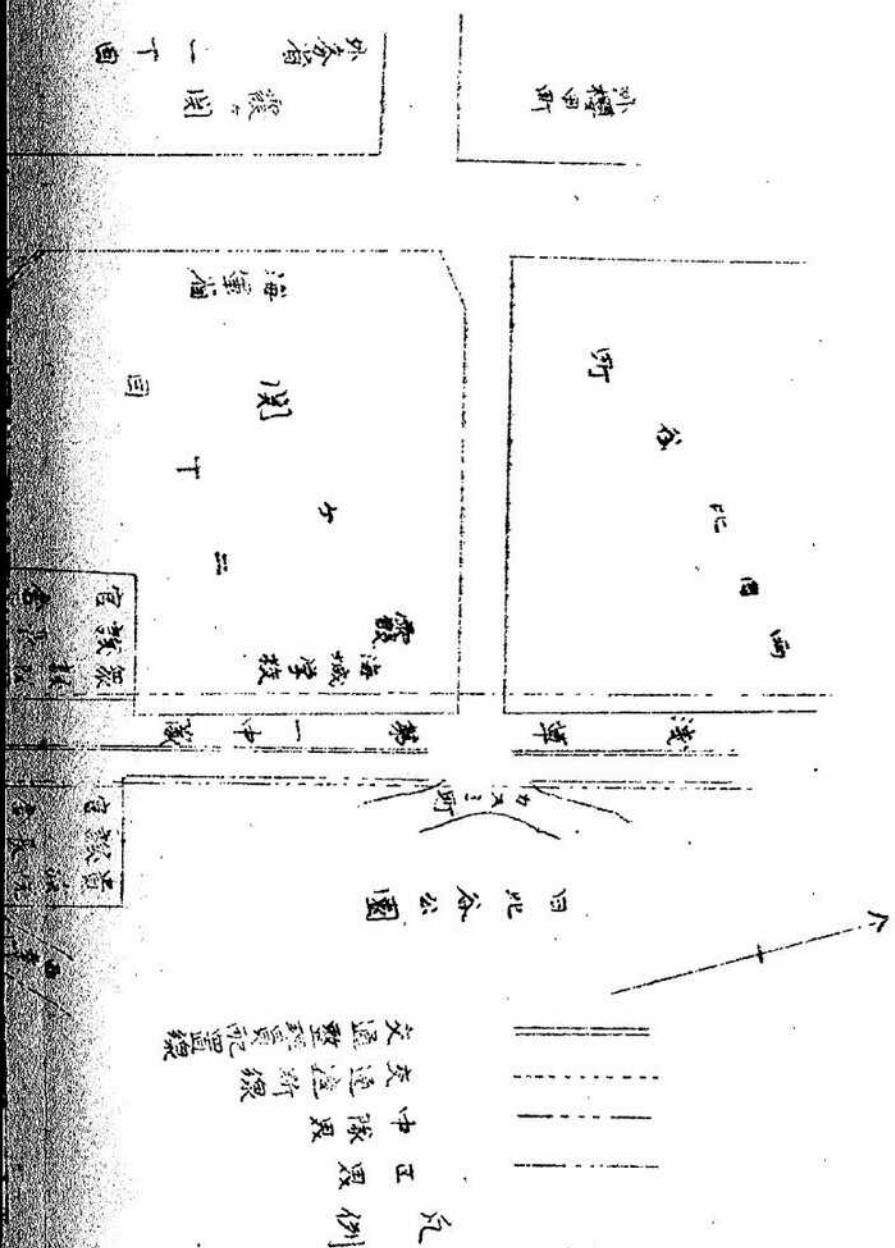
種別	隊名又課署名	集會場所	召集時刻	警戒巡查員數
議院附近	大塚町日本橋(水上着) 大塚白山(倉) 延才一 麻布四谷(三) 間坂月島 三倉(本所) 浅草(才) (南元町) 七軒(才) 倉 品川(舊地) 昭石(舊) 昭石(倉) 芝草三馬道(向) 昭石(倉)	相馬邸 外務省構内 琴平亭 福富館	午前九時 九時	三三 一三二 九五三 一五 一五八
公園内	下谷本所 深川	本廳道場	午前十時	三三 四六 三七六 四二 四一八
交通取締	新宿(十往) 小石川(大塚白山) 除少	本廳道場	午前九時	一三五 一九 一五四 二二 一七六
司令部豫備	板橋小松川(一部) 然	院内演武場	午前十時	七八 一二 九〇 二 一〇一
全	神田本所 浅草(水上) 中區本所 板橋小松川	本廳道場	午前十時	一〇 二一 一三 五〇 一七一
特別私服隊	赤坂 搜查係	本廳道場	午前八時	七 七 二九 二九
偵察係	牛込 搜查係	本廳金邊	午前八時	二 二 八 八 九九
小計				三三八 三三八 四六 四六 三五一

召集待合	練習生受業生	本局職員	午前十時	午後一時
司令部	神田京橋及捜査係			
合計			一五九七	二四三二
			五	五
			一〇	一〇
			四二六	三六六

50

0072

院 外 警 戒 置 路 圖



116



0073



風雲ハ幾度カ遷轉シテ遂ニ圖ラヌニ月十日暗
 傳タル所ト見ルニ興奮セル一部民衆ハ稍々平
 シタルモ坊間頻リニ後継内閣組織ハ稍々紛々
 ル輩語ヲ放ツ者アリ民心再ヒ常調ヲ失ハシト
 事態稍憂慮スヘキモアリキ
 二月十三日ハ第三回停會後議院、閣會アルハ
 十リ騒擾後ノ警戒ハ可成民心緩和ナル方ヲ
 取リ小濱第一部長ハ比谷署長弘田警視ニ命シ
 町組合署非番全員七拾名ヲ指揮シテ各處ノ警
 從事セシメ私服巡查六十名ヲ以テ各處ノ警
 察セシメ尚ホ豫備隊一百名ヲ警視廳ニ召集命
 シ正午過タル頃漸ク頻繁トナリ午後二時頃
 二及ヒ正門前通路ヲ往來スル群衆約千名ニ達
 シタルモ殊更ニ喧噪不穏ノ態ナク集約テ退院
 萬歳ヲ唱フルノ外又何等ノ暴行ヲ爲サレトスル

者ナシ遂ニ午後四時頃ニ至リ全部退散シテ此ノ事
 故ヲモ生セナリ
 越エテ十七日夕神田青年會館ニ於テ青年黨五團體
 主催ノ下ニ殉國志士追悼演說會ヲ開催セラル
 ルアリ即チ時局ニ関シ所謂硬論ヲ喚起セシカ爲メ
 ナリト傳ヘラル聴衆約六百名又曩日熱狂ノ態ナカ
 リシカ後チ立石駒吉起ツテ今夜決議文ヲ讀ミテ政
 友會本部ニ赴キ幹部ニ會見シテ之ヲ激勵セシトス
 若シ諸君ニ於テ賛成スル所アリハ茲ニ示カ如キ提
 燈ヲ買取メタル上此行ニ参加セラルハ午後九時
 白交色ノ酸漿提燈ヲ示シテ提燈頗ル力ハ午後九時
 二十分頃開會スルニ及ヒテ提燈ヲ購フ者六十餘
 名先鋒トナリ他ノ聴衆亦續々之ニ從ヒ南方並方
 二押寄せシトス其ノ狀一種ノ多衆運動ヲ惹起セシ
 トスルノ虞アリ警察官ニ於テ其ノ行動ノ靜穩ナラ
 シコトヲ戒告スル所アリシ爲メ一行ハ散テ隊伍ヲ
 爲スカ如キコトナク三々五々前後シテ其數約百五

十餘名並愛宕ナル政友會本部ニ赴キタリ
 群衆ハ敢テ熱狂ノ態ナク暴行ヲ爲スノ虞ナキヲ以
 テ警戒取締ハ外面ニ之ヲ表ハサス愛宕警察署ニ組
 合着非番總員ヲ召集シタルモ多數配置スルコトヲ
 避ケ主トシテ状況偵察ニ努メ以テ萬一ノ變ニ備フ
 ルコトト爲シタリ
 群衆ハ政友會本部ニ至リ同會幹部員ニ面會ヲ求メ
 タルモ不在ナルヲ以テ山口熊野外教氏之ニ接見セ
 シニ青年團ノ山際末ハ今夕吾人ハ一片報國ノ赤誠
 ラ新フル爲メ訪問シタリト希望ヲ述フル所アリ
 次テ青年團ノ前田郁ハ今ヨリ原邸ヲ訪問セシト諮
 リ衆皆之ニ應ス内ニ一人ノ者アリ本夕青年會館ニ
 於テ決議シタル決議文ヲ朗讀スルノ必要アリトテ
 之ヲ讀ミ上ケ終テ萬歳ヲ三唱シ本部ヲ退出シ一部
 ノ少數者ハ海軍大臣官邸ニ向ヒ多數ハ原邸ヲ訪ヘ
 リ海軍大臣官邸ニ向ヒシ者ハ約十四五名ニシテ十
 時三十分頃同官邸ヲ訪ヒタルモ直チニ退出シテ四

聖十九日夜再、袖田青年會館ニ於テ帝國青年黨
 會式並ニ政談演說會ヲ開ク昨夜ノ事實ヲ誇大ニ報
 道シタル新聞記事ハ著シク民衆ノ好奇心ヲ挑発シ
 タルモ、新聞記者ノ如ク聽衆願アル多ク、約三十名ニ達ス、演
 說ハ熱烈ノ語調ヲ帶ヒ、聽衆大ニ熱狂ス、田中弘之ノ
 演說中、辯士控所ノ後窓ヨリ時事新報號外ヲ投入シ
 タルモ、ノテリ、聽衆之中ハ之ヲ誦讀シ且ツ政友會ハ
 シト叫ビテ喧囂ス、田中ハ之ヲ誦讀シ且ツ政友會ハ
 大讓歩ヲ為セリト叫フ、滿堂ノ聽衆一時ニ激昂シ
 怒踴湧ク、カカリト叫フ、一齊ニ政友會本部ヲ燒クハシ
 ト絶叫シ、場内騒然トシテ事態容易ナラス、今ヤ演說
 ヲ聞クノ要ナシトテ起ツテ陸續場外ニ出ツル者約
 一千名、内四五百名ハ會館前ニ一團トナリ、喊聲ヲ上
 ケ、神田橋ヲ渡リ、通行ノ電車ニ瓦石ヲ投シ、或ハ之ヲ
 俾ノテ乗客ヲ降車セシムル等、熱狂ノ極、號叫ハ之ヲ
 愛宕方面ニ向ヘリ、時ニ午後八時過寒風漸烈トシテ
 面ヲ向ク可ラズ、警戒頗ル意ヲ用ク可キモ、漸トシテ

散シタリ、原邸ニ於テハ主人不在ナリシヲ以テ居合セタル告
 領武藤小川ノ三代談士之ヲ迎ヘ、訪問者中ヨリハ委
 員トシテ前田郁松井某外數名ヲ選ヒテ本部ヲ訪シタル
 カ、明日午前十時、委員二十名ヲ選ヒテ本部ヲ訪シタル
 キ、皆勸告說論ヲ受ケ、松井某外ニ選ヒテ代表者トシテ
 殘留シ、他ハ全部政友會本部ニ引揚ケタリ、代表者トシテ
 本部ニ引揚ケタル者ハ約六十餘名ニ過キス、他ハ凡
 テ還散シタリ、翌午前一時頃、赤尾藤吉郎本部ニ來リ
 青年團員ニ對シ、還散ス可キ旨說論シタルモ、容易ニ
 應セズ、來訪者ハ遂ニ撤宵シ、翌午前七時半頃ニ及ヒ
 與繼義太郎前田郁松等十一名、委員ヲ殘シ、他ノ團員
 ハ芝公園ニ於テ、飯路ニ就テソコトシ、公園ニ引揚ケ
 直シ、四散シテ、飯路ニ就テソコトシ、公園ニ引揚ケ
 大レヨリ、右委員ハ吉植庄一郎ヨリ、輕拳妄動ヲ慎ム
 ハ、皆懇諭セラレ、深ク其ノ厚意ヲ謝シ、再ヒ來訪セ
 リルハ、皆懇諭セラレ、深ク其ノ厚意ヲ謝シ、再ヒ來訪セ
 十一時退散セリ

聴テ政友會本部ヨリ一名ノ者出テ来リ相當ノ挨拶
 瓦石ヲ投スル者アリタルモ群衆ハ容易ニ之ニ從ハス
 ヲ増加シ群衆ノ中間ニ一列ニ配置シテ彼等ノ勢力
 ヲ殺キ原即ニ赴カシメス且ツ謾言ヲ以テ議論退散
 命ヲタルニ彼等ハ其目的ヲ達スルコト能ハサル
 コトヲ察知シ遂ニ退却四散シタリ
 其ノ際彼等ハ国民中央新聞社ヲ襲撃スルハシト揚
 言シテ勢更ニ揚ラシメ全ク事無クシテ終レリ
 一方青年會館ニ於テハ聴衆ノ一部會場出テタル後
 田中弘之ハ尚ホ演説ヲ繼續シ全人ノ演説終ルヤ聴
 衆兩ヒ喧噪シ場内騒然タリ時ニ服部綾雄漸ク之ヲ
 鎮撫シテ演説ヲ繼續シ午後九時頃再ヒ服部綾雄ハ
 傍聴人入口ニ出テ繼續シ午後九時頃再ヒ服部綾雄ハ
 聴カニ退場シタルモ約三十名残留シ主催者ニ對シテ

先是小濱第一部長ハ急ヲ聞キテ午後七時頃芝組合
 警察署長以下組番全員ヲ愛宕警察署ニ召集シ更ニ
 麻布組合非番全員ヲ法元警視指揮ノ下ニ愛宕警察
 署ニ赴援セシメ政友會本部並ニ原邸ノ警戒ニ從事
 セシム尚ホ榎町組合署非番總員ヲ榎町警察署ニ召
 集シテ海軍大臣邸ノ警戒ニ備ヘシメ京橋組合警察
 署非番總員ヲ築港警察署ニ召集シ國民中央新聞
 社ニ對スル警戒ノ準備ヲ爲シタリ
 午後九時頃群衆ハ政友會本部前ニ着シタルニ本部
 ハ門ヲ鎖シテ入場セシメス
 小濱第一部長ハ豫メ芝元署長古川警視ニ命ジ最初
 ヲリ多數ノ警察官ヲ配置シテ反テ群衆ノ氣勢ヲ激
 成セサルノ方法ヲ取リシム仍テ極メテ少數ノ制服
 及私服巡査ヲ中同ニ配置シテ專ラ慰撫ニ力メテ之
 ヲ緩和シ又原邸ノ警戒ノ準備ヲ整ヘ萬一ノ事變ナキコ
 トヲ確配置シタルヲ

頻リニ決談文、朗讀ヲ迫リテ、朗讀ニテ全部退散
シ又何等ノ事ナリキ。
翌二十日、内閣成立ヲ告ケ興奮セル民心ノ隨力漸ク
冷却シ、震日ノ暴民再ヒ善良ナル市民ニ復シテ今ヤ
全ク非常警戒ノ必要ヲ見サレニ至レリ。

(終)

大正二年
二月

騷擾事件記録

各論

各 編 目 次

第一章	緒 論	一
第二章	五新聞社前ニ於ケル襲撃ノ状況	五
第一節	國民新聞社	五
第二節	やま新聞社	八
第三節	報知新聞社	一一
第四節	讀賣新聞社	一二
第五節	二六新聞社	一四
第三章	警察署交番所ニ對スル襲撃ノ状況	一五
第一節	超町區	一五
第二節	日比谷警察署管内	一六
第三節	紀尾井警察署管内	一七
第四節	京橋區	一八
第五節	三十間堤警察署管内	一九
第六節	京橋警察署管内	二一
第七節	築地警察署管内	二二
第八節	明石警察署管内	二三

第五項	靈巖島	警察署管内	二八
第三節	芝 區		
第一項	芝 口	警察署管内	二九
第二項	愛宕	警察署管内	三一
第三項	西久保	警察署管内	三二
第四節	日比谷橋區		
第一項	新場橋	警察署管内	三三
第二項	箱崎	警察署管内	三四
第三項	堀留	警察署管内	三五
第四項	久松	警察署管内	三六
第五項	横山	警察署管内	三七
第五節	神田區		
第一項	萬世橋	警察署管内	三八
第二項	外神田	警察署管内	三九
第三項	東神田	警察署管内	四〇
第四項	錦町	警察署管内	四一

第六節	下谷區	
第一項	竹所警察署管内	五四
第二項	上野警察署管内	五五
第三項	金杉警察署管内	六一
第七節	浅草區	
第一項	合羽橋警察署管内	六二
第二項	馬道警察署管内	六四
第三項	南元町警察署管内	六五
第四項	向柳警察署管内	六六
第五項	家湯警察署管内	六八
第八節	本郷區	
第一項	本富士警察署管内	六九
第九節	本所區	
第一項	吉岡警察署管内	七〇
第二項	庭警察署管内	七二

第十節	深川區	
第一項	永代橋警察署管内	七四
第三章	犯罪人、檢舉附私服務員ノ活動	七七
第四章	騷擾ニ因テ生シタル損害並ニ人民	
第一節	警察官ノ負傷	八二
第一項	財產上ノ損失	八三
第二項	新聞社ノ被害	八四
第二節	警察署交番所及電車ノ被害	八五
第二項	人民及警察官ノ負傷	八六

第一章 論

騷擾ノ發端及其經過ノ大要ハ既ニ總説ノ部ニ於テ説明シタリ本編ニ於テハ各方面ニ於ケル狀況ヲ部分的ニ記述シ終ニ犯罪者ノ檢舉及騷擾ニ因テ生シタル損害ニ關スル章ヲ設ケテ終ラ告ケントス都新聞社前ニ於ケル騷擾ノ直接ノ動機ハ極メテ單純ナリ一青年ノ揚言ニ始マリ遂ニ放火スルニ至ルニ全ク激成セラレタル一部民心ノ帰嚮ノ此ニ及ハルモノニシテ此ニ細ナル偶然ノ事實カ終ニ此ノ如慘劇ヲ惹起スルニ至レルハ誠ニ遺憾極マリナキ事ニ屬ス然ルモ大事ハ既ニ發生セリ溜々トシテ其ノ餘波ノ及フ所測リ知ル可カラズ國民々々ト讀賣ニ六報知ノ諸新聞社必カ為ニ害ヲ蒙ハリ延テ警察署交番所モ亦襲撃セララルハニ至ラントス事ハ往々豫想ノ外ニ出テ豫想外ニ變転ス議院附近ノ靜謐ヲ維持セシカ為メニ組織シタル各部隊ハ直

ニ市内騷擾ノ鎮壓ニ從事スルヲナレリ而シテ此際ニ於テハ極カ市民ノ身体財産ヲ保護スルヲ以テ最モ緊要ナリト為スカ故ニ都新聞社前ニ於テ騷擾ノ勃發スルト共ニ午後三時五十分小湊第一部長ハ各中隊ヲ一ト先警視廳ニ引上ゲシメ次ヲ暴徒襲撃ノ虞アル要所ニシテ配置シメリ(前表參照)午後四時五十分小湊第一部長ハ川上警視總監ノ旨ヲ承ケ各中隊長及各警察署ニ命ヲ下シテ曰ク今ノ不穩ノ情勢廣ク市内ニ漲ラントス警察署ノ建物共他一般警戒ノ上深ノ注意スルヲ要ス殊ニ警戒嚴密ニ從事スル者ハ慎重事ニ當リ苟モ輕率妄動シテ事端ヲ惹起セザルトニ留意ス可シ輕忽怯懦ナリ可動ヲ為シカ如キハ所シテ之ヲ許サスト此ノ如クニシテ警察署ハ殘留セル極メテ少數ノ員ヲ以テ極力防衛ノ途ヲ講シ若シ殘留署員少數ニシテ警察署ノ警戒薄弱ナリト認ムルトキハ立當

査ヲ引上ケ歸署スルヲ許シ專ラ新聞社其他暴襲
警ニ對スル一般市民ノ保護ニ任シタリ而カモ其ノ
範圍ノ擴大スルニ付テ萬一警戒ノ充分行届カザラ
シマハ慮リ警視總監ハ東京府知事ニ交渉シ衛戍總
督ニ出兵ヲ要求シ、衛戍總監ハ直々ニ其ノ要求ヲ容
シテ午後七時頃ニハ市内要所ニ數十名ノ巡警兵ヲ
派遣シ警察官ト協力シテ防衛ノ任ニ當リ暴民ヲ鎮
壓シテ遂ニ著シキ損害ヲ見ルナカリヤ

裏面白紙



中隊名		配置場所	派遣時間	引上帰着時間
通町	大部八穀知新聞社一部八穀理大臣官邸 内務大臣官邸日比谷本署	午後五時	午後十一時	
神田	國民新聞社	午後四時三十分	午後九時三十分	
日本橋	都新聞社毎日新聞社	午後三時三十分	午後十二時	
京橋	國民新聞社	午後三時三十分	午後十二時	
芝第一	愛宕警察署	午後七時	翌午前十一時	
芝第二		午後七時	翌午前十一時	
麻布	やまと新聞社霞町本町支隊陽明館	午後四時三十分	翌午前五時	
四谷	讀賣新聞社	午後六時三十分	翌午前四時三十分	
小石川	大部分二六新聞社 一部山縣旭町	午後四時	午後十二時三十分	
本郷	やまと新聞社	午後八時三十分	午後十一時三十分	
下谷	讀賣新聞社	午後五時三十分	午後十一時	
浅草第一	日比谷公園附近	午後九時	午後十一時	
浅草第二	内務大臣官邸	午後十時	午後十一時	
本所	讀賣新聞社 二六新聞社 やまと新聞社 争現正門前 争現正門前 争現正門前	午後四時 午後四時 午後四時 午後四時 午後四時 午後四時	翌午前八時 翌午前八時 翌午前八時 翌午前八時 翌午前八時 翌午前八時	
品川	讀賣新聞社 二六新聞社 やまと新聞社 争現正門前 争現正門前 争現正門前	翌午前二時	翌午前八時三十分	
新宿	芝口警察署	午後八時	翌午前五時三十分	
板橋	國民新聞社	午後七時	翌午前六時	
小松川	國民新聞社	午後七時	翌午前十一時三十分	
千住	二六新聞社	午後九時三十分	翌午前十一時三十分	
練馬	二六新聞社	午後七時	翌午前七時	

第二章

諸新聞社前ニ於ケル襲撃ノ状況
騷擾ハ都新聞社ニ殆ゞ次ヲ国民山ト讀賣ニ六
ノ各社ニ擴大シタリ都新聞社前ニ於ケル状況ハ總
説部ニ詳説シタルヲ以テ茲ニハ国民其他ノ新聞
社前ニ於ケル状況ヲ記述スベシ

第一

國民新聞社前ニ於ケル状況
都新聞社前ニテ狂暴ヲ逞ウセル暴徒ハ全新聞社ニ
放火ヲ為シ濃々タル黒烟ノ揚ルヲ見テ觀呼止マス
一層喧騒ノ度々高々シカ聞エナク警察官消防隊ノ
盡力ニ依リ消火スルヤ衆口一齊ニ國民山ト讀賣
ヲ撻打スハシトテ山ノ如キ大集團ハ動搖ヲ始メ京
橋區日吉町ナル國民新聞社ニ向ヘリ時ニ午後三時
四十分頃ナリヤ
暴徒ハ先ヅ國民新聞社向側ナリ全社印刷工場ヲ襲
ヒ盛ニ瓦礫ヲ投シ更ニ進ミテ雪崩ノ如ク新聞社ニ
押寄セ十重二十重ニ全社ヲ包圍シ附近道路路次
總テ人ヲ以テ埋メシレ其ノ數幾萬ナルヲ知ラズ怒

號惡黨萬々トシテ致気横溢ハ彼等ノ投スル瓦礫ハ6

霰ノ如ク忽ケニシテ全社階下及階上ノ硝子窓ヲ粉
碎シ其勢猛烈ニシテ殆ント面ヲ向ク可カラズ新聞
社ハ消防隊ヲ備ヘテ開ケテ素心防禦ニ努ムルモ
暴徒動モスハハ戸ヲ破リ窓ニ攀チテ階ハセントス
ルニ至リ遂ニ二三ノ社員力ヲ振翳シ短銃ヲ発射
シテ防衛スルニ至リ為ノ一隊集中一名ノ死傷ニ至
名ノ員傷者シ生シ社員一人亦傷リ其ノ混亂ヲ狀
スハカニテ時勢三十間堀警察署ハ急ニ巡査隊
長一名巡査七名ヲ派遣シテ防衛ニ從事スト雖モ
底能クスル所ニ非ス
先ニ是ハ須司令長ハ國民新聞社ノ危急ヲ聞キ司令
部參謀馬場警視ニ命ジ全社ノ救援ニ赴カシム馬場
警視即チ小石川中隊ニ屬スル白山大塚ニ小隊ヲ
申田中隊ニ屬スル西神田小隊ヲ率ヒ到リ新聞社道
路ニ配置シテ防禦ニ努ム時ニ午後四時半ヨリガ
直ニ神田中隊長宮越警視及築地中隊長小林警視ハ

司令長ノ命ニ依リ部下ヲ率テ全社ニ急行シテ防衛ニ從事シ馬場警視ハ全隊ヲ指揮シテ勇猛退散セシメントスルモ應セズ短銃ヲ発射シタル社員ヲ逮捕シ問センコトヲ迫ツテ止マヌ勅モスレハ屋内ニ侵入シ急トスルヲ以テ該社員ノ已ニ逃走シタル旨ヲ告グルモ肯セズ反テ警察官ニ反抗シ愈々狂暴ヲ極ム殊ニ東隣ノ陽ノ國成新聞社ニ焼ヤ焼ヤヘシ社内ヲ撲ケ殺シ可シト叫ビ新聞紙ニ火ヲ莫シラ社内ニ投入シ火ニ疊落ノ類ヲ附近ヨリ奪ヒ其ノ社内ニ放火スルコト數回其都度死力ヲ盡シテ火ヲ消シ止メ得タルモ其ノ狀ヲ警視ハ奪然部下ニ命シ刀ノ鏢ヲ外シ鞆ノ底振舞ヒテ暴徒ニ向ヒ突撃ヲ試ム此ノ英斷能ク功ヲ奏シテ暴徒ハ十數間退却スル至ル此ノ際宮越警視ハ頭部ヲ

一輕傷ヲ負ヒ部下亦數名負傷スルニ至レリ午後六時三十分頃板橋中隊ハ司令長ノ命ニ依リ表ニ應援ス馬場警視ハ直ニ全中隊ニ命テ神田中隊ノ同様北方ノ暴徒ヲ驅逐セシメ更ニ白山大塚月島ノ三小隊及小松川中隊ヲシテ南方難波橋方面ノ群集ヲ驅逐セシム異氏ハ頻リニ投石シテ警察官中而ニ負傷スルモノ多シ斯ニテ警戒線ヲ嚴ニシ交通遮斷ヲ行ヒ漸ク暴徒ノ退却セシムルコトヲ得リ時ニ午後七時頃ナリ次ニ約七十名餘ノ軍隊ノ表ノテ警戒ニ從事スルに至リ茲ニ全ノ同社及其ノ附近ハ危險ヲ脱スルを得タリ群集ハ警戒ノ嚴ナルヲ見テ八時頃ナリ次第ニ退散シ十時過タル頃ニハ殆ド警戒ノ必要ヲ見ルニ至レリ

第二節 やまもと新聞社前ノ狀況

都新聞社前ヲ退クタル群集ハ分ニテやまもと新聞社ニ押シ寄セ来リ盛ニニ投石ヲ殆一タルモ其ノ數々

ヲ構ヘ其ノ一ノ破損シテ頭ノ鉄軌共ニ他ノ物品
ヲ奪ヒ其ノ警察官ニ向テ投テ始メ戸校ヲ以テ憲兵
ノ馬ヲ押壓スル等暴徒次第ニ募リ為ニ憲兵隊ハ
退却スル止ムサメニ至リ暴徒其ノ隙ニ乘シテ突
進シ新聞社正面西端ノ掲示板ヲ破壊シ其ノ支柱ヲ
枝ヲ警察官ニ打掛リ若アリ扇橋署巡査部長吉村善
藏ハ之ヲ奪テ暴行者ヲ逮捕シテ此ノ間ニ暴徒ハ
隣家自動車店ヲ襲ヒ石油ト神纏トヲ奪ヒテ之ニ其
火ヲ放シタルコト狂暴ノ狀實ニ國民新聞社前ニ其
一ラス放火スルコト前後四回警察官死カシ傷ミ
能ク之ヲ消滅スルコトヲ得タリ而シテ狂暴益々
リ群衆愈々其ノ數ヲ増シテ司令長ハ本邸中隊長黒
堀大佐破損シテ被テ司令長ハ本邸中隊長黒
警視ニ急派シ援救セシム黒川警視ハ部下全員ヲ
ヒテ現場ニ達シ群衆ヲ驅逐シ西ハ銀座三丁目四
東ハ金社陽四辻ヨリ約一丁許リニ於テ交通断絶
ヲ成リテ警戒ニ危急ヲ脱スルコトヲ得タリ

次デ午後九時頃井田警視ノ率ユル下谷中隊ヲ派遣
シ引續キ警戒ニ從事セシメ初メテ平穩ニ歸入ルコ
トヲ得タリ

第三節 報知新聞社前ニ於ケル狀況

麹町区有樂町ナリ報知新聞社モ亦暴徒ノ襲撃スル
所トナレリ都新聞社ヲ退クタル暴徒ノ一部ハ分レ
テ報知新聞社ヲ包圍シタルモ人數少カリシ為メ暫
時群衆ノ集マルコト待リ遂ニ其ノ數約一千名ニ達シ
午後四時五十分頃ヨリ喊声ヲ擧ゲ投石ヲ始メ全社
ノ硝子窓ヲ破壊シ或ハ清板ヲ外シ未リテ扉ヲ打破
ル等暴行ヲ逞ウシタルヲ以テ麹町中隊ヲ派遣シ警
戒セシメ之ヲ散寄座橋方面ニ驅逐シタリ
午後七時頃更ニ暴徒ノ一團約四百名襲来シ報知
新聞社ヲ破壊セシメタルモ日比谷警察署前ニ之
ヲ迎ヘ撃退スルコトヲ得タリ

第四節 讀賣新聞社前ニ於ケル状況

国民新聞社ニ向ヒタル暴徒ノ一部ハ岐レテ讀賣新聞社ニ去襲シタルニ其ノ勢微弱ニシテ午後五時四十分頃一旦退却セシムルニ至リ、其時ニ至リテ再ヒ暴徒ノ團ハ群衆ニ擁セラレテ来リ、電燈ヲ飛ハル狂暴ヲ極メ、怒聲惡罵至ラサルヲ一齊ニ閉ヨ上ゲテ投石シ、之ヲ爲ノニ公社入口及周圍ノ硝子窓ハ殆ド全部破壊セラレハ、至リシニ先是救護ノ爲メニ派遣シタル本所中隊ニ爲スル相生吉岡原定ノ三少隊ハ極力警戒ヲ加ヘ社内ニ侵入スル者ヲ防禦シタリ、數萬ノ群衆街路ヲ埋メ交通全ク杜絶ス或ハ路傍ノ樹木ヲ倒シテ投ケ付ルモノアリ、或ハ電柱ヨリ梯子ヲ外シテ突進スル者アリ、午後五時三十分頃下谷中隊長井田警視部下ヲ率ヒ来リ警戒ニシタリ、群衆中一青年アリ井田警視ニ対シ此ノ群衆ハ讀賣新聞社ヲ襲撃スルニ加担シテ由筆ヲ振イタル公憤ニ出テタリ、元ノサレバ社長出テ来リテ謝罪スルカ若ク

本社前ノ看板ヲ撤去セサレバ退去セズト然ルモ同
 社ハ其ノ非理ナルヲ遠ヘテ肯セズ斯ル内ニ暴民由
 ヲリ六七名ノ青年頭ハト裏手破壊箇所ヨリ闖入シ
 ニ階窓ヨリ出テ社前外壁ニ掲ケアル新聞社ノ看板
 ヲ外サントシタルニ麻縄ヲ掛ケテ路上ニ投下群衆
 ハ諒波ヲ揚ケテ談看板ヲ奪キ河岸ニ持テ行キ之ヲ
 河中ニ投棄シタリ但シ前記七名ノ暴行者ハ直々ニ
 逮捕シタリ
 總テ暴民ハ京橋警察署ニ襲ヒ更ニ二六新聞社方面
 ニ向ツテ去ル者多ク讀賣新聞社前ハ猶々沈静ノ模
 樣ナリシモ尙多敷ノ群衆ハ容易ニ退去セズ其ノ時
 新橋方面ヨリ上野行電車台ノ進行シ来ルアリ暴民
 直ケニ之ヲ襲ヒ窓硝子其ノ他ヲ破壊シ寒害恣ク降
 車シ車台ハ後方ニ退却スルノ止ムナキニ至レリ
 其ノ後ハ唯群衆ノ雜音ノミニシテ別ニ暴行ヲ敢テ
 スル者ナク午後十一時頃ニ及ヒニ殆ント退却スル
 ニ至レリ

第五節

二六新聞社前ニ於ケル状況

以上諸新聞社襲撃ノ報ト共ニ二六新聞社ハ五亦未
 襲スハシメノ警報頻リニ至ル候テ午後五時頃本所
 中隊ニ属スル三小橋太平向島ノ三少隊ヲ全社ニ派
 遣シ警戒ニ當ラシム
 午後六時三十分頃果然暴徒約二三十八堤ノ決スル
 カ如ク勢ヲ以テ襲撃シ来リ益其ノ数ヲ増加シヤリ
 呼シ瓦礫ヲ乱投シ聯ノ間ニ全社ノ硝子窓電燈等ヲ
 破壊シ非常ノ勢ヲ以テ内部ニ突入セントシタルヲ
 以テ警察官ハ極力之ヲ防衛シ約四十分間押シツ押
 サトツ辛ウシテ警戒線ヲ維持セシモ群衆ハ益強リ
 立テ遂ニハ御路ノ樹ホヲ子拔キ来リテ之ヲ投シ又
 ハ棒切レ竹竿若クハ瓦石ヲ投シテ二個ノ廟ヲ破壊
 スルニ至レリ
 此ニ於テ七時三十分頃小石川中隊長武川警視ヲ急

派シ警戒ニ當リシメ次テ九時頃警察消防練習所係
長山下警部ニ同所生徒五十九名ヲ率ヒテ急行セシ
メ更ニ九時五十分頃午往中隊長市村警部ヲ増派シ
タリ

暴民中警戒線ヲ突破シ巨石ヲ以テ扉ヲ破壊シ又ハ
棒ヲ以テ家屋ヲ破壊セントシタル者ハ数名逮捕
タルモ皆暴徒ノ為メニ再ヒ奪取セラレタリ
其ノ時十七ハオノ一青年アリ警戒線内ニ突入シ全
新聞社ノ外壁ヲ登攀シ三六新聞社ト記セル浮出交
字ヲ破壊セントシ三ノ字ノ一面ヲ破壊シ了ルモ突
如地上ニ墜落シ暴民ハ彼ヲ救ハシカ為メニ押寄せ
来リ直ニ握ヒ去リ斯ル内暴徒ノ大部分ハ去ツ
テ外神田警察署方面ニ向ヒ他ノ部分ハ万世橋署ニ
向ヒテ退去シ午後十一時頃暫ク鎮静ニ歸シタリ

第三章 警察署交番所ニ対スル襲撃ノ状況

第一節 劫町區

第一項 日比谷警察署管内

午後五時頃報知新聞社ヲ襲撃シタル約一千名ノ襲
民ハ全社ノ附近ナル日比谷警察署ニ投石シ騷擾
極メタルヲ而シテ其内約四百名ノ一團ハ午後八
時頃日比谷ホテル及料理店平の家主襲ヒ投石シテ
窓硝子ヲ破壊シ更ニ午後九時頃帝國ホテルニ襲
ニ投石シテ硝子窓門燈等ヲ破壊シ折柄同ホテル
ニ階ニ居タル英人五スユ一テユ一ラムハ為ニ左肩
上ニ微傷ヲ負ヘリ
午後九時頃ヤマト新聞社ヲ退キ数寄屋橋附近ニ跳
梁シタル暴徒ノ一團ハ品川中隊ノ為ニ走ハラレ
大部分ハ鐵治橋方面ニ向ヒタルモ他ノ一部ハ品川
中隊ノ警戒線ヲ潜リテ有樂町附近ニ集リ再ヒ日比
谷警察署ニ迫リシモ其ノ數約四百ニ過キス劫町
中隊ハ嚴ニ警戒セルヲ見テ方向ヲ転シ警視廳方面

ニ向ヒ午後九時三十分頃有樂町交番所ヲ襲ヒ全交
番所ヲ警戒セル三名ノ巡查ヲ押シ除ケ交番所ヲ倒
壊シテモ放火シ燒燬セントシタルモ警戒ノ為ニ
赴キタル淺草第一中隊品川中隊及深川中隊ニ属ス
ル永代橋小隊ノ為ニ警戒退セラシ投石ヲ為シタル
者四十餘名ヲ檢挙シタル為メ遂ニ逃走四散セリ午
後九時頃帝國ホテル附近ニ集合セル暴徒ハ日比谷
公園交番所ヲ襲撃シ全交番所ヲ破壊センシタル
ヲ以テ立番勤務巡查員松ハ雄力鎮撫ニ力メ一
歩モ退カズシテ固守ス暴徒遂ニ接近スル事ヲ得ズ
公園外側ノ道路ヨリ投石シテ窓硝子及電燈球ヲ破
壊シタルノミニテ退散シ全公園西幸門ニ出テ都新
聞社前ヨリ内幸町交番所ニ末葉シ投石シタリ
立番巡查員山田源一郎ハ慰諭フル努メタル結果僅
カ投石シタルノミニテ日比谷公園正門方面ニ向ヒ
タルヲ以テ山田巡查ハ急遽電話機報知機其ノ他ノ
簿冊備品ヲ撤出シテ之ヲ附近ノ玉木旅館ニ預ケ交

番前ニ歸リ来レハ暴民再挙シテ全番所ヲ統援セシ
ト爲シツ、アルヲ見全巡査ハ極力制止シタルニ依
リ唯テ倒壊シタルノミニテ直チニ裏霞ケ関方面ニ
向ツテ去レリ。
午後十時四十分頃一團ノ暴民ハ日本橋方面ヨリ興
股橋ヲ渡リ大井町交番所ヲ襲ヒ立番中ノ島田巡査
ノ制止ヲ背ヒズ全巡査ハ極力鎮撫中鉦巻ヲ爲シタ
ル一名ノ暴民ハ石油ヲ全交番所ニ灑キ放火シテ一
炬ニ付シ喊呼シテ神田橋方面ニ向ヘリ。

第二項 紀尾井警察署管内

内幸町交番所ヲ倒壊シタル暴民ハ進ニテ霞ケ関交
番所ヲ襲ヒ關ヲ上ケテ投石シ硝子窓全部及電話機
報知機ヲ破毀シ尙ホ大石ヲ抛リ付ケテ腰箱板及開
扉全部ヲ破壊シタルモ建物ヲ止ハ顛覆スルニ至ラ
ズ立番巡査伊藤高彦ハ極力制止シタルモ暴民ハ耳
ニモ入レズ將ニ放火セント爲シタル折裏霞ケ関方

面ヨリ五六名、共ニ、巡査シ来ルヲ見做、一方向ヲ
赴シテ琴平町方面ニ退却シタリ。

第二節 京橋區

第一項 三十分間、堀警察署管内

當日警察署ニ残留シタルハ僅カニ巡査部長一石、
直十九名、内私服四名、ニ過キズ、国民新聞社前ノ騷擾
始マルヤ、巡査部長、上寛治ハ、巡査七名ヲ引率シテ
現場ニ赴キ、警戒ニ從事シ、交番所ハ、残部ノ署員ヲ以
テ到底防禦シ能ハサルヲ、案シ、交番所勤務巡査ニ
對シテハ電話ヲ掛ケ、其ノ他、重要器具ヲ取鑑、ヲ署ニ
引上ゲシメ、專ラ廳舎襲撃ニ對スル防衛ノ準備ヲ為
シタリ。

国民新聞社ハ襲撃シタル暴徒ノ一部數千ノ一團ハ
午後八時頃、元町交番所ヲ倒壊シテ、セニ放火シ、次
ニ數寄屋橋交番所ヲ燒燬シ、一部ハ北向シテ鍛冶橋
方面ニ向ヒ一部ハ數寄屋橋ヲ渡リテ、口比合方面ニ

午後十時三十分頃、国民新聞社ヨリ退キタル暴徒ノ
一團約四五百名ハ、出雲町交番所ヲ倒シテ、セニ放火シ、

巡査十數名ハ、突貫シテセニ襲撃シ、從事シ居タル
ノ目的ヲ達スルヲ新橋方面ニ退却シタリシカ、約
三十分間ヲ経タル頃、再ヒ不挽町七丁目交番所附近
ニ集合シ、末リ、全交番所ヲ倒壊シ、内部ニ新聞紙ヲ
込ミ、セニ放火シ、テ傍ニ在リタリ、警鐘桂ヲモ倒シ、共
ニ燒燬シタリ。

其ノ燃上ルヤ、暴民ノ一人ハ、萬歳ヲ唱ヘ、衆々ニ知
シテ、三原橋方面ニ向ヒ立ケ去リ、其ノ際、警察署ハ
署員ヲ以テ同ク警戒シ、燈火ヲ滅シ、テ襲撃ニ備ヘシ
力、暴民ハ、署前ヲ通り、氣付カサルモノ、如ク通過シ
タリ。

午後十一時頃、国民新聞社前ノ警戒員ハ、遙ニ暴民カ
加賀町交番所ノ破壊ニ着手セル物音ヲ耳ニシタル

ヲ以テ巡査隊 台突賊ヲテモ追拂ヒ僅カニ寇確
子三枚ヲ破壊シタリ

第二項 京橋警察署管内

讀賣新聞社前ニ蠟集シタル暴民ハ午後七時五十分
頃京橋交番所ヲ破壊シタルヲ以テ立番手
久仁吉ハ極力防衛シタルモ力及ハズ暴民ノ爲メニ
全交番所ハ破壊セラレタリ
續テ暴民ハ京橋警察署ニ來襲シ関コ上ケテ投石シ
尚ビストル砲三発ヲ發シヤツテシマ
ヒタリ時ニ署内ニハ直都部長一名巡査十名被傷
シカ後ニ群衆ヲ諭シ解散セシメタルモ熱狂セル暴
民ハ之ヲ肯セズ益々投石スルヲ以テ巡査部長金内
庄之助ハ署内ニ三名ノ巡査ヲ潜伏セシメ其ノ他ノ巡査
ハ署外ニ配置シ群衆ノ制止防衛ニ俟カセシメ約三
十分間ニシテ群衆ハ二六新聞社ニ行リト四十七日
21

本橋方面ニ退散シタリ其後數回數百ノ暴民來襲
タルモ其ノ都度殘留署員一同協力防衛シ退散セ
タリ

午後九時頃數寄屋橋交番所ヲ燒燬シタル暴民約十
名位鍛冶橋交番所ニ押シ寄セタルヲ以テ立番巡査
田口寅吉ハ暴民ニ對シ懇々説諭シタルモ肯セズ石
ヲ擲ケ又ハ薪ヲ投シツ、交番所ヲ破壊セントシ
ルヲ以テ極力防衛シタルモ一人ノ力能クセザレバ
遂ニ群衆ハ交番所ヲ押倒シ放火燒燬シツ、桶町分
面ニ向ヘ逃走セシヲ以テ田口巡査ハ暴民ヲ煽動シ
タル二人ノ内一人ヲ約ニ丁餘追跡シテ逮捕シタリ
午後九時三十分頃鍛冶橋交番所ヲ襲ヒタル暴民ハ
直ニ桶町分面ニ來襲シ立番巡査清水靜雄ハ制
止ヲ爲シタルモ暴民ハ勢ニ乘リテ投石シツ、交番
所ヲ倒壊センシタルヲ以テ清水巡査ハ之ヲ防衛
シタルモ遂ニ力及ハズ暴民ハ交番所ヲ押倒シ石油

日 准キテ焼燬シ直ニ電車通りニ出テ日本橋方面
 ニ引上ゲタリ
 翌午前令時十分頃約千名ノ群集ハ松屋町方面ヨリ
 八安橋交番所ニ夫襲シタルヲ以テ警戒中ノ巡查佐
 八間根岸ノ両名ハ群衆ヲ諭示シタルモ然性セハ暴徒
 ハ肯セズ返石シツ、押寄せ交番所ヲ焼却セントス
 ルニヨリ止ムヲ得ハ外シ類ノ傍退却セシメ威
 カ、示シテ暴徒ヲ防衛シ一旦久安橋迄退却セシメ
 タルモ再び遂襲シ来リ遂ニ力及ハズシテ交番所ハ
 焼燬セラレタリ
 午後四時三十分頃巡查田口寅吉渡辺孝雄ノ両名白
 夷橋交番所ヲ警戒中千数百名ノ暴徒来襲シタリ兩
 巡查ハ後方ニ諭示シタルモ肯セズ交番所ヲ焼燬ス
 ハシトテ群衆ハ投石シツ、押寄せタルヲ以テ西巡
 査ハ止ムヲ得ズ遂ニ刀ヲ外シテ之ヲ打振り交番所
 ヲ防衛中刑事巡查佐藤寅吉巡查津田久太郎其他二
 四名ノ巡查應援シ遂ニ群衆ヲ退却セシメタル為メ

交番所ハ硝子ヲ破壊セラルタルノミニテ全キヲ得
ナリ、午後十一時過頃新富町交番所ヲ焼却シタル暴民ハ
松屋町交番所ニテ數百名押寄せ来リ、之ヲ殆ンド全
時ニ日本橋坂本町交番所ヲ焼燬シタル暴民數十名
共ニ襲撃シタルヲ以テ、警署ニ居タル巡查首藤文作
田實助治ノ兩名ハ此交番所ヲ焼燬セサル様懇願セ
シカバ暴民ハ然ラハ此ノ交番所ノミハ焼カズニ行
カントテ久安橋方面ニ退却セシメ、其ノ後久安橋
番所ヲ焼燬シタル暴民ハ午前令時三十分頃再ヒ全
交番所ニ襲撃シタル説諭ヲ肯セズ、投石ヲ始メ、關ヲ上ケ
交番所ヲ焼燬シテ、呼ビツ、押寄せタルヲ以テ遂
ニ正ムヲ得ズ、拔刀シテ之ヲ防衛シツ、アタル際
暴ノ巡查佐藤寅吉、津田久太郎、渡辺孝雄ノ三名末援
シ、協力シテ暴民ヲ退却セシメタルヲ以テ交番所ハ
硝子窓ヲ破壊シタル外無事ナルコトヲ得タリ、此ノ
際渡辺巡查ハ暴民ノ投石ノタメニ前額部負傷シタ

第三項 築地警察署管内

警察署ニ残留シタルハ僅ニ二巡查部長一名、巡查七
名ニ過キハ然ラ各交番ノ警戒亦意ノ如クナリ、
ヲ以テ群衆ノ襲撃ニ對シテ立番巡查ノ制止其ノ効
ナキヲ以テ重要書類簿冊、物品等ヲ携帶シテ警察署
ニ引上げタリ、午後九時三十分頃大槻町七丁目交番所ヲ焼燬セタル
暴民ハ勢ニ乗リ、之ヲ二原橋交番所ヲ倒壊シテ放火
燬シ、續テ大槻町交番所ニ至リ、全様破壊シタル上、焼燬シ
暴民ハ二合レ一ツハ新富町交番所ヲ焼燬シテ日
本橋區ニ入リ、他ハ築地交番所ヲ破壊焼燬シ、十一時
頃、輕子橋交番所ヲ一炬ニ付シテ、輕子橋ヲ渡リ、喊声
ヲ上げテ来リ、其ノ際、警察署ニ殘留スルノ兆アリ、
木挽町交番所ヲ襲撃シ、之ヲ暴民ハ關ヲ登ゲツ、
井橋ヲ渡リ、之ヲ襲撃シ、之ヲ暴民ハ關ヲ登ゲツ、
25

第四項 湖石警察署管内

午後十一時四十分、同船十輪方面より約二百餘名、
暴徒等、蒙署を襲撃し、城を佔領し、署前を迫り、直に
取正を始り、油を燃し、砲を打ち、破損し、火を放ち、
負傷者多数あり、死傷者亦多し、巡查六名、内弘昭一名、ハ一
脅し、署内より突進し、声援を逞け、追ひつゝ、
民ハ驚き、逃走し、再び其の勢を止む。又、
一後十一時頃、暴徒、一團約百五十名、ハ新榮橋交
番所を襲撃し、瓦礫を投じ、硝子窓を破壊し、巡查ノ
死傷者八名あり、其ノ中、丁サケ前所ヲ破壊し、然レ後、
番所ヲ進め、中城ニ於テ倒壊し、石油ヲ灑ぎ、放火焼
殺し、
暴徒ハ續々進め、町内を占領し、一葉ヒ校石より、
硝子ヲ

時ニ立番巡查寺田與平ハ徐口ニ衆ニ諭シケ曰ク當
交番所ハ他ノ交番所トハ趣ヲ異ニシ此附近ハ元外
國人居留地ナレバ外國人ノ近隣ニ居住スル者少カ
ラズニヨリ燒燬スルヲ於テハ其等ノ家屋ニ延燒
アリ從テ其ノ累或ハ對外關係ニ及ツナキヲ欲シズ
頻ラク放水スルヲ勿レト津々説諭ヲ爲ミタルニ暴
民ハ其ノ能度ニ惑ミケン其ノ言ヲ容レ去リテ他ニ
向レ爲メニ全番交番ハ教箇ノ硝子ヲ破壊セラレタ
ルノミニテ無第ヲ事ヲ得タリ
尚全夜ヤまと新聞社長松下軍治ノ宅ヲ襲撃スルヤ
ノ虞アリ即チ警察署ヨリ窪田知平平井某二人ノ巡
査ヲ派シ警戒セシム午後十一時三十分頃果シテ暴
徒ノ一團約二百名餘石喊声ヲ上ゲテ襲来シ松平氏
宅ニ向ツテ瓦石ヲ投シ漸次暴行ヲ加ヘントス時ニ
方ノ窪田巡查ノ身ヲ高キ段上ニ置キ大声衆ニ告
曰ク本職ハ當松丁氏宅保護ノ任ニ當ル警察官ナ
リ此ノ附近ハ皆外國人ノ居宅ニシテ公使館ニモ接
近セリ若シテ何人ノ放火ナレバ如キ無謀ノ行ハ

第五項 靈巖島警察署管内

日本橋湊橋交番所ニ繞鐵シタル暴民約五六百人ノ
一團ハ十一月廿午前零時三十分頃關ニ上リ、大川
端交番所ニ突襲シ包圍シテ投石ヲ始メタリ時ニ警
戒中ノ巡查部長植田睦行外巡查三名ハ怒罵詭譎
爲シ暴民漸ク少ニ成省シテ稍々鎮靜ノ狀ニ呈シ夕
ルニ際シ吏ニ警部補大久保真十郎ハ巡查一名ヲ率
ヒテ急馳シ暴民ヲ退散セシメタルハ午前一時四十
分頃ナリ

五

第一周
芝口警察署管内

第一回 八午後六時三十分頃、
 暴徒、欽ハ初メ三四百名ナリシカ、後ハ漸次其ノ
 數ヲ増加シテ大クハ百餘名ニ達シタリ、新橋方面ヨ
 リ駆歩ニテ入リ、警察署前ニ至ルヤ、石薪ヲ割木ノ類
 ヲ硝子戸ニ向ツテ放擲スルコト稍々少時、其ノ間、暴
 漢ノ或者ハ定荷車數輛ヲ牽キ来リ、薪數把ヲ重積シ
 以テ放火ヲ企テシマスルモノ、如ク其ノ暴狀言語
 ニ絶シ、事象存易ナシマス、先是當時署内ニ在テ執務中
 ナリシ警部中内儀凡ハ言語ヲ以テ之ヲ禁ノ乱暴ヲ制
 スルト雖、シトモ振ヒルノミカ署内ニハ僅ラニ二三
 名ノ巡查ノ外在ラサルニテ、知リ他ニ留置人者守巡

第二項 愛宕警察署管内

ニテ他ノ方面ニ赴キタリ
午後十一時十五分頃暴民ハ櫻田本御所交番所ヲ襲
撃シ四方ヨリ交番所ヲ包圍シ瓦石ヲ擲ハシ、カハ
交番所板壁又ハ附近警兵中ノ警察官ニ中リ一時甚
グ狂暴ヲ極メタルニ漸次警戒員ノ應援ニ来ル者増
加シ又十二時頃ヨリハ一分隊約十五名ノ軍隊来リ
シ爲メ稍々鎮靜ニ赴キ、ニモ容易ニ退却セズ翌午
前二時頃漸ク退却四散ニリ此ノ時竹内警部以下退
査六名投石ノ爲メ負傷アリ

第三項 西久保警察署管内

午後九時三十分頃、襲撃ケ関方面ヨリ約四百名余ノ一團ノ暴徒、琴平町交番所ニ来リ襲ヒ全交番所ヲ倒壊シ更ニ長駆シテ警察署ヲ襲ハントスルモノ、ク假テ警察署ニ至ル途中、巴町交番所前ニ署員全部巡查十八名ヲ配置シ直ニ撃退シ四散セリ。

第四節 白水橋區

第一項 新場橋警察署管内

通三丁目を衝き破壞シタル暴徒ハ午後八時二十分頃警察署に來襲セシトスルノ警報アリ即チ署内ノ燈火ヲ滅シ室内隠トシテ人ナキカ如ク装ヒ先五名ノ巡查署ノ左右ニ配置シ空地ニ潜伏セシメ置キ期ノ至ルニ俟ツテ然ルニ暴徒等ハ容易ニ警察署ニ接近セズ罵詈雑言ヲ石ヲ投シ或ハ鯨波ヲ上げ

テ勢ヲ張リ暫時ニシテ署前ニ襲来セントシタルヲ以テ突然警笛ノ合圖ヲ爲シ署側空地ニ潛伏セシテ十名ノ巡查ハ一齊ニ暗中ヨリ暴民ノ前面ニ鞘ノ俵叙ヲ振り翳シテ突進シ是ト相呼應シテ署内ヨリ十數名ノ巡查表口ノ扉闢ヲ排シ署前ニ出テ一列横隊ト爲リ大声退却ヲ命ゼシカバ約ニ三百名ノ暴民ハ周章狼狽ニテ退却四散シタリ其ノ後翌午前一時頃雨ニ襲来シタルニ警察署ニ接連セテ唯遠ノヨリ瓦礫ヲ投シタルニ過キサリヤ前後ニ回ノ襲撃ニ依リ僅カニ窓硝子十數枚ヲ破壊セララル、外化ニ損害ナシ通り三丁目交番所ハ午後九時頃京橋方面ヨリ鯨波ヲ拳ゲテ来ル暴民ニ三百名ニ襲撃セシ立番巡查ノ制止ニ何等ノ妨ニ押倒サレ日本橋吳服橋交番所ハ様ニシテ順次倒塌セシレ後方ヨリ来タル一隊ハ倒レタル交番所ニ石油ヲ注シテ放火焼燬シタル

坂本交番所ハ午後十時頃日本橋方面ヨリ来リタル
 暴民ハ為メニ襲ハレ倒壊ノ後焼燬セラレ暴
 徒ハ次ニ鑑橋方面ニ進ミ行タリ
 午後十二時頃一隊ノ暴民地藏橋交番所ニ来襲シ
 タルモ己ニ全所ニハ巡邏シタル名ヲ配置シタリシカバ
 燈火ヲ滅シ一名ヲ立テシメ他ノ五名ハ附近ノ番
 小屋ニ潜伏シテ警戒シタリ暴民交番所ニ包圍シテ
 是ヲ破壊セシトスル利ヲ警笛ノ合圖ヲ為シ以テ同
 時ニ潜伏セル巡邏ハ一齊ニ小屋内ヨリ突進シ創傷
 ノ傷是ヲ被リ警シテ威嚇セシニ暴民ハ之ヲ辟易シ
 歩調大ニ乱レタルヲ以テ突進シテ撃退スルコトヲ
 得タリ

第二項 箱崎警察署管内

午後十時十分頃坂本町交番所ヲ焼燬シタル暴民ハ
 直ニ鑑橋方面ニ押寄せニトスル形勢アル旨鑑
 橋交番所ノ直番巡邏ニ警告シタル通行人アリタル

ハ右ノ巡邏ハ直ニ電話ヲ以テ其ノ旨ヲ報告シ相傳
 防衛スハヤ指揮ヲ受ケ所外ニ出ツルヤ暴民ハ間
 無ク末襲シテ投石シ殆ント防衛ノ術ナク電話機
 常報知機ヲモ取外スノ假ナク警察署ニ引上ケ終
 焼燬セラレ
 續テ暴民ハ大學ニテ水天宮交番所ニ押寄せ来
 全所止番巡邏山口勇ハハ先是暴民約五十名ノ来襲
 シタリヲ撃退シタルモ再ヒ此ノ大集團ノ為メニ襲
 撃セラレ
 暴民ハ同巡邏ニ討シ焼打スルカラ立退クベシト請
 求セシモ之ニ應セザリシ為メ此ノ巡邏ハ生意氣
 リトテ終ニ交番所ヨリ十重ニ十重ニ包圍シ四方ヨリ
 投石シタリ山口巡邏ハ最後ノ手段トシテ止ムナ
 坂力ニ數回之ヲ撃退シ約三十分間餘ヲ支タル際巡
 査今泉重吉来リ援ケ備付ケノ電話機非常報知機等
 ヲ手早ク取外シ所外ニ出テントスルヤ交番所ハ暴
 民ニ引倒サレ今泉巡邏ハ倒転シ暴民ハ全巡邏ノ力

少ニ奪取シテ打スルニ至リ、後ニ良民ノ為メニ
 助ケ起サレテ揚子河にシタリ
 其ノ間山口巡査ハ極メテ勇敢ニ之カ防衛ニ力メタ
 ル為ニ奪取シテ奮闘シ一時間ニ及ハリ、附近ノ良民
 ハ燒燬セラレ暴民モ退去セシテ見テ漸ク帰着シタ
 リ
 池藏橋交番所ヨリ撃退セラレタル群衆ハ次テ溪橋
 交番所ヲ襲ヒタリ、時ニ立番巡査ハ重要器具ヲ取
 纏メ引キ上ケタル際ニ立番巡査ハ立番所ヲ燒
 燬シ大川端方面ニ立去レリ

第三項 煙留警察署管内

警察署ニ残留セルモノ僅カニ四五名ニ過キズ而シ
 テ区内各處形勢不穩ノ情報頻リニ至ルヲ以テ各處
 番所ハ二人勤務トナシ主力ヲ警察署ニ集メ專ラ警
 戒ニシタリ午後十一時三十分頃江戸橋方面ヨリ煙
 37

午後十時五十分頃、暴民ハ鉄砲町方面ヨリ小傳馬町
交番所ニ至リ、金上手般ヲ以テ之ニ放火シ人形町
方面ニ向ヒテ去リセリ。
午後十一時四十分頃、暴民ハ飯町方面ヨリ親父橋交
番所ニ至リ、交番
橋方面ニ退却セリ。
午後十一時五十分頃、暴民ハ大木敷ハ親父橋方面ヨ
リ江戸橋交番所ニ求襲シ、前ト全様路上ニ引出シタ
ル後之ニ放火シ江戸橋ヲ渡リ元四日市町方面ニ向
ヒテ退却セリ。
以上各交番所ハ一名ノ巡査アリタルモ其ノ説
諭何等ノ効ノク遂ニ重要器具ヲ携ヘテ帰署シ焼燬
セラレタルモノナリ

第四項 八松警察署管内

午後十一時三十分頃、浪花町方面ヨリ約二百餘名ノ
暴民、関ヲ拳カテ警察署ニ求襲シ門内ニ乱入セシト
39

ニハ巡査部長一名、巡査八名ヲ指揮シ、暴民ハ終ニ手ヲ下ス
大喝一声、退却ヲ命ジ、ハ暴民ハ終ニ手ヲ下ス
能ハズ何等暴行ヲ加フヲ得ズ、テ四方ニ散乱退
却シタリ、其ノ際暴民中住吉町交番所ヲ焼燬タル犯
人アルコトヲ知り、直ニ追跡セシメ右犯人二名ヲ
逮捕セリ。

午後十一時四十分頃、水宮方面ヨリ數百ノ暴民、住
吉町交番所ニ求襲シ、上ケテ立派巡査二名退却
迫リ、頻リニ放火シ、交番所ヲ破壊シシトス、立派巡
査飯田包房、力カテ防止ニ努力シタルモ衆寡敵セ
ス、暴民ハ飯田巡査ノ後方ニ廻リ、交番所ヲ押シ倒シ
窓硝子ノ如キハ悉ク粉碎シ、竹箒ニ莫大シ終ニ交番
所ヲ焼燬シ、ル後退散シタリ

第五項 山警察署管内

午後十時三十分頃、神田美倉橋方面ヨリ約三百名余

暴民馬喰町交番所ニ相寄セ来リ警戒中ニ名ノ巡査ハ極力防衛ニ努メタルモ暴徒ノ氣勢頗フル猛烈ニシテ霞ノ如ク瓦石ヲ飛ハシ一氣ニ交番所ヲ倒壊シタルヲ更ニ西国交番所ニ向ヒ立去レリ。其ノ數瞬時ニ着シテ増加シテ約千餘名トナリ警戒ノ巡査藤倉仲珍久保田藤吉ノ二名ハ極力防衛ニ從事シ漸ク維持シ居リタル際應援ノ為メ急行シタル巡査部長一名巡査四名到着ニ協力シテ警戒ヲ嚴ニシタルモ暴民ハ容易ニ退却セテ交番所ヲ包圍シテ投石急襲ノ如ク勢ニ乘シテ交番所ヲ倒壊シ火ヲ放タルトスル模様ナルヲ以テ更ニ警部補鈴木庄一郎ハ數名ノ巡査ヲ引率シテ應援ニ死力ヲ竭シテ追拂ハシトシタルモ其ノ目的ヲ達セズ遂ニ止ムヲ得ス最後ノ手段トシテ拔剣シテ威喝セズカバ暴民ノ氣勢漸ク激シテ同交番所ハ窓硝子ヲ破壊セラレタルヲ渡リテ本所区内ニ侵入スルヲ得且暴民ハ両国橋

最適当ノ位置タリキ。馬喰町交番所ハ午後十一時四十分頃再び約三百名ノ暴徒ノ襲撃ヲ受ケ立警巡査熊田橋松ハ暴民ノ為ニ殴打セラレ同巡査ハ之ニ屈セズ極力防衛ニ努カシタルモ遂ニ衆寡敵セズ暴民ハ黨ニ倒壊シタル交番所ニ放火シテ退散セリ。其ノ際負スル至リ。火犯一人ヲ逮捕引致シ其ノ際負スル至リ。午後十一時三十分頃約五百餘名ノ暴民警察署ニ襲撃シタルヲ以テ一應總力ニ退散ヲ命ケタルモ激昂セル暴民ハ蔑モ之ニ應セズ勢力ニ乘シテ盛ンニ投石ニ道路方面ニ硝子戸ハ直ニ破毀セラレ暴民ハ將ニ署内ニ乱入セントスルノ氣勢アルヲ以テ止ムナフ拔刀シテ威喝セシメ暴民之ニ辟易シ凡ソ半丁餘ヲ距ル米沢町一番地先十字路ニ退却シタルヲ以テ署前ニ數名ノ巡査ヲ立番セシメ送襲ニ備ヘ遂ニ事無キヲ得タリ。

通油町交番所ハ午後十一時四十分頃暴民ノ襲撃ヲ
 受テ警戒中ノ巡查ニ名トニ名ノ應援巡查ト協力防
 衛ニ當リタルカ群衆ハ約三百余ナルモ其ノ氣勢揚
 ラス僅カ投石ミタルノミニテ少時ノ後退去シタリ
 右ノ暴民ノ一部ハ更に橋町交番所ヲ襲ヒタルモ少
 時ノ後退散セリ

第五節 神田區

第一項 萬世橋警察署管内

二六新聞社ニ押寄せタル暴民ノ大集團ハ其ノ途次
 午後八時頃今川橋交番所ヲ破壊ニ立番巡查一名ノ
 制止モ何等効ナカリ又全所ハ午後七時三十分頃二
 六新聞社方面ヨリ来リタル暴民ノ爲メ再ヒ襲撃セ
 ラレ遂ニ焼燬セラレタリ
 鐵治橋交番所モ亦二六新聞社ニ主ル通路ニ當ルコ
 以テ全シク破壊セラレ立番巡查田村周作ハ重要著43

類及備品等ヲ搬出シ且警察署ニ應援ヲ求メ
 之在署員少ナク遂ニ應援ニ能ハスニテ倒壊セ
 後午後九時還兵襲ヒ暴民ノ爲メニ焼燬セラレ
 次ニ破壊セシタルハ須田町交番所ニシテ二六新
 聞社ヲ襲ヒタル暴民ノ方外神田方面ニ向ヒタリ
 途次襲撃ヒタル立番巡查新居保愛ハ所内ノ器具及
 書類全部ヲ搬出シ置キ懇切退言ヲ以テ暴民ヲ諭
 破壊ニ免シタル計リシモ暴民何ラ生意ナシ云々
 ナカラ鉄槌ヲ以テ同巡查ノ額骨ヲ殴打シ遂ニ人
 不省ケ倒ラシ其ノ同交番所ノ路上ニ引出し破壊
 シタリ全巡查ハ暴民ノ爲メニ救助セラレ警察署ニ
 橋ト入リテ漸ク蘇生シタリ
 二六新聞社前ノ暴民ハ大部分ハ外神田署ニ押寄せ
 一部ハ午後八時四十分頃警察署ニ襲来シ包圍シタ
 リ在署員山本巡查部長外巡查四名ハ警戒ヲ嚴ニシ
 ラ襲撃ニ付スル準備ヲ整ヘ居リテ際ニ二六新聞社警

市中ノ小川警部補ハ、巡査七名ヲ率ヒ且ツ日比谷附
近ヨリ二六社警部補ノ為メ、帰着ヲ命セラルル家子部
長ハ、一分隊ヲ率ヒテ裏道ヲ通りテ帰署シ共ニ重要
書類等ヲ結束シテ神田郵便局ニ搬出シ警部中群衆
益々増加シタルヲ以テ電燈ノ滅シ署内ノ人員ヲ群
衆ニ通知セラルガランテ痛心セリ暴民ノ投ツル
瓦石ハ窓硝子ヲ破リテ署内ニ飛入ルコト頻リナリ
ヲ以テ署員ハ裏口ヨリ静カニ表へ出テ警察署前面
ノ群衆ヲ左右ヨリ挟撃シ大喝退散ヲ迫リタルニ群
衆ハ直ニ四散シ窓硝子四五枚ヲ破壊セラルタル
ニ過キバミテ鎮静スルヲ得タリ而シテ此ノ際、漆黒
ニ群衆ハ總人員約八百名位ニシテ多クハ萬世橋
方面ニ退散シタリ。
午後十一時頃今川橋方面ヨリ約千名餘ノ暴民紺屋
町交番所ニ襲来シ、シラヲ以テ立番巡査役藤徳重ハ
器具及書類全部ヲ附近民家ニ搬出シ暴民接近スル
ヲ恐レ、湯吉ニ附近ニ今川小学校アリ且ツ人家稠密ナリ

果シテ大スノ虞アルヲ説キ、快復ヲ忠ニシ、擲力第46

ニ包圍シ、シテ又如何トス可ラズ先是急報ニ將ニ巡
査部長山本景康ハ、巡査十名ヲ率ヒテ後ナリキ
タル七時既ニ通リ焼燬セラレタル後ナリキ
午後十一時三十分頃、暴民約千名余ハ、東松下町交番
所ヲ襲撃シ立番巡査部長倉三郎ハ、直ニ警察署
急報シ且ツ簿冊ヲ所ニ搬出シタリ、警部補小川部
市ハ、巡査五名ヲ率ヒテ急援ニ赴キタルモ既ニ焼燬
シタル後ナリキ
此ノ際、除荒井巡査ハ、投石ノ為メニ輕傷ヲ蒙ルナリ
午前令時二十分頃、群衆四百名多ク町交番所ニ襲
タリ、先是、全所警部補ノ為メ、巡査部長竹内末松ハ、巡
査四名ヲ率ヒテ全所ニ赴キ、シカ直ニ警察署ニ急
報シ一方、湯吉ヲ以テ其ノ不條理ナル旨ヲ諭シ、活
タルモ肯セズ、漆黒ヲ投ガ九太扶ヲ投擲シ、將ニ破壊
サレシ、シスルヲ、那、巡査部長家引為子代ハ、巡査十名

ラ率ヒテ應援シ喊声ヲ上ケテ威カヲ示シ與警ヲ試
ミタルニ暴民ハ四方ニ退散シ全交番所ハ僅カニ窓
硝子四枚ヲ破毀セシタルニ過キスヲ燒鐵ヲ曳
レタリ

午前令時五十分頃雨止一隊ノ暴民約千名余警察署
ニ來襲シ署ノ前面ヲ包围シ漸次群衆ヲ増加シルノ
傾向ナリシテ以テ警ニ急報ニ依リ未損シタル万世
橋小隊西神田小隊及當署常宿員全部ハ署長ノ指揮
下ニ群衆襲來ノ機先ヲ制セシカ爲メ前ノ如ク燈
火ヲ滅シ十余名ノ私取巡査ヲ裏口ヨリ密カニ群衆
中ニ入ラシメタリ此ノ時無數ノ瓦礫ヲ署ノ前後
リ窓硝子ヲ破リテ飛ニ來リ群衆ハ益署ニ接近シテ
且ツ私取巡査ヲ群衆中ニ入り暴行者ノ穿通ヲ因
続スルヲ認メ在署全員三十一名ハ裏口ヨリ署外
出テ左右ヨリ暴民ヲ攻撃シ暴行者十五名ヲ直
逮捕シタリシカバ群衆ハ四散シテ退却シタリ此
際警察署ハ窓硝子約三十枚ヲ破毀セシタルニ
過キ

他ニ損害ナシ

第二項 外神田警察署管内

延留署員ハ警部補大森今朝太郎以下巡査十七名十
リシカ内七名ハ初ノ外神田警察署ノ表ニ依リ二六
新聞社ニ應援トシテ派遣シ職員ニテ警戒急ラナリ
シニ二六新聞社ノ退ヤタル暴徒ハ須田交番所ヲ攻
撃シ遠シテ午後十時頃警察署ニ來襲シ約二十名余
ノ一團ハ瓦礫及棍棒ヲ投テ付ケタル頻リナルヲ
以テ屋内ハ消燈シ署外ニ出テ防禦シタルニ暴民
ハ盛ニ瓦礫ヲ投テ付ケタルモ屈セズ防禦ニ努メ
ルニ巡査三名負傷シ五名ハ暴徒ノ爲メニ途ヲ遮斷
セシメテ署ニ入ルコト能ハサルニ至ル此ニ於テ大
森警部補ハ本原巡査部長以下巡査四名ヲ共ニ一
先署内ニ入り侵入シテ其ル暴徒ヲ撃退セリ群衆ハ
暴民ノ爲メニ通路ヲ遮斷セシタル五名及交番所

所ニ押シ寄セ来リ立番巡查江見魁、雄力ニ防衛
ニ努メタル力及ハズ速ニ暴徒ノ為ニ倒壊セシ
シ焼燬セシタリ
午後十時五十分頃橋本町交番所ニ亦約四百名餘ノ
暴徒ニ包圍セシ、石或ハ木片ヲ投付ケツ、接近
来リ立番巡查ノ力及ハズ金メ焼燬セシタリ
之ト殆シト同時ニ約四百名ノ暴徒東松下町方面
ヨリ松枝町交番所ニ来襲、ソリ立番巡查ハ之ヲ防
禦ニ努メ活ニ内暴徒ハ一團ハ突然公所ヲ倒壊シ始
草ヲ持テ来リ新聞紙ニ與シ放火シタリ、其ノ際意
振トシテ巡查五名ヲ負傷セタルニ今ヤ將ニ交番所
ノ土臺石ヲ以テ破壊セシ、活リタル消防ニ努メテ遂
テ直ニ火ニ入リ、犯人ヲ逮捕シ且ツ消防ニ努メテ遂
ニ全交番所ハ焼燬ニ至リタリ
翌午前二時頃約三百名餘ノ暴徒向柳原方面ヨリ関
ヲ拳々小石ヲ投ケツ、佐久間町交番所ヲ襲撃シタ
リ先是全交番所ニハ巡查六名ヲ配置、警式ニシタリ

ヲ以テ直ニ火ニ入リ、犯人ニ名ヲ授ケシタリ

第四頃 錦町警察署管内

日本橋区内懸擾ノ警報至リヤ各交番所ニ立番巡查
ニ名ヲ配置シ更ニ交番所相當区域ニ分ニ警部補
及巡查部長ヲシテ各区域内ノ状況ヲ監視警戒セシ
ム
午後十時三十分頃大手町方面ヨリ神田橋ヲ経テ油
田橋交番所ニ暴徒約三百餘名来襲包圍シ立番巡
ノ制止ヲ肯カズ全交番所ヲ焼燬シ警察署ニ迫ルハ
シト呼聲ヲ止マズ石ヲ投ケ又ハ携帶スル棍棒ヲ
以テ巡查ヲ脅カシ交番所ヲ倒壊シタリ
急報ヲ得テ署長宮越警視ハ竹内警部ヲシテ鈴木警
部補以下巡查七名ヲ引率シ急遽應援セリ

第五頃 上野警察署管内

至レハ暴民ハ已ニ倒壊タル交番所ニ火ヲ放チテ
燒燬セントス竹内警部部下ヲ督シテ群衆ヲ撃退シ
大井町及鎌町方面ニ追拂ヒタリ
ニ六新聞社ヲ包圍セル暴民ノ一團ハ動モスレハ襲
来セシトナルノ情報頻リニ至ル仍テ署長ハ各交番
所ニ立當巡査一名ヲ増加シ警部補及巡査部長ニ數
名ノ巡査ヲ附シ各交番所ヲ巡視セシメ交番所ヲ死
守スヘキ命ヲ傳ハ警戒ヲ嚴ニシテ未襲ニ備ヘタリ
午後十一時三十分ニ至リニ六新聞社方面ヨリ約ニ
百名ノ一團美士代所交番所ヲ襲ヒ其勢頗ル猛烈
ニシテ當ル可カラサルモアリ襲ヒ其勢頗ル猛烈
山徳司三名ノ立番巡査ハ互ニ協力シ野島亮吉宮崎保青
ヲ慰撫シタリシカ將ニ交番所ニ放火セシトスル者
アリ即チ按シ居タル帶劔ヲ外シ暴民ハ其威ヲ振リ
シテ大喝一聲叱咤シタル為メ暴民ハ其威ヲ振リ
易シ一時退却シテ躊躇シタル所ニ應援ノ爲メニ赴
キタル警部補及巡査五名ハ直チニ撃退シタリ

第六節 下谷區

第一項 竹町警察署管内

暴徒ハ外神田警察署ヲ襲ヒ漸次上野方面ニ向ハ
トスルノ警報頻リニ至ル仍テ其ハ通路ニ當リ危險
ト思料セラル、三箇所、交番所ニハ巡査二名宛ヲ
配置シ殘員十三名ハ總テ警察署ノ警戒ニ當リ尚ホ
私服巡査二名ヲ派シテ管内ノ狀況ヲ偵察セシム
午後八時四十分頃黒門町交番所立番巡査齋藤壯重
ハ通行人ヨリ暴徒ノ一團萬世橋ヲ經テ上野方面ニ
襲来セントスル狀況ヲ聞知シ急報シテ應援ヲ求メ
ニ當ルヲ以テ直チニ警察署ニ急報シテ應援ヲ求メ
尚ホ管内ニ備付セル時計簿冊其、他ノ物品ヲ取纏
メ附近ノ安全ナル場所ニ搬出シ居凡内約七八百名
ノ暴徒ハ已ニ接近シ未リ交番所ニ向ツテ投石シ且
共ニ百方破壞セントス仍テ他ノ立番巡査高宮昌訓ト

ヨリ交番所ヲ押シ倒シ之ヲ破壊シタリ而巡査ハ其
 ノ犯人ヲ逮捕セシトシタルモ衆寡敵セズ目的ヲ達
 スルコト能ハナリキ。
 午後十時過クル頃警察署前道路ニ約百數十名ノ群
 衆集會シ別ニ暴行ヲ加フルノ形勢見エサリシモ漸
 次増加スルヲ狀アルヲ以テ殘留署員巡査部長泉木
 藤吉及甲斐與次郎以下巡査九名ハ署外ニ出テ懸篤
 説諭ヲ加ヘ退去セシメタリ。
 午後十一時二十分頃御徒所ニ丁目交番所ニ約三四
 百名ノ暴民來襲シ恰モ泉木巡査部長巡視シ來リニ
 名ノ立番巡査ト協力防衛ニ從事シタリ暴民ハ燈ニ
 投石シ漸次接近シ來リ益々暴行ヲ逞ウセシトスル
 キ恰モ上野警察署ニ火災起リシヲ望見シ暴民ハ其
 方面ニ向ツテ疾駆シ去レリ。

第二項 上野警察署管内

午後八時頃暴徒一大集團、万世橋方面より大學叢
木ストノ急報アリ、當時残留署員、僅カニ巡查部長
一名、巡查十石ニ過キズ、即チ車坂公園前北稻荷町西
所、各交番所及停車場派出所、立番巡查ニ計ニ直
ニ引上、帰署ヲ命ジタリ
暴徒ハ先ツ公園前交番所ニ来リ、硝子戸ヲ全部破壊
シ、續チ停車場派出所ヲ襲ヒ、車坂交番所ニ至リ、同
ノ硝子戸ヲ破壊シ、猛烈ナル勢ヲ以テ警察署ニ殺到シ
来リ
暴徒ノ前署ニ来リ、午後九時頃ナリ、石ヲ投スル
コト兩ノ如ク、忽チ硝子戸ヲ破壊シ、喊声博シ、突撃
シ、来リ、巡查部長小堀徳次郎、西村幸平、八部下、巡查ヲ指
揮シ、署前ニ出、暴徒ニ対シ、突撃ヲ試ミ、十間以
上退却セシメ、全時ニ懸篤慰諭スルモ、頑然トシテ肯
カズ、其ノ間、投石類リニシテ、巡查數名ノ負傷者ヲ出
シ、ナリ、茲ニ於テ止ムナク、一旦署ノ入口ニ退却シ、
橋内ニ堅ク防衛シ、前ハ縛シ、數十言ヲ費シ、其ノ意ヲ

法ナリ、行ハテ述ベ、説諭スル所アリシモ、其ノ効ナク、
反テ強チ行ハテ抵抗カ、為テ以テ署員ヲ縛シ、十數回
ノ突撃ヲ行ヒ、警邏ハ、トシタルモ、衆寡敵セズ、斯
ノ如クナルモ、遂ニ死力ヲ尽シ、至リ、情勢
リト雖モ、僅カノ間、警察署左側板囲ニ放
シタル者、アルヲ認メ、直チニ突撃シ、テ退却セシメ、
消止メタルカ、其ノ後、急聲ノ如ク、投石ハ絶間ナク、
ヒ来リ、硝子窓ハ完膚ナキニ至リ、又板囲ニ放火スル
ヲ四回ニ及ビ、其ノ都度漸ク火ニ消火シ、且ツ十數
ノ突撃ヲ為シ、一時退却セシメ、其ノ氣勢ヲ挫キ、
モ、午後十時頃、及ヒ淺草方面ヨリ、數百ノ群衆ノ来
リ、加ハリ、アリ、暴徒ハ、俄カニ其ノ勢力ヲ挽回シ、
進ミ、来リ、署員中負傷セシ者僅カニ、五名ニ過キズ、
ル内、兩ニ板囲ニ放火スルモノアリ、倉皇駆テ付ケ、
防ニ倍力シ、内一團ノ暴徒ハ、食堂ニ充テタル一室
ノ外部ヨリ、炭俵ニ莫火シ、テ投入シ、メル者アリ、今度

ハ硝子カ、外方ニ散チノ鉄柵ヲ散メアルヲ以テ僅
カニ附近ニ懸ケタル外、燒キタルノミニテ直々
ニ消火シタ然ルニ復又高等視察係詰所ノ外方ヨリ
繼續ニ火ヲ真シテ投入シタル者アリ直々ニ之ヲ消
シ止メニ三名ノ巡查人ヲ逮捕セシトテ追跡シ
タルモ衆寡敵セズ一時退却ノ止ムナキニ至レリ然
ルニ更ニ會計係室ニモ放火スルニ至リ續テ炭俵ニ
石油ヲ灑キタル物ヲ頻リニ投入シテ火勢ヲ強シメ
タルヲ以テ極力消防ニ力ヲ及ハズ遂ニ火
焰炎々トシテ上リ黒煙渦々騰ルニ至レリ急々間々
第五消防署ヨリ消防隊ノ末ルヲ見ルヤ署員ハ之ニ
氣ヲ得テ暴徒ヲ退却セシメ消防ニ便ナラシメシ
スル時一群ノ暴徒ハ水管ヲ奪ヒテ何處ニカ遁逃シ
去レリ
突撃シテ彼等ヲ遠却セシメントスルモ出入口ハ操
子ヲ以テ外部ヨリ閉塞シテ出ツルヲ能ハス斯ル内
火ハ漸次内部ニ移リ又如何トモスヘカラス今ハ百
57

方策ツキ只内部ニ入ラシメガハ概警戒スルト共ニ
一方消防ニ力メ又書類其ノ他器具ノ搬出ニ全カ
注メタリ第五消防署長消防士河田莊太郎ハ先是
焰ノ上騰スルヲ見六名ノ機関士ヲ率ヒテ急遽来リ
テ消防ニカム暴徒ハ四方ヨリ投石シ百方妨害ヲ試
ミ河田消防士ハ面部ニ負傷シ部下亦數名ノ負傷
ヲ出スニ至リ殊ニ暴徒ノ狂暴ナル水管ヲ切断セシ
トスルヲ數回ニ及テ河田消防士声ヲ劬シ叱ミテ
ク當警察署ヲ消正メザルニ於テハ四隣ハ勿論下
小學校モ亦延燒ヲ免レザラン濫リニ消防スベカラ
ズト暴民漸ク之ニ應テ妨害スルヲ止メタリ
先是讀賣新聞社ノ警戒ニ從事シタル下谷中隊長井
田警視ハ急々聞キ司令長ノ承認ヲ得部下ヲ引率シ
テ急遽帰途ニ就キ翌午前令時三十分頃到着歸署シ
タル時既に遅リ警察署ハ燒失シタ右ナリシモ尚帽
集セル暴民ハ石ヲ投ケテ暴狀限リナカリシヲ以テ
直々ニ之ヲ驅逐退去セシメタリ

斯ニテ警察署ハ遂ニ力及ハスシテ暴徒ノタメニ事
務室ヲ焼燬セラレハニ至リシハ頗ル遺憾ナリ
暴徒ハ警察署ヲ退キ浅草方面ニ向ヒ一部ハ北箱荷
町交番所ヲ襲ヒテ之ヲ燬焼シタリ

第三項 金杉警察署管内

上野警察署ヲ襲撃シタル暴徒ハ進ンデ入谷金杉方
面ニ向ヒントスルノ虞アリ仍テ各交番所ノ立寄迎
査ニ命テ重要器具及ヒ首領簿冊ヲ携帶シテ引上帰
署セシム
然ルニ此ノ方面ヨリ暴徒ノ襲来スルコトハナカ
シモ翌午前一時頃浅草千束町方面ヨリ約二百名
ノ集團来リテ龍泉寺町西交番所ヲ襲ヒテ之ヲ包
シ道路ハ中央ニ引出シテ石油ヲ注キ一炬ニ附
ル后同東交番所ニ至リ破壊シテ立セ去リ群衆漸次
高散シテ遂ニ此方面ハ終熄セリ

第七節 浅草區

第一項 合羽橋警察署管内

上野警察署ヲ襲撃シタル放火ヲ暴徒ノ一團約
百名余ハ午前十時頃進ニテ合羽橋警察署ヲ襲ヒ
リ巡查部長橋良吉ハ数名ノ巡查ヲ指揮シテ防衛
力メ漸ク之ヲ撃退シタリ然ルニ三十三名ノ一團ハ
再ヒ逆襲シ来リ石ヲ投シ喊声ヲ発シ突貫シ来リ
ト西三回ナリシモ總ニ之ヲ追ヒ拂ヒタリ翌午前
一時頃再ヒ約三百名余ノ暴徒ハ千束町及新谷町交
番所ヲ襲撃シ北松山町及田島町ノ両方面ヨリ襲撃
隊ニ編成シテ警部補巡查部長ヲシテ指揮セシメ警察
署ノ周圍ヲ防備シ警察署ニ果シテ東南ノ二方
面ヨリ噴火シ上ゲ石ヲ投シツル襲撃シ来リタル
以テ之ヲ機先ヲ制シ突撃ヲ行ヒテ石ヲ投シ又ハ異
行ヲ加イタル犯人ニ四名ヲ逮捕シ群衆ヲ退却セ
メタリ

襲ニ上野警察署ニ迫リタル暴民ノ一部ハ午後九時
 二十五分頃北松山町交番所ニ未襲ミタリ其ノ後約
 三百餘電車軌道ニ沿ヒ石ヲ投シ喊声ヲ上ゲツ、襲
 撃シタルヲ以テ立番巡查高野直三郎ハ直ニ書類
 簿ヲ携帶セントシテ所内ニ入リタルニ暴民ハ勢
 ヒ偉シク突貫シ来リ交番所ヲ包围シ巡查ノ制止ニ
 耳ヲ傾ケズ倒壊シ始メタルニ暴民ハ全交番所ヲ押シ倒
 ムヲク所外ニ出テタルニ暴民ハ全交番所ヲ押シ倒
 シ新堀川ニ投入シタリ
 右ノ集團ハ次ニ松清町交番所ヲ襲ヒ全シク喊声ヲ
 上ケテ突進シ来リ交番巡查神保鶴吉ハ殴打セラレ
 タルニ屈セズ防衛ニ力メタルモ力及ハズ遂ニ暴民
 ハ全交番所ヲ倒壊シ路上ニ引出シテ石油ヲ注キ焼
 燬シタリ
 午前一時頃千束町二丁目小松橋交番所ヲ襲撃シタ
 ル暴民約百五十名餘一團トナリ千束町一丁目交番
 所ヲ襲ヒ石ヲ投シ喊声ヲ上ゲテ突撃シ来リタルヲ以

テ立寄巡査田山藤内ハ之ニ対シ極力防禦シタルニ
力及ハズ書類簿冊ヲ擄ヘテ引上リテ歸署シタルヲ以
テ暴民ハ直ニ之ニ交番所ヲ破壊シ之ヲ焼燬シタル
右ト殆ト全時ニテ東町一丁目交番所ヲ焼燬シタル暴
民ハ直ニ之ニ新谷町交番所ニ向ツテ突進シテ未リタル
ヲ以テ立寄巡査田島清ハ防禦ノ力及ハズシテ書類
簿冊ヲ擄出シテ歸署シタルヲ以テ暴民ハ交番所
破壊シ放火シタルニテ燒燬ヲ免レタリ

第二項 馬道警察署管内

午後九時五十分頃三四百名ノ暴民ハ下谷方面ヨリ
電車軌道ニ沿ヒ茶屋町交番所ニ襲来シ其ノ勢頗ル
猛烈ニシテ到底一人ノ立寄巡査ニテ支ヘ得ベカラ
ザルヲ以テ急報ノ爲メ警察署ニ引上リテ其ノ間
暴民ハ全交番所ヲ倒壊シ直ニ花川戸交番所ニ向
ヘリ
全交番所ニ於テハ暴民破壊ニ着手セシメタル際

区内有志片桐方共衛ハ群衆ニ対シ當交番所ハ吾々
人民ノ寄附ニタルモノナルヲ以テ破壊セザル旨懇
諭セシカハ暴民ハ旨ヲ領テ退去シテ其ノ後吾等橋
ヲ渡リ本所方面ニ向ヘリ
翌午前一時過フル頃暴民數百名吾等橋方面ヨリ西
ニ茶屋町交番所ニ襲来シ襲ニ倒壊シタル交番所
電車軌道ニ引出シ之ニ放火シ燒燬シテ南方ニ向
テ去レリ
午前零時過テ下谷方面ヨリ約六七十名ノ一團三同
町交番所ニ襲来シ立寄巡査山善太郎ニ対シ暴行
ヲ加ヘタルヲ以テ全巡査ハ沈着冷静モ動スル色ナ
シテ説諭ヲ加ヘ尚附近良民ニ未リ暴民ニ対シ慰諭
シタルヲ以テ其ノ終立去レリ

第三項 南元町警察署管内

午後九時三十分頃三百名ノ群衆ハ雪門方面ヨリ警
察署ニ未リ襲ヒ警察署ニ焼燬シテ叫ビソノ瓦石ヲ
65

投スル、雨、如シ先是不穩ノ情報ニ接スルヤ各
交番所ニ計シ書類簿冊ヲ携帶シテ立番巡查ヲ引上
レシ、專ラ警察署ノ警戒ニ力メタリ當時署内ニハ
警部補一制服巡查十三名私股巡查一名アリ即チ警
部補久住四郎、部下ヲ督勵シテ署前ニ出テ防備ニ
努メ、自ラ單身群衆中ニ進ミ大声其ノ不心得ヲ諭シ
且ツ曰フ諸君ニ於テ暴行ヲ爲サントセバ吾等ハ死
力ヲ尽シテ防禦スベシ由未當署ハ諸君ノ怨恨ヲ買
ヒタル事實ナシ諸君無益ノ闘争ヲ止メ、互ニ鎮撫
タルバ約三十分餘ニシテ退キ再ヒ元来リシ方面ニ
立返リタリ
管内ノ黒船駒形北寺坂ノ三交番所ハ其ノ途次尽ク
倒壊セラレ焼燬セラレ榮久町交番所ハ暴民ノ爲メ
ニ新堀中ニ転倒セラレタリ最後ニ黒船町交番所
ニ焼燬シタル暴民ハ既橋ニ渡リテ本所方面ニ向
タリ

其ノ後約一時間ヲ過ギテ約百五十餘名ノ群衆上野
方面ヨリ再ヒ警察署ニ來襲シタルニ直ニ之ニ警
退シテ退散セシメタリ

第四項 向柳原警察署管内

午後九時十分頃須賀橋交番所ニ多数ノ暴民來襲
喊声ヲ上ケテ包圍シ頻リニ石ヲ投シ且ツ交番所ヲ
破壊セントスルヲ以テ當時警中ノ巡查高橋祐治
ハ力メテ之ヲ鎮壓防禦ノ手段ニ取リタルニ怒聲モ
ル多数暴民ノ爲メ防禦ノ術尽キ遂ニ止ムナク書類
簿冊ヲ取纏メテ歸署セシメタル際全所ハ終ニ暴民
ノ爲メ倒壊セシメ脱機セラレタリ
右ノ暴民ハ直ニ之ヲ車橋交番所ヲ襲撃シ立番巡查
石川哲郎ハ極力之ヲ防禦ニ尽シ居リタルニ遂ニ暴
民ノ爲メ取圍ヒ活斷ノ自由ヲ失ヒ交番所ハ焼燬
セラレタリ
午後十時頃管内狀勢益々危急ナルヲ覺エタルニ以

テ警察署ノ襲撃ニ備フル爲メ殘餘ノ四交番所立番
員ニ命ジ書類簿冊ヲ携帶シテ引上テ歸署セシメ
ルニ其ノ間柳橋交番所ハ午後十時頃左衛門町交番
所ハ全十時二十五分頃暴民ノ爲メ襲撃焼燬セラ
レタリ
而シテ警察署ハ遂ニ襲撃ヲ蒙ラヌシテ終レリ

第五項 象浮警察署管内

午後九時過キ上野方面ヨリ漸次暴民襲來ノ警報
リ須賀橋ニシテ青年團ト記セル一統ヲ先頭トシ
テ東町交番所ヲ襲ヒタルニ立番巡查山崎源藏頭
シテ退却セザリシ爲メ暴民ハ遂ニ新谷町方面ニ去
リ更ニ小松橋施無畏橋兩交番所ニ至リ立番巡查
對シ隣接交番所ニテハ巡查被害セラレタリ
危險ナリ杯ト詐言ヲ弄シテ退去セシメントシタル
モ巡查セザル者ナク敢テ退去セザリキ爲メ暴
民ハ他方面ニ向ヒタリシカ午後十一時三十分頃警

視座ニ通ル電話線ヲ切斷シタルモノアリ翌午前
今時ニ十分頃新谷町交番所方面ヨリ施無畏橋交番
所ニ向ッテ約五百名餘ノ暴民襲来シ勢ニ乗シテ交
番所引倒シ將ニ放火セントスル際暴民召集セラレ
テ他方面ノ警戒ニ赴キタル家湯小隊署ノ途中ニ
ヲ認メ直ニ群衆ヲ驅逐シテ犯人ニ名ヲ逮捕セリ
之カ為メ暴民ハ再ヒ新谷町方面ニ向ヒ其ノ一部ハ
千束町及小松橋交番所ニ至リ威迫的行動ニ出テ
ルモノアリシニ配置巡査ノ為メ遂行セラレリ

第八節 本郷區

第一項 本富士警察署管内

晨ニ外神田署ヲ退キ上野方面ニ向ヒタル暴民ノ一
部ハ分レテ本郷方面ニ向ヒ午後九時頃順次切通坂
湯島天神町ノニ交番所ヲ襲撃シ交番巡査ハ急報ノ
為メ警察署ニ引返シタル間ニセシ破壊ニ直ニ本 69

富士警察署ニ向ヒリ即チ午後十一時頃約四百ノ
暴民ハ氣勢頗ル猛烈ニシテ切通坂ヲ上リ押寄せタ
ル急報ニ接シ警部補前田誠吉ハ巡査部長一名巡査
十二名ヲ直ニ署ノ正門前ニ整列セシメ防衛ノ準
備ヲ為シテ警戒ニ力メタリ
暴民ハ關ノ声傳シテ夜間ヲ破ツテ突進シ末リ道路
ノ全面ヲ充塞シテ本郷區役所前迄襲来シ一時停止
シテ俄ニ收石ヲ始メ其氣勢頗ル熾ニナリ前田警
部補ハ部下ニ命シ力ヲ外ニシテ鞘ノ終ニテ振臂シ大
喝シテ退却ヲ迫リシカハ暴民ハ一時ニ退散シ署員
ハ麒麟院前マデ追跡シタリ

第九節 本所區

第一項 吉岡警察署管内

午後十一時頃浅草区黒船町交番所ヲ破壊焼燬シタ
ル暴民ハ庇橋ヲ經テ本所区内ニ侵入セントスルノ

状況アリ、即ち其ノ街ニ當ル外手町交番所ニ巡查部長一名、巡查五名ヲ配置シ、以テ防衛ニ當ラシメ、且ツ警察署ニ襲来スルノ虞アリ、以テ他ノ交番立番員ヲ警察署ニ召集シ、私服巡查一名ヲ既橋附近ニ派シ、状況ヲ偵察シ、時々報告セシム、又私服巡查一名ヲシテ管内ヲ巡視セシメ、各處ノ状況ヲ知ルニ力メ、尚シ制服巡查ニ名ヲ附近要所ニ配置シ、テ暴民ノ末襲ヲ視察セシメタリ、
間モ、暴民約五六百名ハ、外手町交番所ノ前面ニ押寄せ、来リタルヲ以テ、巡查部長及巡查ハ、總カニ説諭ヲ加ヘ、タルニ前方ニテ、少シク退キタリ、然ルモ右方ニ在リタル群衆ハ、之ヲ見テ、交番所ノ周囲ヲ取巻キ、関声ヲ発シ、石ヲ投シ、ハ、突然一時ニ押寄せ、タル為メ、六名ノ巡查ハ、各自暴民ノ為メニ停シ、タレ、其ノ連絡ヲ失ヒ、一致ノ行動ヲ取ル事得ヌ、其ノ間多數ノ暴民ハ、交番所ヲ押倒シ、路上ニ引出シ、テ火ヲ放シ、

千午、后十一時五十分、遂ニ焼失シタリ、
右ト殆シ、全時ニ石原町交番所ニ數十人ノ暴民群衆シ、二人ノ者、其ノ内ヨリ飛出テ、所内ニ入り、放火セシ、シタルモ、煉瓦造リナルヲ以テ、燃焼セス、警察署ヲ焼カシト、豪語シ、立去ラントスルヲ逮捕シ、タリ、為メニ石原交番所ハ、破壊ヲ免レ、警察署モ亦襲撃ヲ免レタリ、
外手町及石原町交番所ニ暴徒襲来シタル際、本所及横綱町居住井上茂十郎(三十八年)ナル者、單身危険ヲ顧ミ、ス所内ニ入り、報知機及電話機ヲ急遽取外シ、カ車ニ積載シ、警察署ニ運搬シ、タリ、而シテ屢々暴民ニ唯何セラレ、吾々ハ電信局ノ工吏ナルカ、談器具一式ハ、全局ノ保管品ニシテ、交番所ニ貸與シ、アルモノナルヲ以テ、取外シ、去レルモノナリトテ、危難ヲ免レタリト云フ、

第二項 原庭警察署管内

午後九時過、頃、武庫門附近、於ケル騒擾ノ警報
頻リニ至ルヲ以テ各交番所ニ對シ立番巡查ノ引上
ガテ命シ主トシテ警察署ノ襲撃ニ備ヘ各交番所ノ
電燈ヲ滅セシメ警戒ノ準備ヲ調ヒタリ
午後十一時四十分頃外子町交番所ヨリ焼燬シタ
民約五百餘名ハ電車線沿ハテ派ヒ喊声ヲ上ケテ吾等
橋交番所ニ迫リ来リタルヲ以テ先是急々聞々警部
神岩洲ノ平ハ巡查部長小岩井西郎街ヲミテ巡查四
名ヲ率ヒテ警戒ニ赴カシム
多數ノ暴徒ハ交番所及警察署ニ對シ盛ニ投石シ
衆口一音ニ交番所ヲ打テ幾ビト呼ハリ包圍シテ漸
以テ勢見エ来リ交番所ヲ一撃ニ灰燼ニ附セントスル
ノ勢ヲ止ムナク一同ハ砲声ヲ拔テ鎮静ヲ期シ難キヲ
シ煽動勢ヲタル者ニ名ヲ逮捕シ漸ク暴徒ヲ南方ノ
元末ニ方面ニ追ヒ退クル事ヲ得タリ
暴徒ハ遂ニ四散シ氣勢頗ニ衰ヘ警察署及他ノ支所

第十節 深川區

第一項 永代橋警察署管内

午前令時頃永代橋支所立番巡查ヨリ急報アリ
同ノ溪橋交番所ハ暴徒ノ襲撃ニ燒燬セラレ又大川
端附近ニハ喊声頻リニ起リ状況頗ル不穏ナリト依
テ西平野警察署ニ在リタル三浦署長ハ直ニ警部
府田豐太郎以下巡查部長ニ名ヲ通報シ急行スハ
キ下ヲ命シ又西平野署長ト協議シテ巡查部長一名
巡查十一名又深川中隊副官警部補一名巡查部長一
名ヲ全橋ニ急派シ尚ホ當番員タル多田警部補以下
退散スハハハ命シタリ
午前令時三十分頃約五百名餘ノ暴徒ハ喊声博ミテ
橋上ヲ渡リ深川區内ニ侵入シ来リ警戒員ハ力ヲ盡

七一氣ニシテ追ヒ拂ヒ進テ橋ノ西端大川端交番所
 前ニ至ル群衆盛シニ投石シテ勢頗ル熾ナリシカ
 内約百名許リノ一團ハ全交番所ニ迫リ之ヲ倒サシ
 トス又警視廳刑事巡査遠藤典子吉ハ遠ク尾行ニ突
 リタル十數々捕シ放火犯人ヲ巧ミニ警戒線内ニ突
 入シテ之ヲ逮捕シタリ
 群衆ノ襲ヒ来ルコト前後三回翌午前三時ニ至リ漸
 次退散シ深川区内ハ騒擾ヲ見ルニ至ラザリシ

第三章 犯罪人ノ檢舉附私服勤務員ノ活動

初ノ警戒部隊ヲ編成スルト共ニ通信係及偵察係ヲ設ケ專ラ狀況ノ偵察並ニ犯人ノ檢舉ニ從事セシム。通信係ノ任務ハ命令及報告ヲ傳達シ各部隊間ノ連絡ヲ保テ且ツ各處ノ狀況ヲ偵察探知スルコトニ在リ。方面監察得能監視係長トナリ其ノ下ニ傳令部長本堂監視視察部長田中監視アリ又各ニ三ノ係ヲ設ケ部署ヲ定メテ其ノ任務ニ當リ本部ヲ議院門前相馬館ニ設ケタリ後々午時三十分司令長ヨリ升上歸廳ス可キ命令ニ接シテ監視廳ニ歸リ一部ハ解隊シ午時六時頃赤坂中隊ハ歸署シテ青山離宮附近ノ警戒ニ專從スルコトナリ唯刑事課松原警部及池上警部補ノ率ヒル二十名ハ徹宵偵察檢舉ニ從事シタリ。

偵察係ハ方面監察丸山監視係長トナリ全員ヲ指揮シ寶田岡崎西監視參謀タリ五箇小隊ニ分ケテ支ツ

責任區域ヲ分担シ尚各小隊毎ニ若干名ノ偵察專務員ヲ置キ群衆内ニ入りテ陰謀其ノ他ノ機謀ヲ偵察シ流言蜚語ト雖モ苟モ警戒上參考トナル可キコトヲ探知シ報知セシメ他ハ專ラ犯罪人ノ尾行檢舉ニ從事セシメ騷擾惹起スルニ及ヒテハ以前ノ責任區域ヲ變更シ係長ニ於テ隨時區域ヲ擴大シテ檢舉ニ當ラシメタリ。

而シテ同係ニ於テ檢舉シタルモノ三十三名ニ及ハリ尚司令部附シテ警部坂口鎮雄ハ十名ノ刑事巡查ヲ指揮シテ偵察檢舉ニ從事シ搜查係長警部山本清吉ハ刑事課警部巡查ヲ指揮シテ同シク檢舉ニ活動シ其ノ他各中隊ニ屬スル數名ノ私服巡查モ亦活動シタリ。

檢舉ノ方法ハ群衆中ニ混入シテ犯罪ノ現行ヲ認メタル時ハ之ニ尾行シ人々處ニ至リテ引致檢舉スルカ又ハ機ヲ見テ制服巡查ノ助力ヲ得テ強制力ヲ用ヒテ引致スルニ在リ。

而シテ可成騒擾ノ首魁者煽動者ヲ主ニテ檢舉ス
ルノ方針ヲ取リ百數十名ノ私服巡査ハ能ク活動シ
テ其ノ成績見ル可キモノアリ夜間ニ於テハ尾行檢舉ヲ成ス
範圍擴大シ群衆ヲ誘ハ放火犯人ヲ尾行スルコト數
時間ニ及ヒ遂ニ混雑ト暗黒トニ紛ヒテ見失ヒタル
泊所カラズ或ハ制服巡査ト人絡ヲ缺ク爲メニ制
限巡査ノ爲メニ擊退セラレテ被尾行者ヲ見失ヒタ
ルモ又多シス如クシテ實際ノ犯罪人ニシテ遂
ニ檢舉シ能ハザリシ者亦少カラザル可シト雖モ而
モ能ク二百三十人ノ多數ヲ拘束引致シ得タルハ
檢學セラレタル人員ニ百三十名ヲ犯罪別ニ列挙ス
レバ即チ在ノ如シ

○檢舉員犯罪種別

都新聞社ニ投石シタル者	二十一名
駒馬巡査ニ投石シタル者	二名
都新聞社ニ放火シタル者	二名
國民新聞社ニ放火シタル者	十二名
國民新聞社ニ放火シ隣家ヲ破壊シタル者	二名
國民也まと西社襲撃煽動者	一名
やまと社襲撃群衆ヲ指揮シタル者	六名
やまと社ニ投石シタル者	五名
讀賣新聞社襲撃又ハ之ヲ煽動シタル者	七名
讀賣新聞社ノ看板ヲ破壊シタル者	五名
二六新聞社ノ看板ヲ破壊シタル者	一名
公社ニ投石シタル者	一名
諸新聞社襲撃煽動指揮シタル者	四名
吉視廳前ニ投石又ハ群衆ヲ指揮シタル者	六名
芝口署前ニ於テ群衆ヲ指揮シタル者	一名
力世橋署ニ投石シタル者	五名

新開雜誌記者(通信員) 八名	職工 四十七名	教育家 二名	學生 四十九名	種別	合計	○ 検挙者職別	人員
其ノ他喧噪シ又ハ煽動シテ勢ヲ助ケタル者	二百三十名	八十四名	一名	一名	三名	九名	四十三名
日比谷署ニ投石シタル者	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
合羽橋署ニ投石シタル者	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
交番所ニ放火シタル者	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
横山署ニ投石シタル者	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
全署ニ投石又ハ群衆ヲ指揮シタル者	一名	一名	一名	一名	一名	一名	一名
上野署ニ放火シタル者	二名	二名	二名	二名	二名	二名	二名

會社人員
小商人
雇人
人力車夫
官署雇員
無職業
雜

計

右ノ内其情比較的輕微ナル者例之一時好奇心ニ因
テテ附和雷同シタルカ如キ者八十九人ハ警視廳
及檢事局ニ於テ釈放シ残り百四十一人ハ東京地方
裁判所ニ於テ取調上騷擾罪犯人トシテ起訴シタ
リ

二百三十名
七名
十六名
九名
四名
四十四名
三十一名
六名

第四章 騷擾ニ因テ生シタル損害並人民警察官負傷

第一節 財産上ノ損失

騷擾ニ際シ警視廳ニ於テ採リタル警戒方針ハ上過
如ク先ツ第一ニ市民ノ身体財産ノ安全ヲ確保ス
ルニ在リテ警察署交番所ノ警戒ハ止ム事ヲ得ヌ極
メテ之ヲ薄弱ニ為シタリ從テ警察署中上野署ノ如
キハ遂ニ暴徒ノ為メニ燒燬セラレニ至リ立番所
ノ多數ハ或ハ倒壊セラレ或ハ燒燬セラレニ至リ
タルハ之誠ニ止ム事ヲ得ザル所ナリ而シテ諸新聞社
及ヒ其ノ他ノ場所ニ於ケル損害ハ警戒ノ嚴シリ
為メ極メテ輕微ナリ誠ニ幸ナリ

第一項 新聞社ノ被害

國民新聞社 表硝子戸全部北側ノ窓一ヶ所及階下
硝子障子階上ノ硝子ニモ數ヶ所ハ粉碎シ尚ホ屋
内ニ在リタル火鉢椅子電燈等ニ破壞セリ損害額ハ
七八百圓ヲ超ヘス
又主上新聞社 正面ノ受附口硝子戸ハ破壞シ去リ
後故回暴徒押寄セ束リ瓦礫ヲ投シ鯨波ヲ掌ケ又

第二項 警察署交番所ノ被害

上野署 建物ハ事務室焼失シ、備品其ノ他簿冊書類
ノ一部焼失ス、
外神田署 表硝子ノ窓硝子全部及裏木戸ニ粉碎シ

警察官人民負傷者

死
亡

重傷

輕便

五

是ヲ以テシテ見レハ如何ニ暴民ノ狂暴ニシテ常態
ヲ速ニ警察官ノ説諭ニ服セス制止ラ肯ンセズシテ
唯徒ラニ欺ヲ毀千人ヲ傷ケ以テ平和ヲ攪乱シタル

人々掌
電馬手
微閑手
巡査
苦部補
口部現

一四
二五
三六
七
八
九
十

馬道一合羽橋一七軒町一
破壊(破壊ノ程度ニ至ラサルモ)セラレタルモノ

内譯 万世橋一横山三京橋二三十間堀一
芝口二上野二向柳原一南元町一

六電車 暴徒ノタメ枚石セラシ硝子窓ヲ破壊セラレ
タルモノ多ク車掌ノ負傷シタルモノアリ

即チ横窓硝子ヲ破壊シ胴羽目ヲ破損セラレタルモノ
ノ實ニ二十六台ニ及ブ然ルモ全ク破壊セラレタル
モノハ無シ

第二節 人民及警察官ノ負傷

都新聞社ニ於ケル騒擾以前ハ群衆中石ヲ枚シ或ハ
警察官ニ暴行ヲ加フル者アルニ至リタルモ尚甚ダ
シカラズ警察官中枚石ノ為メニ面部又ハ足部ニ負
傷シタル者アルモ極メリ少敷ナリ

書箱三箇時計等ノ備品其ノ他内外ノ壁ノ多少ノ損
所ヲ生シタリ
三、万世橋署 正面硝子戸硝子窓等三十七、八枚ノ硝子
ヲ破碎シタル外器具其他ニ被害ナシ
四、芝口署横山署明石署京橋署 硝子戸硝子窓等
多少ノ被害アリタル外左ニタル損害ナシ

二、交番所
内、焼燬シタルモノ
日比谷一、万世橋四、東神田二、久松四、
箱崎三、横山一、堀留五、新場橋四、
築地五、明活一、京橋三、三十間堀三、
上野一、金杉二、馬道一、向柳原四、
合羽橋三、南元町三、七軒町一、吉岡一、
紀尾井一、日比谷二、錦町一、万世橋一、
内、破壊セ
京外橋一、東神田一、芝堀一、口留一、西久保一、

者ヲ出シタルコト殆ト無
傷者ハ或ハ暴民ノ投石ノ為メ
レテ退却スル除難者ノ為メニ押倒サレタル等ノ原
因ニ因テ生ケタル者ニシテ其ノ程度亦殆ント云フ
ニ足ラス
唯國民新聞社前ニ於テ警戒部隊ノ到着スル以前暴
民中社員ト格闘シテ傷ヲ蒙リ遂ニ一名ノ死者ヲ出
スニ至ルリ
警察官制止ノ際直接人民ノ負傷シタルモノハ並レ
無カリキ

民
事
ル
コ
ト
殆
ト
無
傷
者
ハ
或
ハ
暴
民
ノ
投
石
ノ
為
メ
レ
テ
退
却
ス
ル
除
難
者
ノ
為
メ
ニ
押
倒
サ
レ
タ
ル
等
ノ
原
因
ニ
因
テ
生
ケ
タ
ル
者
ニ
シ
テ
其
ノ
程
度
亦
殆
ト
云
フ
ニ
足
ラ
ス
唯
國
民
新
聞
社
前
ニ
於
テ
警
戒
部
隊
ノ
到
着
ス
ル
以
前
暴
民
中
社
員
ト
格
闘
シ
テ
傷
ヲ
蒙
リ
遂
ニ
一
名
ノ
死
者
ヲ
出
ス
ニ
至
ル
リ
警
察
官
制
止
ノ
際
直
接
人
民
ノ
負
傷
シ
タ
ル
モノ
ハ
並
レ
無
カ
リ
キ

都新聞社前ニ於テ暴民ハ愈々狂暴ヲ極ムルニ至リ
 警察官中暴行ヲ加ヘラレタルモ、多ク官越警視ハ
 面部ニ微傷ヲ負ヒ、白上警視ハ帽子肩章ヲ奪取セラ
 レ頭部ヲ殴打セラル、殊ニ消防隊ノ指揮ニ當リシ室
 田部長ハ面部ニ輕傷ヲ負フニ至リ、其ノ他警部消
 防士中負傷シタルモノ數カラズ、國民新聞社前ニ於
 テハ官越警視ハ再ヒ頭部ニ輕傷ヲ蒙リ、やまと新聞
 社ニ於テハ井田警視ハ暴民ノ爲メニ暴行ヲ加ラ
 シ之ヲ輕傷ヲ蒙ムルニ至リ、其ノ他巡查ニシテ
 ラ被ケラレテ鮮血滴ル者アリ
 以テ打セラレテ昏倒セントスル者アリ、殊ニ交番立
 込査中無數ノ暴民ニ包圍セラレテ單身屈セズ撃
 ニ力ヲ殆ニ盡シ全身ニ傷ヲ蒙ムルモ、尚ホ能ク防衛
 不從ヒ遂ニ昏倒シテ殆ニ起ツ能ハサルニ至ル迄
 其ノ職責ヲ完ウシタルモノアリ
 彼ノ箱崎警察署巡查山口勇作及今泉重吉ノ二名
 如キ或ハ万世橋警察署巡查新居保慶ノ如キ之ナリ

欠 損

而カモ川上警視總監ヨリ前述ノ如ク輕率妄動ス可
 ラストノ訓示ヲ與ヘラレタルヲ以テ警察官ハ應
 能ク慰撫ニカメ或ハ已ムヲ得ヌ鞠ノ終斂ヲ外ニテ
 カラ示シテ約五十餘名ノ人民側ニ負傷
 傷々或ハ制止セ